

新完全マスター 文法

日本語能力試験 N1



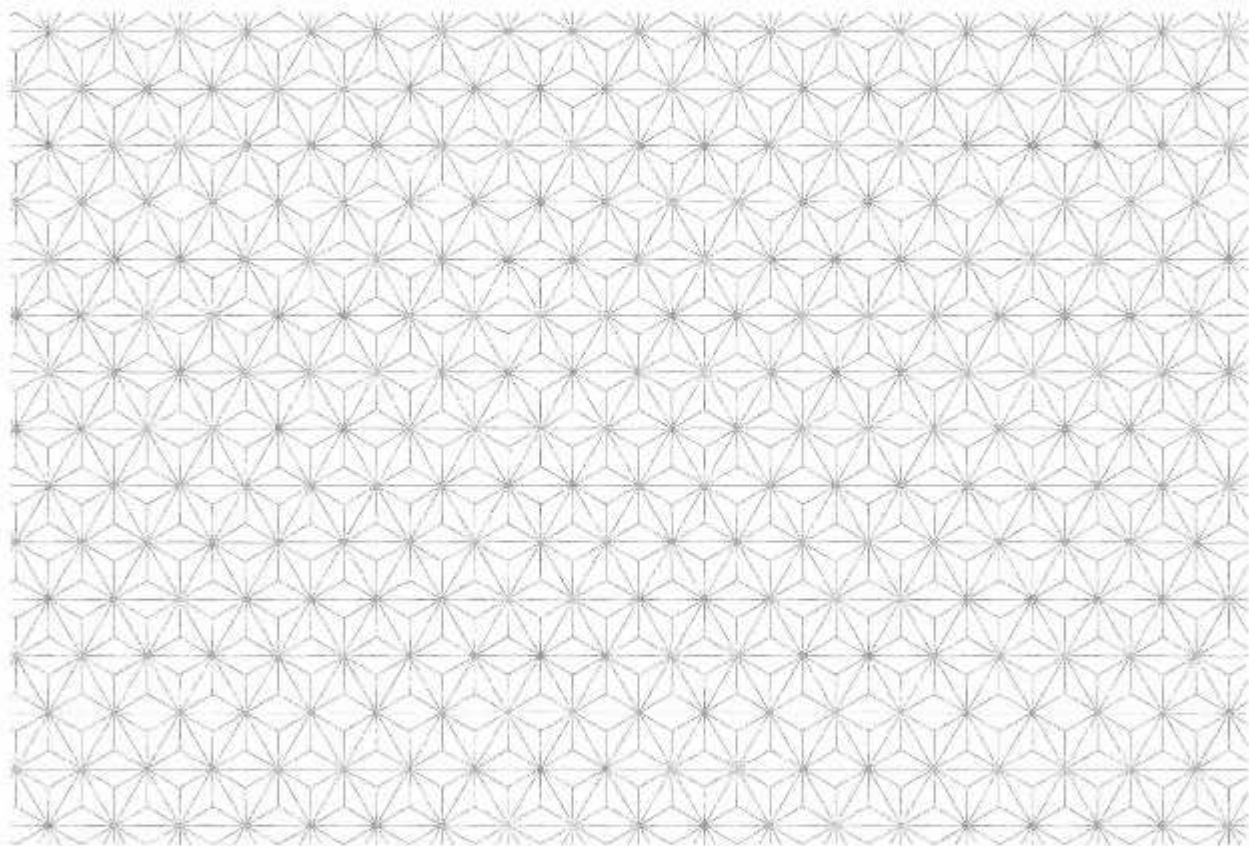
友松悦子・福島佐知・中村かおり 著

- N1レベルで必要な157の文法形式を学習。
- 問題形式ごとに、必要な知識やスキルを効率的に学ぶ。
- 充実した解説と練習問題で「文章の文法」に対応。

スリーイーネットワーク

新完全マスター 文法

日本語能力試験 N1



友松悦子・福島佐知・中村かおり 著

スリーイーネットワーク

©2011 by Tomomatsu Etsuko, Fukushima Sachi, and Nakamura Kaori

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.

Trusty Kojimachi Bldg., 2F, 4, Kojimachi 3-Chome, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083,
Japan

ISBN978-4-88319-564-0 C0081

First published 2011

Printed in Japan

はじめに

日本語能力試験は、1984年に始まった、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験です。受験者が年々増加し、現在では世界でも大規模の外国語の試験の一つとなっています。試験開始から20年以上経過する間に、学習者が多様化し、日本語学習の目的も変化してきました。そのため、2010年に新しい「日本語能力試験」として内容が大きく変わりました。新しい試験では知識だけでなく、実際に運用できる日本語能力が問われます。本書はこの試験のN1レベルの問題集として作成されたものです。

まず「問題紹介」で、問題の形式とその解法を概観します。次に「実力養成編」で、三つの問題形式別に、必要な言語知識を身につけるための学習をします。最後に「模擬試験」で、実際の試験と同じ形式の問題を解いてみることによって、どのくらい力がついたかを確認します。

■本書の特徴

- ①旧出題基準1級の文法形式に加え、N1レベルで必要だと思われるものも網羅
- ②文法形式の全体を概観できるように、主観を含む度合いによって大きく三つに分類
- ③やみくもに暗記するのではなく、効率的に整理して学習することを示唆
- ④丁寧な解説と豊富な練習問題（小説、エッセイ等多様な文章から作成）で「文章の文法」を充実

言語を必要とする課題を遂行するためには、言いたいことが伝わる文を、そして、意味のあるまとまりを持った文章を作るための文法的知識が必要です。私たちは日ごろの授業で、試験のためだけではなく、実際の言語生活で役に立つような文法学習はどうあるべきかを考え続けてきました。本書が日本語能力試験の受験に役立つと同時に、日本語を使って学習・生活・仕事をする際にも役立つことを願っています。

本書を作成するにあたり、第一出版部の田中綾子さん、佐野智子さんには鋭いご指摘とご助言を頂きました上、原稿を丁寧にみていただきました。心よりお礼申し上げます。

2011年6月 著者

はじめに
 ほんしょ つか かた
 本書をお使いになる方へ..... VIII

もんだいしやうかい
問題紹介

I ぶん ぶんぽう ぶんぽうけいしき ほんだん
 文の文法1 (文法形式の判断)..... 2
 II ぶん ぶんぽう ぶん く た
 文の文法2 (文の組み立て)..... 3
 III ぶんしやう ぶんぽう
 文章の文法..... 4

じつりよくやうせいへん
実力養成編

だい ぶ ぶん ぶんぽう
第1部 文の文法1

I こと が ら を せつめい 説明する☆

1 課 か じ かんかんけい
 時間関係..... 8
 1. ~が早いか
 2. ~や・~や否や
 3. ~なり
 4. ~そばから
 5. ~てからというもの(は)
 6. ~にあって
 2 課 か はん い ほん げん ど
 範囲の始まり・限度..... 12
 1. ~を皮切りに(して)・~を皮切りとして
 2. ~に至るまで
 3. ~を限りに
 4. ~をもって
 5. ~といったところだ
 3 課 か げんてい ひげんてい ふ か
 限定・非限定・付加..... 16
 1. ~をおいて
 2. ~ならでは
 3. ~にとどまらず

4. ~はおろか
 5. ~もさることながら
 4 課 か れいじ
 例示..... 20
 1. ~なり…なり
 2. ~であれ…であれ・
 ~であろうと…であろうと
 3. ~といい…といい
 4. ~といわず…といわず
 もんだい か か
 問題(1課~4課)..... 24
 5 課 か かんれん む かんけい
 関連・無関係..... 26
 1. ~いかんだ
 2. ~いかにかかわらず・
 ~いかによらず・~いかに聞わず
 3. ~をものともせず(に)
 4. ~をよそに
 5. ~ならいざしらず
 6 課 か ようす
 様子..... 30
 1. ~んばかりだ
 2. ~とばかり(に)
 3. ~ともなく・~ともなしに
 4. ~ながらに(して)
 5. ~きらいがある
 7 課 か ふずいこうどう
 付随行動..... 34
 1. ~がてら
 2. ~かたがた
 3. ~かたわら

Ⅱ しゆかん ふく せつめい 主観を含めて説明する☆☆

8課 か ぎやくせつ 逆接..... 36

1. ～ところを
2. ～ものを
3. ～とはいえ
4. ～といえども
5. ～おも思いきや

もんだい 問題(1課～8課)..... 40

9課 か じょうけん 条件..... 42

1. ～とあれば
2. ～たら^{さいご}最後・～たが^{さいご}最後
3. ～ようでは
4. ～なしに(は)・～なしでは・～なくして(は)
5. ～くらいなら

10課 か ぎやくせつじょうけん 逆接条件..... 46

1. ～(よ)うと(も)・～(よ)うが
2. ～(よ)うと～まいと・
～(よ)うが～まいが
3. ～であれ・～であろうと
4. ～たところで
5. ～ば～で・～なら～で・～たら～たで

11課 か もくてき しゅだん 目的・手段..... 50

1. ～べく
2. ～んがため(に)
3. ～をもって

12課 か げんいん りゆう 原因・理由..... 52

1. ～ばこそ
2. ～とあつて
3. ～ではあるまいし
4. ～^{てまえ}手前
5. ～ゆえ(に)

もんだい 問題(1課～12課)..... 56

13課 か かのう ふかのう きんし 可能・不可能・禁止..... 58

1. ～にかたくない
2. ～に～ない・～(よ)うにも～ない
3. ～て(は)いられない
4. ～べくもない
5. ～べからず・～べからざる
6. ～まじき

14課 か わだい ひょうか きじゆん 話題・評価の基準..... 62

1. ～ときたら
2. ～ともなると・～ともなれば
3. ～ともあろう
4. ～たるもの(は)
5. ～なりに

15課 か ひかくたいりゆう 比較対照..... 66

1. ～にひきかえ
2. ～にもまして
3. ～ないまでも

16 課 ^か 結末・最終の状態 ^{けつまつ さいしゅう じょうたい} 70

1. ～に至^{いた}って・～に至^{いた}っても
2. ～に至^{いた}っては
3. ～始^{しまつ}末だ
4. ～つばなしだ

問題(1 課～16 課) ^{もんだい} 74

17 課 ^か 強調 ^{きょうちよう} 76

1. ～たりとも…ない
2. ～すら
3. ～だに
4. ～にして
5. ～あつての
6. ～からある・～からする・～からの

Ⅲ ^{しゆかん} 主観を述べる☆☆☆

18 課 ^か 主張・断定 ^{しゆちよう だんてい} 80

1. ～までもない
2. ～までだ・～までのことだ
3. ～ばそれまでだ
4. ～には当^あたららない
5. ～でなくてなんだろう(か)

19 課 ^か 評価・感想 ^{ひようか かんそう} 84

1. ～に足^たる
2. ～に堪^たえる／～に堪^たえない
3. ～といつたらない
4. ～かぎりだ
5. ～極^{きわ}まる・～極^{きわ}まりない

6. ～とは

20 課 ^か 心情・強制的思い ^{しんじよう きようせいてきおも} 88

1. ～てやまない
2. ～に堪^たえない
3. ～ないではすまない・～ずにはすまない
4. ～ないではおかない・～ずにはおかない
5. ～を禁^{きん}じ得^えない
6. ～を余^よ儀^ぎなくされる／
～を余^よ儀^ぎなくさせる

問題(1 課～20 課) ^{もんだい} 92

Ⅳ ^{ぶんぽうけいしき せいり} 文法形式の整理

A	^{どうし いみ ちやくもく} 動詞の意味に着目 - 1	94
B	^{どうし いみ ちやくもく} 動詞の意味に着目 - 2	98
C	^{ふる ことば つか い かた} 古い言葉を使った言い方	100
D	「もの・こと・ところ」を ^{つか い かた} 使った言い方	102
E	^{ふた ことば くみ い かた} 二つの言葉を組にする言い方	104
F	^{じよし ふくごうじよし} 助詞・複合助詞	106
G	^{ぶんぽうてきせいしつ せいり} 文法的性質の整理	108

第2部 ^{だいふぶんぶんぽう} 文の文法2

1 課	^{か ぶん く た} 文の組み立て - 1 ^き 決まった形	112
2 課	^{か ぶん く た} 文の組み立て - 2 ^{めいし せつめい けいしき} 名詞を説明する形式	114
3 課	^{か ぶん く た} 文の組み立て - 3 ^{せつぞく ちゆうい} 接続に注意	116

だい ぶ ぶんしょう ぶんぽう
第3部 文章の文法

1 課	か じせい 時制.....	120
2 課	か じょうけん あらわ ぶん 条件を表す文.....	124
3 課	か してん うご してん 視点を動かさない手段 - 1 どうし つか かた 動詞の使い方、 じどうし たどうし つか わ 自動詞・他動詞の使い分け.....	128
4 課	か してん うご してん 視点を動かさない手段 - 2 「～てくる・～ていく」 つか わ の使い分け.....	132
5 課	か してん うご してん 視点を動かさない手段 - 3 うけみ しえき しえきうけみ 受身・使役・使役受身 つか わ の使い分け.....	136
6 課	か してん うご してん 視点を動かさない手段 - 4 「～てあげる・～てもらう・ ～てくれる」の使い分け.....	140
7 課	か し じ ひょうげん 指示表現 「こ・そ・あ」 つか わ の使い分け.....	144
8 課	か 「は・が」の使い分け.....	148
9 課	か せつぞくひょうげん 接続表現.....	152
10 課	か しょうりやく く かえ い か 省略・繰り返し・言い換え.....	156
11 課	か ぶんたい いっかんせい 文体の一貫性.....	160
12 課	か はなし なが かんが 話の流れを考える.....	164

も ぎ し けん
模擬試験

だい かい 第1回.....	170
だい かい 第2回.....	174

さくいん 索引.....	178
-----------------	-----

ほんしょ　つか　かた 本書をお使いになる方へ

ほんしょ　もくてき ■本書の目的

ほんしょ　い　か　てん　おお　もくてき
本書は以下の2点を大きな目的としています。

- ① ほん　ご　の　うりよく　しけん　たいさく　しけん　ごうかく　ちから
日本語能力試験N1対策：N1の試験に合格できる力をつける。
- ② ぶんぽう　の　うりよく　こうじょう　しけんたいさく　ぜんぱんてき　ぶんぽう　ちから
「文法」能力の向上：試験対策にとどまらない全般的な「文法」の力をつける。

に　ほん　ご　の　うりよく　しけん　ぶんぽうもんだい ■日本語能力試験N1文法問題とは

に　ほん　ご　の　うりよく　しけん　げん　ご　ちしき　どっかい　しけんじかん　ぶん　ちようかい　しけんじかん　ぶん　ふたつ
日本語能力試験N1は、「言語知識・読解」（試験時間110分）と「聴解」（試験時間60分）の二つに分かれており、文法問題は「言語知識・読解」の一部です。

ぶんぽうもんだい　い　か　みつ　ぶん　わ
文法問題はさらに以下の三つの部分に分かれます。

- I　ぶん　ぶんぽう　ぶんぽうけいしき　ほんだん
文の文法1（文法形式の判断）
- II　ぶん　ぶんぽう　ぶん　く　た
文の文法2（文の組み立て）
- III　ぶんしょう　ぶんぽう
文章の文法

ほんしょ　こうせい ■本書の構成

ほんしょ　い　か　こうせい
本書は、以下のような構成になっています。

もんだいしょうかい 問題紹介

じつりよくようせいへん　だい　ぶ　ぶん　ぶんぽう
実力養成編　第1部　文の文法1

- I　ことがらを説明する☆
しゅかん　ふく　せつめい
- II　主観を含めて説明する☆☆
- III　主観を述べる☆☆☆
しゅかん　の
- IV　ぶんぽうけいしき　せいり
文法形式の整理

だい　ぶ　ぶん　ぶんぽう
第2部　文の文法2

だい　ぶ　ぶんしょう　ぶんぽう
第3部　文章の文法

も　ぎ　しけん 模擬試験

い　か　しょうさい　せつめい
以下に詳細を説明します。

もんだいしょうかい　しけん　がいよう　けいしきべつ　かんたん　かいほう　し　ぜんたいぞう　がくしゅう　はじ
問題紹介　試験の概要と形式別の簡単な解法を知り、全体像をつかんでから学習を始めます。

じつりよくようせいへん　だい　ぶ　ぶん　ぶんぽう
実力養成編　第1部　文の文法1

N1レベルのぶんぽうけいしき　い　み　きのうべつ　がくしゅう
N1レベルの文法形式を意味機能別に学習します。どんな文脈でどのように使
うか、どんなぶんぽうてきせいしつ　も　どのようにせいり　おぼ　こうりつてき
かなどを例文と解説を通して学びます。各課に確認の練習問題(a～cの中から
もつ　よ　えら　か　がくしゅう　か　かくにんもんだい
最も良いものを選ぶ)があります。また、4課ごとに学習した課までの確認問題

があります。

第2部 文の文法2

文を組み立てるために必要な知識を学習します。決まった接続のし方をする文法形式、決まった言葉と一緒に使われる文法形式、名詞を説明するときの決まった形などの観点から整理して学習します。

第3部 文章の文法

視点を統一したり接続表現や指示表現などの助けを借りたりすることで、文章は意味のあるまとまりを持ちます。このような文章にまとまりを持たせるための方法を学習します。

模擬試験

実際の試験と同じ形式の問題です。N2のレベルも含め、実力養成編で学習した広い範囲から問題を作っていますから、総合的にどのぐらい力がついたかを確認することができます。

凡例

文を作るときは、それぞれの文型に合うように前に来る語の形を整えなければなりません。本書では接続の形を次のように表示しました。

品詞	接続する形	例
動詞	動ない形	言わない +までも (第1部15課)
	動な や	言わ +んばかりだ (第1部6課)
	動ま ず	つけ +っぱなしだ (第1部16課)
	動辞書形	の 飲む +なり (第1部1課)
	動ば形	あい 愛していれば +こそ (第1部12課)
	動う・よう形	お 起ころう +と (第1部10課)
	動て形	う 生まれて +からというもの(は) (第1部1課)
	動た形	せつめい 説明した +ところで (第1部10課)
	動ている形	てつた 手伝ってもらっている +手前 (第1部12課)
イ形容詞	イ形い	だらしない +といたらない (第1部19課)
	イ形ければ	くる 苦しければ +こそ (第1部12課)
ナ形容詞	ナ形	ざんねん 残念 +極まる (第1部19課)
	ナ形な	ざんねん 残念な +かぎりだ (第1部19課)
	ナ形 だ -である	しんちゆう 慎重である+の +にひきかえ (第1部15課)

	ナ形 -であれば	けんこう 健康であれば +こそ (第1部12課)
めいし 名詞	名 -の	こども 子供たちの +手前 (第1部12課)
	名 である	おや 親である +ゆえ(に) (第1部12課)
	名 -であれば	ははおや 母親であれば +こそ (第1部12課)
	名 する <small>(注)</small>	けんがく 見学 +かたがた (第1部7課)
その他	ふつうけい 普通形	と 取れた・静かになるだろう・静かな人だ +と思いきや (第1部8課)

(注) 名詞に「する」がつく動詞(報告する、普及するなど)の名詞部分 報告、普及

接続のし方は次のように表示しました。

例 「～にひきかえ」(第1部15課)

名・普通形(**ナ形** である・**名** である) +の +にひきかえ

① **名詞**に接続します。(名詞に直接接続します。)

例・この本の**主人公**にひきかえ、わたしはなんとだらしのないだろう。

② 「普通形+の」に接続します。

例・この本の主人公が人生について**真剣に考えているの**にひきかえ、わたしはなんとだらしのないだろう。

③ ただし、**ナ形容詞**と**名詞**の現在肯定形は「～だ」の形ではなく、「～な」の形に「の」をつけて、または「～である」の形に「の」をつけて接続します。

例・姉が**きれい好きなの**にひきかえ、妹はいつも部屋を散らかしている。

・会長が**自己中心的であるの**にひきかえ、副会長はだれとでも協調する好人物だ。

・父が買ってくれるものはいつも**安物なの**にひきかえ、母が買ってくれるものはいいものが多い。

・先方が**有名企業であるの**にひきかえ、当方は弱小企業だが、対等に話し合いたい。

* 「～な」を使うか「～である」を使うかは、その文の硬さによって決まることが多いです。硬い文では「～である」の方がよく使われます。

* **ナ形容詞**と**名詞**の現在肯定形の「～だ」を省略することがある場合は、(だ)で示してあります。

* 本書では、あまり使われない接続のし方は載せていません。

■ 解説で使われている記号と言葉

⇒ : 意味機能やどんな使い方をするかなどの説明

🔗 : 接続の仕方

⚠️ : 文法的性質などの解説

硬い言い方 : 日常の場面ではなく、公式の場で使う言い方

話し言葉 : 文書ではなく、主に会話に表れる言い方

書き言葉 : 会話ではなく、主に文書に表れる言い方

→ 第11課-③ : 「同じ形の文法形式が11課の③にあります」という意味

⚠️ 中の次の言葉は文法的な性質を学習する上での大切な言葉です。

働きかけの文 :

「～てください・～ましょう・～ませんか」など、話者が相手に何かをするように言う文

話者の希望・意向を表す文 :

「～たい・～(よ)うと思う・～つもりだ」など、話者があることをする気持ちを持っていることを表す文

■ 表記

基本的に常用漢字(1981年10月内閣告示)にあるものは漢字表記にしました。ただし、著者の判断でひらがな表記の方が良いと思われるものは例外としてひらがな表記にしています。例文は、このレベルで必要と思われる漢字に振り仮名を振りました。解説部分はすべての漢字に振り仮名を振っています。「文章の文法」の問題は、原典に従って振り仮名を振っています。

■ 学習時間

1課あたりの学習時間の目安は以下の通りです。ただし、丁寧にゆっくり進むかスピードアップするかによって時間数を加減することはできるでしょう。

第1部 1課～20課	1課につき	50分授業 × 2コマ
第1部 A～G	1課につき	50分授業 × 1コマ
第2部	1課につき	50分授業 × 1コマ
第3部	1課につき	50分授業 × 2コマ

問題紹介

にほんごのうりよくしけん ぶんぽう
日本語能力試験の「文法」では

I ぶん ぶんぽう ぶんぽうけいしき はんたん
文の文法 1 (文法形式の判断)

II ぶん ぶんぽう ぶん く た
文の文法 2 (文の組み立て)

III ぶんしょう ぶんぽう
文章の文法

みつ けいしき もんだい しゅつだい もんだいけいしき とくちょう み
の三つの形式の問題が出題されます。それぞれの問題形式の特徴を見て

いきましょう。

ぶん い み かんが あ ぶんぼうけいしき ほんだん もんだい
文の意味を考え、それに合う文法形式を判断する問題です。

もんだい
問題のタイプは、

- ぶん ないよう あ ぶんぼうけいしき えら もんだい れいだい
・文の内容に合う文法形式を選ぶ問題【例題1】
- ぶん ないよう あ つか かた えら もんだい れいだい
・文の内容に合う使い方をしているものを選ぶ問題【例題2】

があります。例題を見てみましょう。

次の文の()に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

【例題1】

今度の選挙に落選した()、二度と政界には戻れないだろう。

- 1 が最後 2 が早いか 3 ものなら 4 とたんに

【例題2】

会社に入ってからというもの、()。

- 1 ゆっくり釣りに行く時間もない 2 ゆっくり釣りに行く時間がほしい
3 一度課長と釣りに行こうと思っている 4 一度課長と釣りに行ったことがある

【例題1】では、まず()の前後のことがら(「落選した」と「政界に戻れない」)の関係を考え、さらに文末の「～だろう」から、未来の予測を表している文だと考えます。「落選した」という動詞の形につく文法形式であることも重要です。正しい答えは「1 が最後」です。

【例題2】の文法形式「～からというもの」は「何かをしてからずっと同じ状態が続いている」ことを表します。正しい答えは、「1 ゆっくり釣りに行く時間もない」です。

このタイプの問題では、文法形式の意味機能や接続の形、文法的性質とともに、文の内容が

- 未来の予測なのか、1度だけの過去の出来事なのか、または続いている状態なのか
- 話し手の主観を述べているのか、ことがらを説明しているのか

などを考える必要があります。一つの文法形式ではなく、文法形式が組み合わさった形で出題されることもあります。

この部分については「実力養成編 第1部 文の文法1」で詳しく学習します。

ふくすう ごく なら か ぶんぼうてき ただ い み とお ぶん つく もんだい よつ せんたくし
 複数の語句を並べ替えて、文法的に正しく、意味の通る文を作る問題です。四つの選択肢のうち
 ★の位置に当たるものがどれかを選びます。例題を見てみましょう。

次の文の ★ に入る最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

【例題3】

明日の _____ ★ _____ はございません。

- 1 発車時刻の 2 線路の点検 3 変更 4 に伴う

【例題4】

困ったときに _____ ★ _____ 力になりたいと思います。

- 1 あなたの頼み 2 ぜひ 3 とあれば 4 助けてくれた

【例題3】では「～に伴う」という文法形式を手がかりに、その前後にどんな言葉が来るかを考えます。「～に伴う」の前には名詞の2か3が来ますが、どちらになるかは文の意味を考えて判断します。論理的な文は「明日の線路点検に伴う発車時刻の変更はございません」なので、★に当たるのは「1 発車時刻の」です。

【例題4】では「～とあれば」という文法形式を手がかりに判断します。この形式の前には名詞の1と動詞の普通形の4のどちらも来る可能性があります。文の意味を考えると、「困ったときに助けてくれたあなたの頼みとあればぜひ力になりたいと思います」が最も適切です。ですから、★に当たるのは「3 とあれば」です。

このように、このタイプの問題では「実力養成編 第1部 文の文法1」で学ぶ表現の意味機能はもちろん、

- ・その文法形式につく品詞
- ・接続の形

などの知識が重要です。

この部分については「実力養成編 第2部 文の文法2」で詳しく学習します。

まとまった長さの文章の中で、その文脈に合う文法形式などを選ぶ問題です。

- ・文法的に正しい文にするにはどうすればいいかを文章の中で判断する問題
- ・文章としてのまとまりを持たせるにはどうすればいいかを判断する問題

があります。例題を見てみましょう。

【例題5】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、 から の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

ぼくは、言語には二種類あると考えています。

ひとつは他人に何かを伝えるための言語。もうひとつは、伝達ということは二の次で、自分だけに 言語です。

たとえば、美しい風景を目で見て「きれいだね」と誰かに 。これは、自分の視覚が感じた内容を指し示し、ほかの人に伝える言葉です。自分の心が感じた内容を表現してはいるのですが、それを他人と共有するという要素も同じくらい大きい。これが第一の言語です。

、たとえば胃がキリキリ痛んで、思わず「痛い！」と口に出てしまったとする。この時の言葉は、他人に伝えることは二の次です。、意味を指し示して他者とコミュニケーションするためではなく、自分が自分にもたすために発した言葉である要素が強いのです。と考えます。

(吉本隆明『ひきこもれ ひとりの時間をもつということ』大和書房による)

- | | | | |
|--|-------------------|-------|--------|
| <input type="text" value="1"/> 1 通じればいい | 2 通じてもいい | | |
| 3 通じてほしい | 4 通じたがる | | |
| <input type="text" value="2"/> 1 言ったものです | 2 言ったとします | | |
| 3 言ったことです | 4 言ったわけです | | |
| <input type="text" value="3"/> 1 それに対して | 2 それにもまして | | |
| 3 それに反して | 4 それ以上に | | |
| <input type="text" value="4"/> 1 さらに | 2 とはいえ | 3 つまり | 4 もしくは |
| <input type="text" value="5"/> 1 第二の言語がこれである | 2 これはぼくが、第二の言語である | | |
| 3 第二の言語ならこれである | 4 これをぼくは、第二の言語である | | |



【例題5】の①は、「自分だけに①」が「伝達ということは二の次」と似た内容を表すにはどんな文法形式を選ばいいかを考えます。正しい答えは「1 通じればいい」です。②は「たとえば」を手がかりにします。ここでの例は仮定の話と考えるのが自然なので、正しい答えは「2 言ったとします」になります。③と④はそれ以前の部分との内容のつながりを考え、適切な接続表現を選ぶ問題です。③は対比を表す「1 それに対して」、④は言い換えを表す「3 つまり」が正しい答えです。⑤はこの段落の内容をまとめる文として適当なものを考えます。ここでは特に伝えたい情報は何かを反映する「は」「が」の使い方が重要になっています。正しい答えは「4 これをばくは、第二の言語である」です。

この問題形式で問われる文脈における文法の使い方とは、例えば次のようなものです。

- ・ある表現と一緒に使われる表現がわかる

例 この問題は難しくないと。 { そんなに } 時間がかかるようでは困るよ。
 { × たとえ }

たとえみんなに変な目で { 見られようと、わたしは平気だ。
 { × 見られたとすると、わたしは恥ずかしい。 }

- ・その文脈での条件に合う形式がわかる

例 今ではとても後悔している。本当のことを { 言えばよかったのだ。
 { × 言えばいいだろう。 }

- ・その文脈での書き手の表現意図に合う形式がわかる

例 駅からは歩いて5分ぐらいだ。タクシーに { 乗るまでもないよ。
 { × 乗るしかないよ。 }

- ・その文脈に合う視点を選ぶことができる

例 荷物を { 送った } 人から、届いたという連絡が来た。
 { × 送られた }

- ・文と文のつながりを正しく判断することができる

例 CDが売れない時代だ。 { にもかかわらず } このCDは100万枚も売れた。
 { × それゆえに }

これらの項目については「実力養成編 第3部 文章の文法」で詳しく学習します。

実力養成編

第1部 文の文法1

ぶんぼうけいしき いみ ようほう し することは、言いたいことを正確に伝える文
をつくるための基本です。また、ある文章を読んで正確に理解するためには、
やく た 立ちます。そのぶんぼうけいしき つか いみ とお ぶん つく するためには、
いみ だけでなく、どんなご 語、どんなかつようけい 結びつくのか、また、ぶん
をつくる時にどんなきそく 規則を守らなければならないかなどについてがくしゅう
ひつよう する必要があります。

- 〔復習〕 ・玄関のドアを開けたとたん、犬が飛び出してきた。
 ・空が急に暗くなったかと思うと、大粒の雨が降ってきた。
 ・この町に引っ越してきて以来、毎日駅まで20分歩いています。

1 ~が早いか

⇒~するとすぐ続いて次のことが起こる。

- ①海外旅行に出発の日、山田さんは空港に着くが早いか、コンビニに駆け込んだ。
- ②うちの子はいつも学校から帰ってきて、かばんを放り出すが早いか、遊びに行ってしまう。
- ③今朝、寝坊した夫は、朝ご飯を口に押し込むが早いか、玄関を出ていった。
- ④話題のその本は、店頭と並べられたが早いか、飛ぶように売れていった。

🔗 動 辞書形/た形 +が早いか

⚠ 瞬間的なことを表す動詞につく。後には、少し意外感がある事実を表す文が来る。話者の希望・意向を表す文や働きかけの文は来ない。

2 ~や・~や否や

⇒~とほとんど同時に次のことが起こる。

- ①わたしはその人の顔を一目見るや、30年前に別れた恋人だと気がついた。
- ②子供たちは唐揚げが好物で、食卓に出すや、あっという間になくなってしまふ。
- ③選挙戦が始まるや否や、あちこちからにぎやかな声が聞こえてきた。
- ④この病気の新しい治療法が発表されるや否や、全国の病院から問い合わせが殺到した。

🔗 動 辞書形 +や・や否や

⚠ 瞬間的なことを表す動詞につく。後には、事実を表す文が来る。話者の希望・意向を表す文や働きかけの文は来ない。

3 ~なり

⇒~という動作にすぐ連続して次のことをする。

- ①彼はコーヒーを一口飲むなり、吐き出してしまった。
- ②課長は部屋に入ってくるなり、大声でどなった。
- ③田中さんは携帯電話を切るなり、わたしを呼びつけた。

🔗 動 辞書形 +なり

⚠ 後には、少し意外感がある意志的な動作を表す文が来る。主語はふつう三人称で、前後の主語は同じ。



4 ~そばから

⇒～をしても、すぐにそれに対抗^{たいこう}するような動き^{うご}があり、それを何度も繰り返^{かえ}す。

- ①毎日返事を書くそばから次々に新しいメールが来る。
- ②このテキストは漢字が多くて大変だ。調べたそばから新しい漢字が出てくる。
- ③月末になると、払ったそばからまた別の請求書^{せいきゅうしょ}が来る。

🔗 動 辞書形/た形 +そばから

⚠️ 良くないことに使うことが多い。

5 ~てからというもの(は)

⇒～してからある変化^{へんか}が起こり、その後ずっと同じ状態^{おなじじょうたい}が続^{つづ}いている。

- ①娘が大学に入り家を出ていっててからというもの、家の中が寂^{さび}しくなった。
- ②子供が生まれててからというものは、子供のおもちゃばかり見て歩いています。
- ③日本に来ててからというものは、国の家族のことを思わない日はない。

🔗 動 て形 +からというもの(は)

⚠️ あまり近い過去^{ちかかこ}からの期間^{きかん}には使わない。後^{あと}には、変化^{へんか}後の状態^{じょうたい}が継続^{けいぞく}していることを表す文^{あやふん}が来る。

6 ~にあって

⇒～のような特別な状況^{とくべつじょうきょう}だからこそあることが起こる・～のような特別な状況^{とくべつじょうきょう}でもあることが起こる。硬い言い方

- ①らくでは乾燥地^{かんそうち}にあって、こぶに栄養^{えいよう}を蓄^{たくわ}えることによって生き延び^{いの}ているのである。
- ②明治時代^{めいじ}の初め、日本はまさに発展途上期^{はつてんとじょうき}にあって、みな生き生きとしていた。
- ③最近^{ふきょうか}の不況下^{ふきょうか}にあっても、この会社の製品は売れ行きが落ちていない。

🔗 名 +にあって

⚠️ 状況^{じょうきょう}・時期^{じき}・場所^{ばしょ}などを表す名詞^{めいし}につく。後^{あと}には、①②のようにその状況^{じょうきょう}でないと起こらないようなことを言う文^{いぶん}、または③のようにその状況^{じょうきょう}に反^{はん}することを言う文^{いぶん}が来る。その場合「～にあっても」という形^{かたち}になることもある。



5

- 1 ()というもの、体の調子がいい。
a 朝起きてから b たばこをやめてから c さつき薬を飲んでから
- 2 あの先生の話聞いてからというもの、()。
a 人生についていろいろ考えている b 先生の著書ちよしよを3冊買った
c 先生の考えどうかんに同感した
- 3 会社を辞めてからというもの、()。
a 新しい仕事を始めた b 初めて外国旅行をした c 毎日のように釣つりりをしている

6

- 1 木村氏しは()にあつて、日々多忙なスケジュールをこなしている。
a 一国の指導者いっこく b 一国の指導者という立場 c 二つの仕事
- 2 母は()にあつて、子供たちのことを心配している。
a 病床びやうじょう b 仕事しごと中 c 多忙な日常
- 3 このような緊急時きんきゅうじにあつても、()。
a 彼は驚おどろいている b わたしは彼を探した c 彼は落ちついている

1~6

- 1 彼は不正たいしよくが()退職した。
a ばれるが早いか b ばれてからというもの c ばれるそばから
- 2 父はわたしの顔を一目ひとめ()笑い出した。
a 見てからというもの b 見るなり c 見たそばから
- 3 片付ける()、子供たちがまた部屋を散らかす。
a が早いか b そばから c なり
- 4 サッカーのワールドカップを一度()、僕はサッカーに夢中になっている。
a 見るや否いなや b 見るなり c 見てからというもの
- 5 入場の受け付けが()、係の人たちは急に忙しくなった。
a 始まるや否や b 始まってからというもの c 始まるそばから
- 6 行方不明ふみめいの子が見つかったという知らせが()、家族は泣き出した。
a 入るや b 入るそばから c 入ってからというもの

- 〔復習〕 ・春になると、桜をはじめとしていろいろな花が咲く。
 ・チームのためにできるかぎりのことをしたいと思います。
 ・今年限りでこの仕事を辞めます。

1 ~を皮切りに(して)・~を皮切りとして

⇒~から始まって次々に何かをする。

- ①この作家は自分の父親のことを書いた小説を皮切りに、次々に話題作を発表している。
 ②わたしたちのバンドは来月3日の東京公演を皮切りにして、全国ツアーを予定しています。
 ③K銀行とM銀行の合併を皮切りとして、ここ数年企業の合併・統合が相次いで行われている。

🔗 名 +を皮切りに(して)・を皮切りとして

- ⚠️ 後には、同じような行動や出来事が次々に起こり、発展していくという意味の文が来る。一続きであることがはっきりしている場合に使う。自然現象や良くないことにはあまり使わない。

2 ~に至るまで

⇒~という意外なことにまで、あることの範囲が及ぶ。

- ①わたしの学校は服装に厳しい。制服の着方ももちろん、ヘアスタイルやスカートの長さに至るまで注意される。
 ②今度の旅行のスケジュール表は綿密だ。起床時間から飛行機内の食事開始時間に至るまで書いてある。
 ③父の趣味は料理です。食材も自家製でないと気が済まないらしく、みそ、豆腐に至るまで自分で作ります。

🔗 名 +に至るまで

- ⚠️ 普通ならあまり取り上げられない意外なことを表す言葉につき、範囲が広く及んでいることを強調する。範囲の広さを表すため、①のようにまず取り上げられそうな例を「~はもちろん」で示したり、②のように全く別の種類の例を「~から」で示したりすることも多い。



3 ～を限りに

⇒～の時^{とき}までで、それまで続^{つづ}いていたことを終^おわりにする、と宣^{せんげん}言^{げん}する。

- ①本^{ほんねんど}年度^どを限^{かぎ}りにこの講^{こうぎ}座^ざの受^{じゆ}講^{こう}生^{せい}募^ぼ集^じを行^おわな^いことにな^なりました。
- ②今日^{けふ}を限^{かぎ}りにたばこをやめ^やめ^めろぞ!
- ③これ^{これ}を限^{かぎ}りにお前^{まえ}とは親^{おや}子^この縁^{えん}を切^きる。以^い後^ご親^{おや}でもな^なく、子^こでもな^ない。

🔗 名 +を限りに

⚠ 時^{とき}を表^{あらわ}す言^{ことば}葉^は (今^{きょう}日^じ・今^{こん}回^{かい}・本^{ほん}年^{ねん}度^どなど)につ^つくこ^ことが^が多^{おほ}い。

4 ～をもって

→11課・3

⇒～の時^{とき}までで、ある行^{ぎょうじ}事^じやそれまで続^{つづ}いていたことを終^おわりにする、と宣^{せんげん}言^{げん}する。

🔗 硬^{こわ}い言^ごい方^{かた}

- ①これ^{これ}を^もつて第^{だい}35回^{かい}卒^{しゅう}業^{ぎょう}証^{しやう}書^{しょ}授^{じゆ}与^ぎ式^{しき}を^お終^しわ^りま^す。
- ②2月^{にがつ}20日^{にち}を^もつて願^{がん}書^{しょ}受^{じゆ}け^け付^{つけ}けを^し締^しめ^き切^きり^ます。遅^{おそ}れな^ないよ^ように^し出^でし^てく^ださ^い。
- ③当^{とう}店^{てん}は9月^{くがつ}末^{まつ}日^{にち}を^もち^まし^て閉^へ店^{てん}さ^せて^いた^だき^まし^た。長^{なが}い間^{かん}の^ご利^り用^{よう}あ^りが^とう^ござ^いま^した。

🔗 名 +をもって

⚠ 時^{とき}・期^き日^{じつ}を表^{あらわ}す言^{ことば}葉^はにつ^つく。公^{こう}式^{しき}的^{てき}な硬^{こわ}い言^ごい方^{かた}で、日^{にち}常^{じょう}のこ^ことに^は使^{つか}わ^ない。

5 ～といったところだ

⇒程^{ていど}度^どは最^{さい}高^{こう}でも～で、あ^たま^り高^{たか}く^ない。

- ①当^{とう}地^ちは夏^{なつ}もそれ^{それ}ほ^ほど暑^{あつ}くあ^あり^ませ^ない。最^{さい}高^{こう}に暑^{あつ}い日^{にち}でも26、7度^どと^いつ^つた^とこ^ころ^ろです。
- ②この山^{やま}歩^{ある}き会^{かい}では毎^{まい}月^{げつ}山^{さん}歩^{ある}きを^お行^おつ^つて^いま^すが、参^{さん}加^か者^{しや}は毎^{まい}回^{かい}せ^せい^ぜい6、7人^{にん}と^いつ^つた^とこ^ころ^ろです。
- ③休^{やすみ}みがあ^あつ^つてもほ^{ほと}ん^ど遠^と出^では^しま^せな^い。せ^せい^ぜい1泊^{ぱく}で温^{おん}泉^{せん}に^いく^くと^いつ^つた^とこ^ころ^ろで^しょう^か。

🔗 名・動 辞^じ書^{しょ}形^{けい} +と^とい^いつ^つた^とこ^ころ^ろだ

⚠ あ^あま^まり^り多^たく^くな^ない^い数^{すう}字^じや少^{すく}な^ない^いこ^こと^とを表^{あらわ}す言^{ことば}葉^はにつ^つく。

1

- 1 その宇宙飛行士の講演会は()を皮切りに、130か所で行われた。
 a 北海道 b 外国 c 全国
- 2 この選手は昨年さくねんの地区大会入賞にゅうしょうを皮切りに、()。
 a ますます練習れんしゅうに励はげんでいる b 今年も入賞が期待される
 c いくつもの大会で好成績こうせいせきを残している
- 3 山田さんの発言はつげんを皮切りにして、()。
 a 皆さんが意見を言ってください b みんなが次々に意見を言った
 c 川田さんも意見を言った
- 4 中川さんは10年前の個展こてんを皮切りとして、()。
 a いろいろところで個展を開いている b その後2度個展を開いた
 c 1度も個展を開いていない
- 5 わたしは退職たいしょくの記念旅行を皮切りとして、()。
 a 旅行が老後の趣味しゅみになった b 国内、国外をあちこち旅行している
 c 旅行会社に勤め始めた

2

- 1 小林先生には卒業後の進路しんろはもちろん、()に至るまで何でも相談している。
 a 勉強 b 宿題のやり方 c 恋愛の悩み
- 2 外国で暮らすことになったので、()に至るまでみんなりサイクルショップに売った。
 a ベッドからスプーン b 皿からカップ c 雑誌から本
- 3 ゆみさんは天気はもちろん、()に至るまで日記に書き留かきとめているそうだ。
 a その日の自分の行動 b その日の朝、昼、晩の気温 c その日の出来事

3

- 1 この店は()を限りに閉店へいてんするそうだ。
 a 今月 b 今月まで c あと一月
- 2 わたしは今日を限りに()。
 a この会社の社員しゃいんです b この会社を辞めます c 新しい会社に入社します
- 3 この高校は今年を限りに()ことになっている。
 a 開校かいこうされる b 生徒数が増加する c 生徒を募集しない

〔復習〕 ・70歳以上の方に限り、入場は無料。

- ・この商品リストを見る限りでは、この製品は今ももう販売されていません。
- ・彼はストレスのため、心ばかりか体も不健康になってしまった。
- ・ひろ子さんは誠実な上に、よく気配りをする人だ。

1 ~をおいて

⇒~のほかに、同じぐらい高く評価できるものはいない・ない。

- ①今、こんな素晴らしい色使いの染色ができる人は、彼をおいてほかにいない。
- ②日本で世界的な平和会議を行うなら、広島か長崎をおいてほかに候補地は考えられない。
- ③毎年夏にはこのホテルに来ている。心からくつろげる場所はここをおいてほかにない。

🔗 名 +をおいて

⚠️ 話者が高く評価しているものを表す言葉につく。後には、「いない・～ない」という言葉が来る。

2 ~ならでは

⇒~だけがそのような素晴らしいことを実現できる。

- ①さすが歌舞伎俳優の一之助さんならではの演技だ。ほれほれするほどリアリティーがある。
- ②ぜひ一度ヨットに乗ってみてはいかがですか。この体験はハワイならではですよ。
- ③この布製の袋にはぬくもりが感じられる。手作りならではだと思う。
- ④100年続いた老舗ならでは出せないこの味の良さ！ 店主が変わっても全く味が落ちていない。

🔗 名 +ならでは

⚠️ 話者が高く評価しているものを表す言葉につく。「~でなければ実現できない」と言いたいときに使う。ふつう、「~ならではの…だ・~ならではだ」という形で使う。

3 ~にとどまらず

⇒~の範囲に収まらないで、もっと広く及ぶ。

- ①マスメディアによる情報というものは、今や一国にとどまらず、世界中に伝わる。
- ②農作物は、台風に襲われた直後にとどまらず、一年中その影響を受ける。
- ③一人の人間の明るさは、場を明るくするにとどまらず、周囲の人々に心身の活力をも与える。

🔗 名・動 辞書形 +にとどまらず

⚠️ 限られた範囲やある現象を表す言葉につく。後には、それを含むより広い範囲を表す文が来る。



4 ~はおろか

⇒~はもちろん、程度が違うほかのことにも同じことが言える。

- ①手間がかかる料理はおろか、日常の簡単な料理を作るのさえ面倒だ。
- ②小売店を取り巻く状況は厳しい。町の専門店はおろか、有名デパートの閉店も相次いでいる。
- ③わたしは花粉症がひどくて、外ではおろか、家の中でさえマスクがはずせない。

🔗 名 (+助詞) +はおろか

⚠️ 「~」を当然のこととして取り上げ、それよりも程度が上の場合の状態を強調する。全体としてマイナスイメージの文になりやすい。後の文には、程度が上であることを強調する言葉(も・さえ・までなど)が使われることが多い。

5 ~もさることながら

⇒~もそうだが、それに追加して、もっと強調したいことがある。

- ①この作家が書くものは、鋭い感性もさることながら、注意深く選ばれた語彙と文の運び方が素晴らしい。
- ②彼は人柄もさることながら、その頭の働きの良さで周囲の人をぐいぐい引っ張っていく。
- ③若者の政治的無関心もさることながら、社会全体に政治に対する無力感が広がっているような気がする。

🔗 名 +もさることながら

⚠️ 後には、「~」よりも強調したいことを表す文が来る。

1

- 1 これほど多種多様な機能を持ったものは、わが社の()をおいてほかにはないと自負しております。
- a この製品だけ b 製品の素晴らしさ c この製品
- 2 この力仕事を任せられる人は、()をおいてほかにはいない。
- a 山口さん b 男性 c わたし
- 3 わたしがやっていけそうな仕事は、教師をおいて()。
- a ほかにあるだろうか b ほかにあるまい c わからない

2

- 1 この絵には、()ならではの純真さがあると思う。
- a 子供 b 大人 c わたし
- 2 こんな()字は、林さんならではだ。
- a 間違っている b 下手な c 素晴らしい
- 3 会の最後に木村さんが詩を読んだ。この道のプロならではの朗読に、わたしは()。
- a 少し不満だった b あまり期待していなかった c とても感動した

3

- 1 母のケーキ作りは単なる趣味にとどまらず、()までになった。
- a おいしくできる b 自分の店を開く c いろいろな店のケーキを食べる
- 2 鈴木氏の研究成果は()にとどまらず、広く産業界でも注目されている。
- a 専門の学会内 b 日本国内 c 世界中の研究機関
- 3 今、この服は()大人気だそうだ。
- a 女性にとどまらず男性には b わたしにとどまらず母にも c 一部の女性にとどまらず多くの人に



4

- 1 うちの父は()母に任せている。
a 家事はおろか自分の着る物のことさえ b 身の回りのことはおろか家の掃除さえ
c 自分の仕事はおろか子供の教育さえ
- 2 当時はお金がなかったので、()はおろか^{がくひ}学費もぎりぎりだった。
a 遊ぶお金 b ^{しょくひ}食費 c アルバイト代
- 3 わたしは外国旅行はおろか()。
a 国内では何度も旅行した b 住んでいる県から出たこともない
c 県外にはあまり行かない

5

- 1 その国では、()もさることながら、^{でんとうてき}伝統的な工芸品の買い物が楽しめる。
a ^{にせもの}偽物の商品 b 観光 c ^{ちあん}治安の悪さ
- 2 試合に勝つには選手の実力もさることながら、()。
a 運も必要なのだ b 運は関係ないのだ c 運が良かったのだ

1~5


- 1 彼の^{しゅみ}趣味は広い。料理を()、料理に合う^{しょくぐ}食器を作ることも趣味だと言う。
a 作るにとどまらず b 作るに限らず c 作るとは限らず
- 2 この景色は^{ふじさん}富士山の頂上()のものだろう。よく見ておこう。
a 限り b ならでは c をおいて
- 3 この病気を治す方法は、今のところ手術()ほかにないのです。
a をおいて b ならでは c はおろか
- 4 わたしはスペイン語では会話()簡単なあいさつもできない。
a をおいて b はおろか c にとどまらず
- 5 ^{ねんきん}年金の問題()、^{しょうしかたいさく}少子化対策は政府の大きな^{かだい}課題である。
a はおろか b をおいて c もさることながら

- 〔復習〕 ・パーティーの後の部屋には、ビールびんやらお菓子の箱やらが散らかっていた。
 ・彼の考えはまじめすぎるというかものを知らなすぎるというか、とにかく現実的ではない。
 ・動物にしても植物にしても、子孫を残すためのし組みには感心する。

1 ~なり…なり

⇒～でもいいし…でもいいから、なに何かをする。

- ①昼休みは40分しかないんだから、おにぎりなりサンドイッチなり何か買って早く食べたほうがいい。
 ②お手伝いできることはいたしますよ。わたしになり兄になり言ってください。
 ③言葉の意味がわからなかったらわからないままにしないで、辞書で調べるなりインターネットで探してみるなりしてみたらどうですか。
 ④この魚、僕が釣ったんだ。焼くなり煮るなりして食べてみて。

 名 (+助詞)・動 辞書形 +なり

⚠ 同じ意味のグループに入る例を並べる。「何でもいい」と特定を避けて提案を示す言い方。後には、過去形の文は来ない。話者の希望・意向を表す文や働きかけの文が来る。

2 ~であれ…であれ・～であろうと…であろうと

→10課-③

⇒～でも…でも関係なく、同じ種類のものにはみんな同じことが言える。

- ①地震であれ火事であれ、緊急の場合に冷静になれる人は少ないだろう。
 ②文学であれ音楽であれ、芸術には才能が必要なのだ。努力だけではだめなのだ。
 ③禁煙であれ禁酒であれ、周りの人の協力が大切だと思う。
 ④ビールであろうとワインであろうと、酒は酒だ。運転前に絶対飲んではいけない。

 名 +であれ

⚠ 関係ないばらばらの例ではなく、同じ意味のグループに入る例を並べる。



3 ~といい…といい

⇒～を見ても…を見ても同じような状態だ。

- ①この映画は映像の美しさといい音楽の素晴らしさといい、最高の作品だ。
- ②中島さんといい松本さんといい、うちの課の人はみんな話が面白い。
- ③この虫は色といい形といい、木の葉にそっくりだ。

名 +といい

! 同じ意味のグループに入る例を並べる。後には、状態を述べる文(話者の評価を述べる形容詞文など)が来る。話者の希望・意向を表す文や働きかけの文は来ない。

4 ~といわず…といわず

⇒～も…も区別なく全部・あらゆる所・いつも、同じようだ。

- ①砂浜で遊んでいた子供たちは、手といわず足といわず全身砂だらけだ。
- ②室内で犬を飼っているので、廊下といわず部屋の中といわず家中犬の毛が落ちている。
- ③営業マンの島田さんは平日といわず週末といわず休む暇なく社外に出て働いている。

名 +といわず

! 同じ意味のグループに入る例を並べるが、時間的・空間的につながりがある言葉の組み合わせ(昼と夜・手と足など)が多い。後には、状態を表す文だけでなく、③のように動詞の文も来る。マイナスイメージの文が多い。否定文や働きかけの文は来ない。

1

- 1 あの部屋はかなり寒いから、長い時間いるなら上着なり()なりが必要だろう。
 a 暖房だんぼうをつける b ひざ掛かけ c 防寒ぼうかん
- 2 着ない服は人にあげるなりフリーマーケットに出すなりして、()。
 a 整理した b 整理したことがある c 整理しよう
- 3 1年に2、3度、ハイキングなりキャンプなり遊びに()。
 a 行きませんか b 行きました c 行くことに決まった
- 4 電話なりメールなり()。
 a どちらで知らせますか b 知らせる方法はあるはずですよ
 c 知らせる方法が何もない

2

- 1 社長であろうと()であろうと、自分の会社を大切に思っているはずだ。
 a 正社員せいしゃいん b 平社員ひらしゃいん c サラリーマン
- 2 検査の結果、ある病気が見つかった。これから先、通院つういんであれ入院であれ()。
 a 心配ごとが増える b することになった c 選ばなければならない
- 3 与党よとうであれ野党やとうであれ、()。
 a わたしは選挙せんきよの結果に関心がある b 選挙でどちらが勝つだろうか
 c 選挙戦をしっかりと頑張がんばってほしい

3

- 1 ()、このパソコンは最高だ。
 a 機能といい大きさといい b 簡単だといい値段といい c 便利だといい安いといい
- 2 庭げんかんといい玄関げんかんといい、()。
 a きれいに掃いてください b ごみだらけだ
 c 掃除しなければきれいにならない
- 3 この地方は山といい川といい、()。いつか行ってみたい。
 a たくさんある b 今の季節はとてもきれいだ c テレビで紹介された
- 4 水泳といいテニスといい、()。
 a スポーツはみな楽しい b わたしは子供に習わせている c わたしはやったことがない

- 〔復習〕 ・わたしはその日の^{たいちよう}体調によって散歩のコースを変えています。
- ・ご予算に応じてパーティーのメニューを考えます。
 - ・明日は天候にかかわらず、外で実験をします。
 - ・あの人たちはほかの人が聞いているのもかまわず、部長の悪口を言っている。

1 ~いかなだ

⇒～がどうであるかによって事態が変わる・事態が決まる。

- ①世界選手権大会をこの国で開催できるかどうかは、国民の協力いかなだ。
- ②筆記試験はパスした。あしたの面接の結果いかに採用が決まるそうだ。
- ③申し込み者数いかなでは、ツアーを中止しなければならないかもしれない。
- ④支持率いかにでは、今の政権も長くは続かないだろう。

🔗 名 +いかなだ

⚠️ いろいろな違いや幅がある意味の言葉(考え方・成績・態度など)につく。後には、いろいろに変わる可能性がある・決まるなどの意味の文が来る。「～いかなでは」の後には、いろいろな事態のうち可能性があるものが来る。

2 ~いかににかかわらず・~いかにによらず・~いかにを問わず

⇒あることの成立に～は関係ない・影響はない。【硬い言い方】

- ①内容のいかににかかわらず、個人情報の問い合わせにはお答えしていません。
- ②明日の試合の結果いかにによらず、優勝できないことは決まってしまった。
- ③当社は学歴・年齢・過去の実績のいかにを問わず、初任給は一律です。

🔗 名 (-の) +いかににかかわらず・いかにによらず

名 -の +いかにを問わず

⚠️ いろいろな違いや幅がある意味の言葉につく。後には、「～」に影響されないことを表す文が来る。



3 ~をものともせず(に)

⇒普通なら~という障害に気持ちが負けてしまうのに、それを乗り越えて行動する。

- ①彼は体の障害をものともせず、精力的に活動している。
- ②母は強かった。がんの宣告をものともせず、最期まで明るくふるまった。
- ③隊員たちは危険をものともせず、行方不明の人の捜索を続けた。

🔗 名 +をものともせず(に)

⚠️ 大きな障害になるような状況を表す言葉(台風・病気・危険など)につく。全体として人などの勇敢さを褒める文になる。話者自身のことには使わない。

4 ~をよそに

⇒~は自分とは無関係であるかのように、少しも気にしないで行動する。

- ①家族の心配をよそに、子供は退院したその日から友達と遊びに出かけた。
- ②住民たちの抗議行動をよそに、ダムの建設計画が進められている。
- ③彼は周囲の人たちの不安をよそに、再び戦地の取材に出発していった。

🔗 名 +をよそに

⚠️ 周りの状況を表す言葉につく。後には、その状況を無視したような行動を表す文が来る。主語は主に人だが、話者自身のことには使わない。全体としてあきれた・感嘆したという気持ちを表す。

5 ~ならいざしらず

⇒~ならそうかもしれないが、全く違う状況なのだから結果も違う。

- ①安いホテルならいざしらず、一流ホテルでこんなにサービスが悪いなんて許せない。
- ②祖父母の代ならいざしらず、今の時代に「手ぬぐい」なんてあまり使わないよ。
- ③ヒマラヤ登山をするのならいざしらず、その辺の山へ行くのにそんなに重装備でなければいけないのか。
- ④治療が難しいのならいざしらず、よくある病気ですから、そんなに心配することはありませんよ。

🔗 名・普通形(-の) (ナ形) だ -なの・名) だ -なの +ならいざしらず

⚠️ 極端な例を表す言葉(神・赤ん坊・大昔など)につくことが多い。後には、それと対極にある例について、あきれたり不満を述べたりする文が来る。

1

- 1 ()いかに入院するかしないかを決めるのだそうです。
- a 本人の承諾 しょうだく b 空きベッドの有無 c 今日の検査の結果
- 2 父は、体調いかなでは、()。
- a 役職を続けるかどうか迷っているらしい やくしよく b その日の仕事の量を変えているようだ
- c 会社を辞めるかもしれない
- 3 宣伝方法いかに()。
- a 商品が売れた b 売上げが左右される c 売上げ数が減った
- 4 党首のやる気いかに()。
- a 選挙の結果が決まる せんきよ b 選挙に負けた c 選挙に勝ちたい

2

- 1 ()のいかによらず、一度購入されたチケットの払い戻しはいたしません。
- a 理由 b 不当な理由 ふとう c 正当な理由 せいとう
- 2 ()のいかを問わず、優秀な社員を募集している。
- a 男女 だんじよ b 学歴 がくれき c 国内か国外か
- 3 スピーチ大会では、内容のいかにかわらず、()。
- a みんな上手だった b みんな時間オーバーだった c 全員に参加賞が与えられる
- 4 借りたお金は金額いかにかわらず、()。
- a 早く返すべきだ b かなり高額だ こうがく c 先週返したはずだ

3

- 1 中川選手は()をものともせず、終始冷静にプレーした。
- a プレッシャー b 味方チームの選手 しゅうし c 会場の応援の声 おうえん
- 2 この会社は()をものともせず、順調に売上げを伸ばしている。
- a 商品 b 不況 ふきょう c 仕事
- 3 今年90歳になる高橋さんは、足腰の痛みをものともせず、()。
- a 病院に行こうとしない あしこし b かなり我慢している がまん c 若い人の指導に励んでいる はげ
- 4 兄は事業の失敗をものともせず、()。
- a 相変わらず借金を繰り返した じぎょう b 会社を辞めてしまった かえ
- c 新しい仕事に取り組んでいる と



4

- 1 彼は()をよそに、危険な仕事を続けた。
a 周囲の反対 b 足のけが c 体力たいりく
- 2 ()をよそに、彼はまた早朝からサーフィンに出かけて行った。
a 資金不足しきん b 親の心配 c 体の疲れ
- 3 国民の期待をよそに、()。
a 新政府は新しいことをやろうとしている b 新政府の政策せいさくは新しくない
c 新政府は従来じゅうらいの政策を続けた

5

- 1 ()ならいざしらず、普通の人には自分の経験をそんなに簡単に文章化できない。
a 小説を書く b 小説 c 小説家
- 2 5歳の子供ならいざしらず、()がこんなことを知らないなんておかしい。
a 大人 b 6歳の子 c 3歳の子
- 3 ()ならいざしらず、普通の人間が国民を自由に動かせるはずはない。
a わたし b 大統領 c 一市民
- 4 世界一周旅行をするのならいざしらず、日帰り旅行には()。
a そんな大きなかばんは要らない b 一人1万円ぐらいかかる
c わたしは行きたくない

1~5

- 1 本人の頑張りがんば()素晴らしい結果が出るかもしれない。
a いかんでは b いかんにかかわらず c ならいざしらず
- 2 田中さんは周囲の反対()、その実験を続けている。
a いかんにかかわらず b をものともせずに c ならいざしらず
- 3 明さんあきらは周囲の非難ひなん()、就職しゅうしょくしないで家でぶらぶらしている。
a いかんで b をものともせずに c をよそに
- 4 ()、普通の人には一日中資料を調べるなんてできない。
a 学者いかんで b 学者のいかんによらず c 学者ならいざしらず



B⇒はつきり〜と特定できない。

- ④どこからともなく、おいしそうなカレーのにおいがしてくる。
- ⑤だれともなく、熊田さんのことをクマちゃんとあだ名で呼び始めた。
- ⑥いつからともなしに、わたしはモーツァルトの音楽が大好きになった。

🔗 疑問詞(+助詞) +ともなく・ともなしに

⚠️ 時間・場所・人などを表す疑問詞(だれなど)・疑問詞と助詞の組み合わせ(いつから・どこへなど)につく。

4 ~ながらに(して)

⇒~のまま変わらない状態だ。

- ①この子は生まれながらに優れた音感を持っていた。
- ②インターネットのおかげで、今は家にいながらにして世界中の人と交流できる。
- ③この辺りは昔ながらの田舎の雰囲気が残っている。
- ④その女性は母親との死別を涙ながらに語った。

🔗 動+名・名 +ながらに(して)

⚠️ 限られた言葉にしかつかない。④の「涙ながらに」は慣用的な言い方で「泣きながら」という意味。

5 ~きらいがある

⇒~という良くない傾向・性質・くせがある。

- ①彼はどうも物事を悲観的に考えるきらいがある。
- ②うちの部長は自分と違う考え方を認めようとしないきらいがある。
- ③松本さんは一度言い出したら人の意見に耳を傾けない。少し独断のきらいがある。

🔗 動 辞書形/ない形・名-の +きらいがある

⚠️ 主に人を批判して言う。ふつう話者自身のことには使わない。全体的に強い言い方はせず、強さを抑える副詞(どうも・少し・ともすればなど)を一緒に使うことが多い。

1

- 1 うちの犬は、自分もこの家の家族の一人だと()の顔をしてテレビを見ている。
a 言うばかり b 言わんばかり c 言わないばかり
- 2 ニュースを聞いて、彼は()驚いた。
a 飛び上がらんばかりに b 飛び上がると言わんばかりに c 飛び上がれんばかりに
- 3 今にも()子を置いて、母親はどこへ行ってしまったのだろう。
a 泣き出さんばかりに b 泣き出さんばかりの c 泣き出さんばかりな
- 4 彼女はその人の死を知って、()声を上げて泣いた。
a みんなに聞こえんばかりの b 涙があふれんばかりの c のどが張り裂けんばかりの

2

- 1 息子は「入るな」とばかりに、()。
a 大声で言った b 部屋を出て行ってしまった
c 部屋にかぎをかけてしまった
- 2 彼女は平凡なものはつまらないとばかりに、()。
a 変わった服を着ている b 楽しそうにしている c 面白い人だ
- 3 その女の子は皿の上の野菜を見て、()とばかり、横を向いた。
a 「おいしそう」 b 「食べたくない」 c 「わあ、いっぱい」

3

- 1 ()ともなく空を見ていたら、珍しい鳥が目に入った。
a 見る b 見よう c 見ている
- 2 ()ともなしにラジオをつけておくのが好きだ。
a 何でも聞く b 何を聞く c ピアノ曲を聞く
- 3 父は日曜日、どこへ行くともなしに()。
a うちにいた b 一人で出かけた c 考えた
- 4 ()わたしは彼を尊敬するようになった。
a 何ともなく b だれともなく c いつからともなく
- 5 さっきまであの木の枝に鳥が数羽いたが、()飛んで行ってしまった。
a どこへともなく b どこともなく c 何羽ともなく

**4**

- 1 大川選手は走るのも速いしボールの扱あつかいもうまい。()サッカー選手だ。
a 生まれるながらの b 生まれながらの c 生まれたながらの
- 2 祖母は()戦争中の思い出話を語った。
a 涙ながらの b 涙ながらで c 涙ながらに
- 3 久しぶりにふるさとを訪まとれた。()古い家がわたしを迎えてくれた。
a 昔ながらの b 昔ながらで c 昔ながらに
- 4 立ち食いそば屋は、座らないで()そばを食べる店です。
a 立って b 立ちながらにして c 立ちながら

5

- 1 今度の議長はどうも甘い言い方をするきらいがあると、みんなに()。
a 批判されている b 褒ほめられている c 喜ばれている
- 2 うちの子は()きらいがある。
a 動物をかわいがる b 部屋を片付ける c 物事を大げさに言う
- 3 ()頭で考えるだけで行動に移さないきらいがある。
a わたしは b 弟は c 日本では
- 4 うちの夫は()きらいがある。
a 趣味しゅみが多い b 趣味がない c 趣味を広げすぎる

1~5

- 1 彼女は、周りを()の行動力の持ち主だ。
a 圧倒あつとうせんばかり b 圧倒するとばかり c 圧倒したとばかり
- 2 試験中ちょっと横を()、カンニングと間違われた。
a 見んばかりに b 見たとばかりに c 見たばかりに
- 3 だれに()「春だなあ」とつぶやいた。
a 言いながらにして b 言うともなく c 言うとはばかりに
- 4 失敗して落ち込んでいたら、()みんなに肩をたたかれた。
a 元気を出さんばかりに b 元気を出したばかりに c 元気を出せとばかりに

[復習] ・スーパーへ買い物に行くついでに、クリーニング屋にも寄った。

1 ~がてら

⇒~のついでに、その機会を利用してあることをする。

- ①散歩がてらちょっとパンを買いに行ってきます。
- ②花火の見物がてら一度うちへもおいでください。
- ③友達を駅まで送りがてら DVDを返してきた。

🔗 [名] 宇る・動 ます +がてら

⚠️ 主に移動を含む動作を表す名詞(散歩・買い物など)につく。

2 ~かたがた

⇒~という別の目的も持って、あることをする。

- ①部長のお宅へお礼かたがたごあいさつに行こうと思っています。
- ②ご報告かたがた一度伺いたいのですが……。
- ③見学かたがた祖父が入所している老人ホームを訪ねた。

🔗 [名] 宇る +かたがた

⚠️ 後には、移動に関係のある動詞(行く・訪ねるなど)がよく使われる。

3 ~かたわら

⇒~という本業をしながら、別の活動もしている。

- ①彼は教師の仕事をするかたわら小説を書いている。
- ②わたしは会社勤務のかたわら子供たちにサッカーを教えています。
- ③母は主婦としての仕事のかたわら日本語を教えるボランティアをしている。

🔗 [名]-の・動 辞書形 +かたわら

⚠️ 本業となる仕事を表す言葉につく。後には、本業とは別の社会的活動を表す文が来る。



1

- 1 運動がてら()。
a 運動場まで行ってきた b 犬の散歩に出かけた c 毎日3キロ走っている
- 2 ()図書館に行った。
a 買い物がてら b 本を借りがてら c 本を探しがてら
- 3 ()車の展示場をのぞいた。
a いい車を見つけがてら b 急ぎがてら c 遊びがてら

2

- 1 ()かたがた近いうちに恩師を訪ねようと思っている。
a 訪問 b 食事 c 就職の報告
- 2 ()かたがた、お宅に伺います。
a ごあいさつ b 休日 c おじゃま
- 3 叔母が体調を崩したと聞いたので、見舞いかたがた()。
a 手伝った b 手伝いに行った c 果物を贈った

3

- 1 彼は()のかたわらNPOの活動をしている。
a 一人暮らし b 創作活動 c 趣味
- 2 母は()かたわら翻訳の仕事もしている。
a 数学を教える b 夕飯を作る c 音楽を聞く
- 3 山中さんは市役所に勤めるかたわら()。
a 歌手としても活躍している b いつも忙しくしている
c 家では年を取った親の世話をしている

1~3

- 1 母は()よく音楽を聞いている。
a 庭仕事かたがた b 庭仕事をするかたわら c 庭仕事をしながら
- 2 今回のことでは取引先に迷惑をかけてしまった。()あいさつに行ってください。
a おわびがてら b おわびのかたわら c おわびかたがた
- 3 ()神社にお参りしてきた。
a 花見がてら b 花見かたがた c 花見のかたわら

- [復習] ・年末にもかかわらず、多数お集まりくださりましてありがとうございます。
 ・高い健康器具を買ったものの、あまり使っていない。
 ・祖父は高齢ながら、毎日元気で働いています。

1 ~ところを

⇒～の時なのに・～という事情があるのに、迷惑をかけて恐縮だ。**硬い言い方**

- ①すぐにご報告しなければいけないところを遅くなってしまって申し訳ありません。
- ②お急ぎのところをすみません。ちょっと伺ってもよろしいでしょうか。
- ③こちらからお願いに伺うべきところを先方からおいでいただき、恐縮した。

🔗 普通形 (ナ形 だ-な・名 だ-の) +ところを

⚠️ ある継続的な状況を表す言葉につく。相手に迷惑がかかることを気遣う儀礼的な言い方で、後には、おわびや感謝の表現が来ることが多い。③のように「～べきところを」の例もある。

2 ~ものを

⇒～が順当に成立していれば良かったのに、実際はそうではなかった。

- ①安静していれば治るものを、田中さんはすぐに働き始めて、また病気を悪化させてしまった。
- ②もっと慎重にやれば誤解されないものを、彼の強引なやり方がいつも誤解を招く。
- ③よせばいいものを、彼は社長に大声で文句を言った。そのため会社を首になった。
- ④一言声をかけてくれれば手伝ったものを。

🔗 動・形 普通形 (ナ形 だ-な) +ものを

⚠️ 文全体として話者の不満や残念な気持ちを表す。事実とは異なることを仮定した文につく。後には、事実を説明する文が来る。④のように後の文が省略されることもある。

3 ~とはいえ

⇒～というのは事実かもしれないが、それでもやはり状況は同じだ。

- ①ダイエット中とはいえ、出されたごちそうに手をつけられないなんて失礼だと思う。
- ②まだ締め切りまで時間があるとはいえ、早めに完成させておいたほうがいい。
- ③12月に入ったとはいえ、まだ年末という気がしない。
- ④あの時は仕方がなかったとはいえ、ご迷惑をおかけしました。

🔗 名・普通形 +とはいえ



⚠ 事実、または話者が事実だと考えていることを表す文につく。後には、単なる事実ではなく、「～」の持つ意味に反する、話者の評価を表す文が来る。

4 ～といえども

⇒～は事実ではあるが・事実であっても・～の立場の人であっても、実際はそこから普通に予想されることとは違う。【硬い言い方】

- ①未成年者といえども、公共の場で勝手なことをしてはならない。
- ②いかに困難な状況にあったといえども、罪を犯したことは許されない。
- ③人間は自然災害に対して無力だといえども、国を挙げての対策を強化する必要がある。
- ④この不況下では、たとえ経営の神様といえども、この会社の立て直しは難しいだろう。
- ⑤どんな大富豪といえども、この有名な絵を買うことはできない。

🔗 名・普通形 +といえども

⚠ ①②③のように事実のことも、④⑤のように仮定のこともつく。後には、主に義務・覚悟・話者の主張を表す文が来る。また、「たとえ・いかに・どんな」などの言葉を一緒に使うことも多い。

5 ～と思いきや

⇒～と思ったが、実際はそうではなかった。

- ①試験問題は簡単だったので、満点を取れたと思いきや、名前を書くのを忘れて0点にされてしまった。
- ②あの政党は選挙で圧勝したので、長く政権が続くかと思いきや、たちまち支持率が落ち、1年ともたなかった。
- ③やっと道路工事が終わったので、これからは静かになるだろうと思いきや、別の工事が始まった。

🔗 普通形 +と思いきや

⚠ 文全体として予想に反した事実に対する話者の驚き・意外感などを表す。話者の予想を表す文につく。②のように「と思いきや」の前に「か」が入る例もある。後には、その予想とは違う結果を表す文が来る。



4

- 1 ()といえども、勉強していなければいい点はとれないだろう。
a 初めての試験 b 簡単な試験 c 入学試験
- 2 失業したといえども、()。
a 家賃を滞納してはいけない b 彼はまた高い車を買った c 高いものを買うな
- 3 犯人でない証拠があるといえども、彼のことを()。
a 教えてください b 気にするのですか c 調べてみる必要がある

5

- 1 彼女のお母さんだから、きっと静かな人だと思いきや、()。
a とてもにぎやかな人だった b やはりとても静かな人だった c とてもきれいな人だった
- 2 お酒好きの松本さんは甘い物なんか好きじゃないと思いきや、()。
a 辛いものばかり食べた b ケーキは食べないと言った c ケーキを三つも食べた
- 3 あの弱小チーム、1回戦で負けると思いきや()。
a やはり1回戦で負けた b だれも勝つとは思わなかった c 決勝戦まで進んだ

1~5

- 1 いくつか間違いがある()、トム君の日本語の文章は素晴らしい。
a とはいえ b ものを c と思いきや
- 2 今日は一日中晴れる()、午後からざあざあ降りになった。
a とはいえ b といっても c と思いきや
- 3 事情を知らなかった()、失礼な質問をしてしまいました。
a ところを b ものを c とはいえ
- 4 もっとちゃんと薬を飲めば早く()。
a 治ったとはいえ b 治ったものを c 治ったといえども
- 5 その計画は意義がある()、多くの人の支持は得られないだろう。
a ものを b といえども c と思いきや
- 6 ()よく来てくださいました。
a 遠いところを b 遠いといえども c 遠いものを
- 7 わたしは、その仕事を引き受けるとは()、結局やれなかった。
a 言ったとはいえ b 言ったものの c 言ったものを

- 〔復習〕 ・もし子供時代に戻れるとしたら、どんなことをしたいですか。
 ・実物を見てみないことには、買うかどうか決められない。
 ・ああ、やり直せるものならやり直したい。

1 ~とあれば

⇒~という特別な条件なら、あることをする・ある状態だろう。

- ①子供のためとあれば、わたしはどんなことでも我慢しますよ。
 ②小さい島での一人暮らしとあれば、不自由なことも多いだろう。
 ③入院のためにお金が必要だとあれば、なんとかしてお金を用意しなければならない。

🔗 名・普通形 +とあれば

⚠️ 後には、主に話者の希望・意向・判断を表す文などが来る。

2 ~たら最後・~たが最後

⇒~たら、必ずひどいことになる。

- ①兄は大酒飲みだから、飲み始めたら最後、酔いつぶれるまで飲んでしまう。
 ②うちの娘はパソコンの前に座ったが最後、声をかけても返事もしない。
 ③彼にお金を持たせたら最後、何に使われるかわからない。

🔗 動た形 +ら最後・が最後

⚠️ ①②のように実際に起こることがわかっている内容につく場合も、③のように仮定した内容につく場合もある。後には、話者が非常に悪いと考えている事態を表す文が来る。

3 ~ようでは

⇒~のような良くない状態では、良くない結果になるだろう。

- ①小さな失敗をいちいち気にするようでは、この会社ではやっていけないよ。
 ②ああ、僕は忘れっぽくて困る。こんなにすぐ忘れるようでは、この先のことが心配だ。
 ③報告書にこんなにミスが多いようでは、安心して仕事を任せられない。

🔗 普通形(ナ形)だ-な/-である・名)だ-である) +ようでは

⚠️ 望ましくない事実を表す文につく。後には、望ましくないことになるだろうという推測の文が来る。



4 ~なしに(は)・~なしでは・~なくして(は)

⇒もし~がなかったら、あることが成立しない。

- ①資金を確保することなしにはどんな計画も実行できない。
- ②あのころのことは涙なしに語ることはできない。
- ③祖母はもう高齢で、周りの人たちの助けなしでは暮らせない。
- ④十分な話し合いなくしてはダム建設の問題は解決しないだろう。
- ⑤先生方のご指導なくしてわたしの大学合格はあり得ませんでした。

🔗 名・動 辞書形+こと +なしに(は)・なしでは・なくして(は)

⚠ あることの成立のために、「~」が絶対必要であると話者が評価していることを表す。話者が絶対に必要だと考えていることを表す言葉につく。後には、否定表現が来る。

5 ~くらいなら

⇒~という望ましくない状況になるよりは、そのほうがまだ。

- ①満員のバスに乗るくらいなら、駅まで20分歩くほうがいい。
- ②その服、捨てるんですか。捨てるくらいなら、わたしにください。わたしが着ます。
- ③途中でやめるくらいなら、初めからやらなければいいのに。

🔗 動 辞書形 +くらいなら

⚠ 話者が最悪だと考えている事態を表す文につく。後には、それよりはいいと考えていることを表す文が来る。

1

- 1 必要な学費がくひとあれば、()。
- a どうか払ってください b 父は払ってくれるだろう c だれが払うんですか
- 2 ()とあれば、精せいいっぱい頑張りがんばます。
- a 日常の家事 b 車の運転 c あなたの頼み
- 3 家族のためとあれば、()。
- a どんなことをするんですか b わたしに何ができますか
c 彼はどんなことでもするだろう

2

- 1 あんな人が委員長に()最後、この会はだめになる。
- a なると b なれば c なったら
- 2 彼は怒ったら最後、()。
- a 次の日にはもう忘れている b 怖い顔をする c 絶対に許してくれない
- 3 麻薬まやくは恐ろしいものだ。一度使ったが最後()。
- a 意志いしがあればやめられる b 自分の意志ではやめられなくなる
c 医者いしに相談したほうがいい
- 4 わたしは卵アレルギーなので、卵が入っている食品をうっかり口にしたら最後、()。
- a すぐに水を飲む b 顔中に赤いぶつぶつができる c 絶対食べたくない

3

- 1 サラリーマンが毎日会社に()ではだめだ。
- a 遅刻するよう b 遅刻しよう c 遅刻していよう
- 2 寄付てつぎの手続きがこんなに()ようでは、寄付をする人が少なくなってしまう。
- a 面倒 b 面倒な c 面倒だ
- 3 仕事がそんなに忙しいようでは、()。
- a 体を壊こわしますよ b うらやましいです c 毎日充じゅうじつ実しているでしょう
- 4 敬語がちゃんと使えないようでは、()。
- a しっかり勉強せつぎょうしなさい b 接客せつぎょうの仕事はできない c 日本人に聞いたほうがいい
- 5 一日中アニメばかり見ているようでは、()。
- a アニメの専門家せんもんかになれますよ b 勉強する時間がないでしょう
c アニメの学校に行くといいですよ



4

- 1 住民の理解と協力なしには()。
a この計画は実行できない b 不満が多くなる c わたしが説得しよう
- 2 国の援助なしでは()。
a 民間の企業から寄付をしてもらおう b わたしはこの研究班を辞める
c この研究は続けられない
- 3 しっかり準備することなくしては()。
a いい発表はできない b いい発表ができるんですか c 発表するのはやめよう

5

- 1 結婚して()くらいなら、一人で暮らすほうがまだ。
a 自由が欲しい b 自由がなくなる c 自由がなくなった
- 2 わたしは料理が苦手なんです。自分で作るくらいなら、()。
a おいしくできるわけがありません b 料理教室に行って料理を習います
c 毎日パンだけでもいいです
- 3 わたしはエアコンが嫌いだ。エアコンを入れるくらいなら、()。
a 暑くても我慢する b 電気代がかさむ c 部屋が涼しすぎる
- 4 あんな人に頭を下げて頼むくらいなら、()。
a 彼はいい気分になるだろう b 自分でやろう
c だれもやってくれないだろう

1~5

- 1 おいしいものを()、わたしはダイエットなんかしなくてもいい。
a 我慢するとあれば b 我慢するようでは c 我慢するくらいなら
- 2 ここでやる気を()、彼は再び立ち上がれなくなるだろう。
a なくしたら最後 b なくすとあれば c なくすくらいなら
- 3 ()、どんなことでもするんですか。
a 金もうけするくらいなら b 金もうけとあれば c 金をもうけたら最後
- 4 患者の気持ちを()いい医者にはなれないだろう。
a 理解しないといえは b 理解しなかったら最後 c 理解することなくして
- 5 生まれたばかりなのに、今から子育てが大変なんて()この先やっていけませんよ。
a 言うようでは b 言うことなくして c 言うくらいなら

- [復習] ・もし野球部に入っていたとしても、きつい練習についていけなかつたろう。
 ・どんなに忙しいにしても、メールの返事ぐらいは書けるはずだ。
 ・たとえ国会議員であつても、悪いことをすれば新聞に名前が出てしまう。

1 ~ (よ)うと(も)・~ (よ)うが

⇒ ~でも、それに関係ない・影響されない。

- ① たとえ大地震が起ころうと、このビルは安全なはずだ。
- ② 社長は何を言われようが、自分のやり方を押し通した。
- ③ 目標までどんなに遠かろうと、僕は夢を捨てないぞ。
- ④ いかに困難だろうと、戦争のない世界を目指して闘いたい。
- ⑤ たとえ有名な政治家であろうとも、家庭では普通の親でしかない。

🔗 動う・よう形・イ形かろう・ナ形-だろう/-であろう・名-だろう/-であろう +と(も)・が

⚠️ 後には、前の条件に影響されないことを表す文が来る。話者の判断・決意などを表す文が来ることが多い。また、「たとえ・いかに・どんなに」などの言葉を一緒に使うことも多い。

2 ~ (よ)うと~まいと・~ (よ)うが~まいが

⇒ ~しても~しなくても、どちらでも関係ない・影響されない。

- ① 田中先生は、学生たちが理解しようとするまいと、どんどん難しい話を続けた。
- ② 雨が降ろうが降るまいが、サッカーの練習に休みはない。
- ③ 合格の見込みがあるうがあるまいが、今はただ頑張るだけだ。

🔗 動う・よう形 +と・が+動辞書形 +まい+と・が

* 動Ⅱ・Ⅲ→動辞書形/ます +まい する→するまい・すまい

⚠️ 同じ動詞を繰り返して使う。後には、前の条件のどちらにも影響されないことを表す文が来る。話者の判断・決意などを表す文が来ることが多い。

3 ~であれ・~であろうと

→4課-(2)

⇒ たとえ~でも、それに関係ない・影響されない。

- ① たとえあらしの夜であれ、わたしは仕事のためなら外出する。
- ② どんな権力者であれ、いつかは命の終わりが来る。
- ③ 理由が何であれ、無断欠席は許されない。
- ④ 君に会うためなら、たとえ火の中、水の中であろうと、僕は平気だ。



名・疑問詞 + であれ・であろうと

⚠ 後には、前の条件に影響されないことを表す文が来る。話者の判断・決意などを表す文が来ることが多い。また、「たとえ・どんな」などの言葉と一緒に使うことも多い。

4 ~たところで

⇒ ~をやってみても・~という状態になっても、無意味だ・無駄だ。

- ① 今さら駆けつけたところで、もう会議は終わっているだろう。
- ② どんなに説明したところで、わたしの気持ちはわかってもらえないだろう。
- ③ フリーマーケットでは品物が全部売れたところで、もうけはあまりない。
- ④ いくら謝ったところで、彼女との関係は元には戻らないと思う。

動 たら形 + ところで

⚠ 後には、否定的な判断を表す文が来る。話者の希望・意向を表す文や働きかけ、過去の文などは来ない。「いくら・どんなに・今さら」などの言葉を一緒に使うことが多い。

5 ~ば~で・~なら~で・~たら~たで

⇒ 状況が~であっても、想像しているようには良くない・悪くない。

- ① 家は広い方がいいが、広ければ広いで、掃除が大変だろう。
- ② 退職前は毎日忙しくて大変でしたが、暇なら暇で悩みも出てくるものです。
- ③ 食材がなかったらなかったで、簡単な料理で済ませましょう。
- ④ 引っ越しの前も大変だったが、引っ越したたら引っ越したたで、またやらなければならないことがたくさんある。

動 ば形/たら+動 たら形 + で

イ形 ければ+イ形 い + で イ形 かったら+イ形 かった + で

ナ形 -なら+ナ形 + で

⚠ 同じ言葉を繰り返して使う。後には、①②④のように問題があるという意味の文、または③のように問題はないという意味の文が来る。



4

- 1 このまま()ところで、これ以上いいアイデアは出てこないだろう。
a 考えなかった b 考え続けた c 考えるのをやめた
- 2 今さら^{しんじつ}真実を知ったところで、()。
a もうどうにもならない b ぜひ話してください c 方法はいくらでもある
- 3 反抗期^{はんこうき}の息子に何を説教^{せつきょう}したところで、()。
a 困ったことになる b どうしたらいいでしょうか c 聞く耳を持たない
- 4 こんなに給料が安くては、どんなに働いたところで、お金は()。
a たまらない b たまらなかった c すぐなくなった

5

- 1 財産があれば()、面倒なこともある。
a ないで b あって c あったで
- 2 大学に合格したら()入学金と学費^{がくひ}の心配をしなければならない。
a するで b したで c したので
- 3 料理が余ったら余ったで、()。
a どうしたらいいでしょうね b 後で食べますから気にしないでください
c 捨ててしまったほうがいいです
- 4 斉藤^{さいとう}さんが来なかったら来なかったで、()。
a 電話してみましよう b しばらく待ってみましよう
c この5人で話し合って結論を出しましよう

1~5

- 1 今さら()、もう遅い。
a 後悔^{こうかい}したところで b 後悔すればしたで c 後悔しようがするまいが
- 2 彼は相手が()、敬語を使わない。
a だれであれ b だれであろうとあるまいと c だれであったところで
- 3 たとえ()、判断ミスには謝罪^{しゃざい}するべきだ。
a 社長だったら社長だったで b 社長だったところで c 社長であろうとも

- 〔復習〕 ・首相は主要国首脳会議しゅのうに出席するため、今朝10時に日本を発った。
 ・今日、情報はさまざまな通信手段でんたつによって伝達されている。

1 ~べく

⇒～ようと思っおもてある行為こういをする。〔書き言葉〕

- ①彼はサッカー選手になるべく、毎日きび厳しい練習をしている。
 ②新型しんがたの機械こうきを購入するべく、社長はいろいろ調べている。
 ③介護ロボットを開発すべく、わたしたちは今日も実験を続ける。

④ 動 辞書形 +べく *例外 する→するべく・すべく

⚠ 意志動詞いしどうしにつく。後あとにも意志的行為いしてきこういを表す文あわ ぶんが来る。働きかけを表す文はたら きかけ あわ ぶんは来ない。前後の主語ぜんご しゅご おなは同じ。

2 ~んがため(に)

⇒～という目的もくてきを持つてある行為こういをする。〔書き言葉〕

- ①彼女は歌手うたかたになりたいという夢ゆめを実現じつじさせんがため、上京した。
 ②ライオンがしまうまを食べるのは残酷ざんこくに見えるが、ライオンは生きんがために、そうするのである。
 ③自分の利益りえきを得んがための発言はつげんでは、人の心を動かうごかせない。

④ 動 ~~な~~ +んがため(に) *例外 する→せん

⚠ 重大な目的じゅうだい もくてきを表す言葉あわ ことば(意志動詞いしどうし)につく。後あとにも意志的行為いしてきこういを表す表現あわ ひょうげんが来る。働きかけを表す文はたら きかけ あわ ぶんは来ない。前後の主語ぜんご しゅご おなは同じ。日常的な場面にちじょうてき ばめんでは使わない。

3 ~をもって

→2課-4

⇒～を手段しゅだんとしてある行為こういをする。〔硬い言い方〕

- ①本日の採用試験ほんじつ さいようの結果は後日書面ごじつしよめんをもってご連絡いたします。
 ②何なにをもって人の価値を評価するかは難しい問題だ。
 ③最新さいしんの医療技術いりょうぎじゆつをもってすれば、人はさらに寿命を延ばせるだろう。

④ 名 +をもって

⚠ 日常的・具体的な道具や方法にちじょうてき ぐたいてき どうぐ ほうほうなどには使わない。③の「～をもってすれば」は慣用的な言い方かんようてき い かたで、「～」の力ちからを高く評価たか ひようかすることを表す。

- 〔復習〕 ・毎日残業が続いたものだから、疲れてしまいました。
 ・高い本を買ったからには、しっかり活用しなければだめだ。
 ・メールアドレスを1字間違えたばかりに、大切な連絡が届かなかった。

1 ~ばかり

⇒まさに~からそうなる・~からあえてそうする。

- ①心身健康であればこそ、大きな仕事に挑戦できるのだ。まずは健康に注意しなさい。
 ②愛していればこそ、別れるのです。わたしの気持ち、わかってください。
 ③今苦しければこそ、後で本当の喜びがある。

🔗 動 ば形・イ形 ければ・ナ形 -であれば・名 -であれば +こそ

⚠️ 通常は直接的な理由として考えにくいことをあえて理由として強調する。後には、「のだ」の文が来ることが多い。

2 ~とあって

⇒~という特別な状況だから、当然結果も特別だ。

- ①久しぶりの快晴の連休とあって、行楽地はどこも人でいっぱいだった。
 ②その女優は初めて映画の主演を務めるとあって、とても緊張している様子だ。
 ③新聞で店主の絵のことが報道されたとあって、この店に来る客はみんな店に飾られた絵を眺めていく。

🔗 名・普通形 +とあって

⚠️ 平常とは違う特別な状況を表す言葉につく。後には、その状況から当然出てくる結果を表す文が来る。話者自身のことには使わない。



3 ~ではあるまいし

⇒～ならそのようなこともあるかもしれないが、～ではないのだから **話し言葉**

- ①子供ではあるまいし、眠かたり空腹だたりするだけでそんなに不機嫌な顔をするものではない。
- ②犬や猫じゃあるまいし、上の人の言葉に従うだけなんてごめんだ。
- ③面接試験は初めてではあるまいし、今回はどうしてそんなに緊張するの？
- ④あなたが悪かったわけではあるまいし、そんなに自分を責めることはないよ。

名 +ではあるまいし

! 後には、話者の判断・主張・忠告など、現状を否定するようなニュアンスの文が来る。④のように普通形で「～わけではあるまいし・～のではあるまいし」の形で名詞以外にもつく。

4 ~手前

⇒～という立場・人物を意識するから、そうしないと評価が下がってしまう・面目が立たない。

- ①5月末までに問題を解決すると約束した手前、どうしても頑張らなければならない。
- ②いつも手伝ってもらっている手前、今回はこちらから手伝いを申し出なければ……。
- ③子供たちの手前、父親がこんな酔っ払った姿で帰宅しては体裁が悪い。
- ④ご近所の手前、家に警察官が来たことは知られたくない。

名 -の・動 辞書形/た形/ている形 +手前

! 他人や社会の評価を考えると抵抗感があると言いたいときに使う。後には、話者の行動を制限することを表す文(～わけにはいかない・～なければならない・～ざるをえないなど)が来る。

5 ~ゆえ(に)

⇒～から(理由) **書き言葉**

- ①慣れないことゆえ、数々の不手際、どうぞお許してください。
- ②理想ばかり申し上げたゆえ、実践が伴わないと思われたかもしれません。
- ③国民の信頼が得られなかったゆえに、新しい政策は再検討しなければならなくなった。

名 (-の)・普通形(ナ形) だ-な/-である・名) だ-である) +ゆえ(に)

! 手紙や公式の場面で使う。日常のことには使わない。

1

- 1 内容が高度()こそ、わかりやすく説明する必要がある。
 a だったらば b であれば c であつたらば
- 2 忙しければこそ、()のだ。
 a ご飯を食べる時間もない b 旅行には行けない c 時間の使い方がうまくなる
- 3 収入が少なければこそ、()のだ。
 a 暮らせない b 楽しくない c 楽しく暮らす努力をする
- 4 わたしたち二人の関係が良ければこそ、()。
 a 言いたいことを自由に言えるんですね b 一緒に暮らしてみませんか
 c はっきり意見を言ってください
- 5 あなたのことを思えばこそ、()。
 a あなたの気持ちがわからないのです b あなたの気持ちをよく説明してください
 c あなたのことに干渉するのですよ

2

- 1 ()とあつて、どの家も洗濯物を干している。
 a 雨が降っていない b 平日 c 梅雨の晴れ間
- 2 あのレストランは無農薬の食材を使うとあつて、()。
 a わたしも行ってみたい b 急に人気が出てきた c 一度行ってみませんか
- 3 入学試験が近いとあつて、()。
 a みんな緊張している b わたしも勉強を始めた c みんな頑張ってください
- 4 有名歌手が来日するとあつて、()。
 a 今日空港に到着した b 大勢のファンが空港に集まった
 c わたしはコンサートを楽しみにしている

3

- 1 ()ではあるまいし、間違えることだってありますよ。
 a コンピューター b 子供 c 大人
- 2 離れ島に()ではあるまいし、1泊旅行にそんなにいろいろ持っていくことはないでし
 う。
 a 行く b 行くわけ c 行くこと



- 3 神様じゃあるまいし、わたしは()。
- a あなたを許すことはできません b その人を助けられませんでした
c もっと寛容になりたいです
- 4 昨日日本語の勉強を始めたばかりじゃあるまいし、()。
- a ずいぶん上手になりましたね b もう飽きてしまったんですか
c 基礎的なことはそろそろちゃんと覚えなさい

4

- 1 ()手前、一生懸命勉強しなければならない。
- a 親が心配する b 奨学金をもらっている c 試験が近づいている
- 2 勉強会を始めようとわたしから言い出した手前、()。
- a あなたも参加してください b あなたは参加するだけでいいですよ
c わたしは参加しないわけにはいかない
- 3 お金を払うと約束した手前、()。
- a 払わざるを得ない b 払えなくてもしかたがない c 払えなくなった

5

- 1 【手紙】()ゆえ、この度の祝賀会には欠席させていただきますことをお許しください。
- a 暇じゃない b 外出がだめな c 体調が優れない

1~5

- 1 ()、悩みがあるのだ。
- a 生きていればこそ b 生きている手前 c 生きているとあって
- 2 スタッフみんなの協力が()、イベントが成功するのだ。
- a あればこそ b あるとあって c あるものだから
- 3 ビザを()、入管へ行った。
- a 更新するとあって b 更新する手前 c 更新するべく
- 4 株価が暴落()、証券会社は大騒ぎだ。
- a すればこそ b したとあって c したわけではあるまいし
- 5 こんな失敗は今までにも経験してきただろう。初めてのこと()、そんなに泣くな。
- a とあって b ではない手前 c ではあるまいし

- 〔復習〕 ・これが今、考え得る最良の方法なんです。
 ・連絡先がわからないのだから、知らせようがない。
 ・ここで釣りをするな。

1 ~にかたくない

⇒その状況を考えると、実際に見なくても、~することは難しくない・~できる。 **硬い言い方**

- ①でき上がった作品を見れば、彼のこれまでの努力は想像にかたくない。
 ②愛する人を失った彼女の悲しみは察するにかたくない。
 ③諸事情を考えると、今回の決断に至った社長の心情も理解するにかたくない。

🔗 **名** 手尋・**動** 辞書形 +にかたくない

⚠️ 「想像(する)・察する・理解(する)」など、心の動きを表す限られた言葉につく。

2 ~に~ない・~(よ)うにも~ない

⇒~したいけれど、何かの事情があつてできない。

- ①野菜をたくさんもらったが、食べきれない。捨てるに捨てられず困っている。
 ②子供に大切な書類を汚されて、泣くに泣けない心境だ。
 ③彼女はあいさつもせずに会社を辞めた。何か言うに言えない事情があつたのだろうか。
 ④連絡先がわからなくて、連絡しようにも連絡できなかつた。
 ⑤当時、子供がおもちゃを欲しがつたが、お金がなくて買つてやろうにも買つてやれなかつた。

🔗 **動** 辞書形 +に+可能の動詞否定形

動 う・よう形 +にも+可能の動詞否定形

⚠️ 前後には同じ動詞を使う。後の動詞は可能の動詞を使う。「~に~ない」は心理的事情、「~(よ)うにも~ない」は物理的事情を表すことが多い。

3 ~て(は)いられない

⇒時間的・精神的に余裕がなく、~の状態でいることはできない。

- ①やると決めたら、のんびりしてはいられない。今すぐ準備を始めよう。
 ②あれだけひどいことを言われて、わたしも黙つていられなかつた。
 ③愚痴を言ったり泣いたりしてはいられない。解決策を考えなくては。

🔗 **動** て形 +はいられない

⚠️ すぐに次の行動をしなければならないという気持ちを表す。主語はふつう一人称。



4 ~べくもない

⇒その状況では、当然～ことはできない。

- ①その絵が偽物であることなど、素人のわたしは知るべくもなかった。
- ②状況から見て、この男が犯人であることは否定すべくもない事実であろう。
- ③将棋歴30年のベテランに、初心者のわたしがかなうべくもない。

🔗 動 辞書形 +べくもない *例外 する→するべく・すべく

⚠️ 心の働きを表す動詞(考える・想像する・知るなど)につくことが多い。

5 ~べからず・~べからざる

⇒～するな。～してはならないことだ。

「~べからず」→**書き言葉**、「~べからざる」→**硬い言い方**

- ①【工事現場の張り紙】危険。立ち入るべからず。
- ②「ここで釣りをするべからず」という立て札が立っているのに、何人か釣りをしている人がいる。
- ③警察が今回このような事件を起こしたことは、市民にとって許すべからざることである。
- ④経営者にとって決断力は欠くべからざるものである。

🔗 動 辞書形 +べからず

🔗 動 辞書形 +べからざる+名

⚠️ 「~べからず」は掲示や注意書きにしか使わない。

6 ~まじき

⇒その立場から・道徳的に考えて～てはいけない。**硬い言い方**

- ①その大臣は政治家にあるまじき発言で、辞任に追い込まれた。
- ②これは、子を持つ親として許すまじき犯罪である。
- ③大切な人にわたしは言うまじきことを言ってしまった。

🔗 動 辞書形 +まじき+名

⚠️ 後には必ず名詞が来る。慣用的な決まった言い方でしか使わない。

1

- 1 罪を犯したわたしの姿を見て、母がどんなに悲しむか()。
- a 想像にかたい b 想像にかたいことはない c 想像にかたくない
- 2 本当の病名を知ったときの彼の心中は()にかたくない。
- a 察する b 驚く c 表現する
- 3 このドラマは日本語が簡単なので、外国人でも()。
- a 理解にかたくない b 理解にかたい c 理解しやすい

2

- 1 手をけがしてしまった。これでは急ぎの書類を()書けない。
- a 書くに b 書こうにも c 書きようにも
- 2 腰を痛めて変な歩き方をする田中部長を見て、()笑えなかった。
- a 笑うに b 笑おうにも c 笑うにも
- 3 コンタクトレンズを落としてしまい、車を運転しようにも()。
- a できなかった b 危なかった c 困った
- 4 出勤時間になったが、子供に泣かれて()。
- a 出るに出られなかった b 出られるに出られなかった c 出るに出なかった
- 5 両親を失望させると思うと、大学を辞めたことを話すに()。
- a 話さないほうがいい b 話せない c 話したくない

3

- 1 出発の時間を20分も過ぎた。遅い人をもうこれ以上()いられない。
- a 待たずには b 待っては c 待つのは
- 2 試験が近いから、()はいられないよ。
- a 遊んで b 勉強して c 勉強しなくて
- 3 子供が自分でご飯を食べるようになったが、食べ方があまりにひどくて、()。
- a 見てはいなかった b 見てはいられなかった c 見ないではいられなかった
- 4 こうしてはいられない。()。
- a まず落ち着こう b ここで待っていよう c すぐに行ってみよう
- 5 ()、まじめに仕事をしてくださいよ。
- a 冗談を言っていられないで b 冗談を言っていられなくて c 冗談を言っていないで

- [復習] ・中村さんの仕事の速さといったらだれもが驚きますよ。
 ・あの子は5歳の子供にしては社会のことをよくわかっている。
 ・ひろ子さんはさすが元モデルだけあって歩き方がきれいだ。

1 ~ときたら

⇒~は良くない。(話し言葉)

- ①最近の若い人ときたら、言葉の使い方を知らない。
- ②うちの父ときたら、何でも母にやってもらっていて、だらしがない。
- ③隣のうちの犬ときたら、いつもほえてばかりで、うるさくてしかたがない。
- ④あの店の料理ときたら、高いだけで全然おいしくない。

🔗 名 +ときたら

⚠️ 身近な人物や話題を取り上げて不満を言う。後には、不満・非難などマイナスの評価をする文が来る。話者の希望・意向を表す文や働きかけの文は来ない。

2 ~ともなると・~ともなれば

⇒~くらい立場・程度が高くなると、そのような状態になる。

- ①子供も小さいときは素直だが、中学生ともなると、親の言うことを聞かなくなる。
- ②新入社員のころは自分のことだけで精いっぱいだったが、部長ともなると、部下を育てることを考えなければならない。
- ③人間50歳ともなれば、親の介護や自分の老後のことを考え始める。
- ④普段は静かなこの町も、祭りともなれば、多くの観光客でにぎわう。

🔗 名 +ともなると・ともなれば

⚠️ 進んだ段階を表す言葉(中学生・部長など)や特別な場合を表す言葉(祭り・正月など)につく。主語は、
 ①④のように変化を感慨を込めて表す「も」を使って示すことも多い。後には、そこまでの段階に至ると、当然どういう状態になるかを言う文が来る。話者の希望・意向を表す文や働きかけの文は来ない。



3 ~ともあろう

⇒立派な能力や責任がある～なのに、それにふさわしくないことをする。

- ①国会議員ともあろう人が、差別的な発言をするなんて信じられない。
- ②大学の学長ともあろうお方が、そのような無責任なことを言ってどうするんですか。
- ③山田さんともあろう人が、こんな単純なミスをするなんて。どうしたのでしょうか。
- ④学会の会長ともあろう人は、最新の研究テーマについてしっかり把握しておくべきだ。

🔗 名 +ともあろう+名

⚠️ 常識的にその人がするべきでない行動をしたことに対する驚きや不満を表す。または、④のようにその人の地位にふさわしい行動をしてほしいという感想を言う。話者が高く評価している人を表す名詞につく。

4 ~たるもの(は)

⇒～のような責任のある立場・優れた立場には、そのようなことがふさわしい。

- ①経営者たるものは、一般的な法律や年金制度について知っておかなければならない。
- ②社会人たるもの、あいさつや時間を守ることなど、できて当然だろう。
- ③紳士たるもの、強く優しくなければならない。

🔗 名 +たるもの

⚠️ 責任のある立場・優れた立場などを表す名詞につく。後には、その身分・地位にふさわしい、あるべき姿を表す文が来る。

5 ~なりに

⇒～という限界がある中で、精いっぱいのことをする。

- ①あの子ども子供なりに親のことを心配して気を遣っているのだ。
- ②店の経営を立て直そうとわたしなりに努力はしたが、不運が重なりうまくいかなかった。
- ③彼は経験が浅いなりに一生懸命仕事をしている。
- ④字は下手でも、下手なりに丁寧に書けば、読む人に気持ちが伝わるものだ。
- ⑤少し傷があっても、この作家の作った皿ならそれなりの価値は十分ある。

🔗 名・動・形 普通形(ナ形-だ) +なりに

⚠️ 話者があまり程度が高くないと感じていることを表す言葉につく。後には、その状況でもそれに応じた態度・行動をとる、という意味の文が来る。⑤の「それなり」は慣用的な言い方。



4

- 1 ()たるものは、将来のことを予測することができなければならない。
- a 危機管理システム b あなた c 一国のリーダー
- 2 ()たるもの、言動には気をつけなければならない。
- a 教師 b 学生 c 国民
- 3 政治家たるもの、()。
- a 失言が多い b 失言があってはならない c また失言してしまった

5

- 1 ()が、これでもわたしなりに努力はしたんです。
- a 結果は良くないです b いい結果になりました c 結果は関係ありません
- 2 わたしはまだ上手に日本語が話せないのですが、()頑張ってスピーチ大会に出たいです。
- a できるなりに b 上手でないなりに c 上手なりに
- 3 お金がないならならなら()。
- a もっといい仕事を探そう b 楽しみ方もあると思う c 大変困っている

1~5

- 1 ()、こちらのお話をちっとも聞いてくれないんだ。
- a あのコンビニの店員ときたら b あのコンビニの店員ともなると c あのコンビニの店員は店員なりに
- 2 ()、言葉の使い方にももっと気をつけるべきだ。
- a うちの大学の学長ときたら b 大学の学長ともあろう人は c 大学の学長は学長なりに
- 3 ()、いろいろ考えているんだろう。
- a うちの娘ときたら b うちの娘ともなれば c うちの娘だって娘なりに
- 4 ()、しっかりとした信念を持ってほしい。
- a 党首ときたら b 党首たるものは c 党首なりに
- 5 大家族の()、一族全員に対して公平に気配りしなければならないだろう。
- a 家長なりに b 家長ときたら c 家長ともなれば

- [復習] ・うちでは母がお酒が好きなのに対して、父は全然飲めない。
 ・父はお酒を飲まないというより飲めないんです。

1 ~にひきかえ

⇒ ~とは大きく違って・~とは反対に、そのことはいい・悪い。

- ① 大変な時代の中でも一生懸命に生きているその主人公にひきかえ、今のわたしは何とだらしないのだろう。
 ② 姉がきれいな好きなのひきかえ、妹はいつも部屋を散らかしている。困ったものだ。
 ③ 前日までのひどい天気ひきかえ、運動会の当日は気持ちよく晴れて良かった。
 ④ 田中さんの住んでいるマンションは新しくて広い。それにひきかえ、わたしのところは古くて狭いし、駅からも遠い。

名・普通形 (ナ形 だ-な/-である・名 だ-な/-である) + の + にひきかえ

⚠ 単なる事実の比較ではなく、いいか悪いかの主観的評価で両者を比べる。推量されることの比較には使わない。

2 ~にもまして

⇒ 通常のこと・以前のことよりも、ほかのこと・現在のことが方が程度が上だ。

- ① 去年は猛暑で連日気温が33度を超えたが、今年は去年にもまして暑さが厳しい。
 ② 自分の仕事のことにもまして気になるのは、父の病気のことで。
 ③ もともと覚えるのは得意ではなかったが、最近では以前にもまして物覚えが悪くなった。
 ④ 結婚式の日の彼女は、いつにもまして美しかった。

名・疑問詞 + にもまして

⚠ 通常のこと・以前のことを表す名詞につく。④のように疑問詞について最上級を表す例もある。後には、否定文は来ない。



3 ~ないまでも

⇒～という程度までは至らないが、その少し下のレベルの状態だ。

- ①プロにはなれないまでも、演劇はずっと続けていくつもりだ。
- ②わたしたち夫婦は海外旅行などのぜいたくはできないまでも、不自由のない暮らしをしています。
- ③あしたはハイキングだ。快晴とはいかないまでも、雨は降らないでほしい。
- ④毎週とは言わないまでも、せめて月に1回は外食したい。

動かない形 +までも

⚠ 理想的な状態や極端な状態を表す言葉につく。後には、十分満足できる程度・最終的な到達点より少し下のレベルを表す文が来る。③④のように、「とはいかないまでも・とは言わないまでも」の形で名詞にもつく。

1

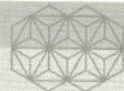
- 1 林先生が()にひきかえ、山田先生は物^{もの}わかりがいい。
 a 頑固^{がんこ} b 頑固^{がんこ}なの c 頑固^{がんこ}な
- 2 国にいたころは遊んでばかりいたのにひきかえ、日本では()。
 a あまり遊ばない b まじめに勉強している c 全然変わらない
- 3 母が()であるのにひきかえ、父は()だ。
 a 関西地方出身・東北^{とうほく}地方出身 b 58歳・52歳 c 穏^{おだ}やか・感情的
- 4 ()にひきかえ、()。
 a 去年・今年の収入の減少^{げんじょう}はひどいものだ b 今年・来年の収入の減少はひどいものだろう
 c 来年・再来年以降の収入の減少はひどいものかもしれない

2

- 1 みち子の成績が下がったことにもまして、あの子の()。
 a 生活^{たいど}態度が心配だ b 病気が良くなったことがうれしい
 c 性格が明るいことが安心だ
- 2 孫たちの顔を見ることが、祖父にとっては何にもまして()。
 a 楽しみではないらしい b 楽しみらしい c 楽しくないことらしい
- 3 ()にもまして、()は仕事が多い。
 a いつもの年・今年 b 水曜日・木曜日 c カンさん・リンさん

3

- 1 昨日はあらしとは()までも、大風が吹いた。
 a 言う b 言える c 言わない
- 2 ()までも、歌を歌う仕事をしたい。
 a 歌が上手にはならない b 人気歌手にはなれない c カラオケには行かない
- 3 一流^{おおて}大手の会社には入れないまでも、せめて中^{ちゅうきぎょう}企業には()。
 a 就職^{しゅうしょく}したい b 就職できない c 就職したくない
- 4 ベスト4とはいかないまでも、()。
 a 優勝はしたい b ベスト8には入ってほしい c 準優勝^{じゅんゆうしょう}はしたい



1~3

- 1 セールがあるためか、店は()込んでいる。
a いつもにひきかえ b いつとは言わないまでも c いつにもまして
- 2 祖母が落ち着いてゆっくり()、母はとても早口で、話がわかりにくい。
a 話すのにひきかえ b 話すのにもまして c 話すとは言わないまでも
- 3 みんな()、今回の松本^{まつもと}さんの態度^{たいど}を快^{こころよ}く思っていないのではないか。
a 口に出すのにひきかえ b 口に出すのにもまして c 口には出さないまでも
- 4 今日^{けふ}は会長()副会長のわたしがごあいさつ申し上げます。
a にひきかえ b に代わって c にもまして

- 〔復習〕 ・よく考えた末、帰国することにした。
 ・忙しくて、あの連続ドラマはとうとう見じまいった。
 ・兄は5年前に家を出たきり、一度も帰ってきていない。

1 ～に至って・～に至っても

⇒事態が～まで進んでやっとある状態になった・事態が～まで進んでもある状態にならない。

- ①死者が出るに至って、国は初めて病気の感染拡大の深刻さに気がついたのだ。
 ②病気の牛20万頭が処分されるに至って、経済的混乱がマスコミに取り上げられるようになった。
 ③ひどい症状が出るに至っても、彼は病院へ行こうとしなかった。
 ④大切な情報がインターネットで流れるという事態に至っても、この重大さを認識できない人たちがいる。

🔗 **名・動** 辞書形 + に至って・に至っても

⚠️ 普通では考えられない状態を表す言葉につく。「～に至って」の後には、事態がそこまで進んでやっとうどうなったか、「～に至っても」の後には、進んでもどうならないかを言う文が来る。

2 ～に至っては

⇒～という極端な例では、ある状態だ。

- ①デパートの閉店が相次いでいる。Aデパートに至ってはすでに三つの支店が閉店した。
 ②毎年この地方は洪水の被害を受ける。長崎県に至っては今年もう3回目だ。
 ③わたしは理数系の科目が不得意だった。物理に至っては全く理解できなかった。

🔗 **名** + に至っては

⚠️ 全体としてあきれた、ひどいという評価を表す。程度が極端な例につく。後には、その例がどんな状態かを言う文が来る。



3 ~始末だ

⇒ ^{わる}悪い^{じょうたい}状態が^{けい}経過し、とうとう〜という^{わる}悪い^{けつまつ}結末になった。

- ① おいは遊んでばかりいてまじめに働きもせず、とうとう会社を辞めてしまう始末だ。
- ② 田中さんはお酒を飲んで大きな声でしゃべり続けた後で、ついに泣き出す始末だった。
- ③ 兄は借金を返すためと言って家にあるものをお金に換え、父の時計まで売ってしまう始末だ。

🔗 動 辞書形 + 始末だ

⚠️ ^{わる}悪い^{けつまつ}結末を表す文につく。ふつう、その^{まえ}前に^{わる}悪い^{じょうたい}状態が^{つづ}続いていたことの^{せつめい}説明がある。また^{けつまつ}結末を^{きょうごう}強調する^{ことば}言葉(ついに・とうとう・〜までなど)を^{いっしょ}一緒に^{つか}使うことも^{おほ}多い。

4 ~つばなしだ

⇒ ^{ふつう}普通はないような〜という^{じょうたい}状態が^{つづ}続いている。

- ① 昨日は電気をつけつばなしで寝てしまった。
- ② 友達に半年も本を借りつばなしになっている。
- ③ 一日立ちつばなしの仕事なので、足が疲れる。
- ④ 相手も悪いのに、わたしだけ言われつばなしで何も言い返せなかった。

🔗 動 まず + つばなしだ

⚠️ ^{おも}主に^よ良くない^{じょうたい}状態を表す。不^ふ満や非^ひ難を表すことも^{おほ}多い。



4

- 1 あ、本が()だ。
a 途中まで読みっぱなし b 片付けっぱなし c 出しっぱなし
- 2 ケーキを冷蔵庫に入れっぱなしにして、()
a 冷えておいしくなった b おいしくなくなってしまった c あした食べるつもりだ
- 3 彼は仕事を他人に任せっぱなしで、自分では()。
a 一生懸命だ b 何もしない c 意見を待っている
- 4 久しぶりに会った友達と、朝まで()だった。
a シャベリっぱなし b 眠りっぱなし c 楽しく過ごしっぱなし

1~4

- 1 ダイエットに夢中のあの子は、とうとう果物さえ()。
a 食べずじまいだ b 食べなくなる始末だ c 食べっぱなしだ
- 2 わが社の新商品がテレビで紹介されて、昨日は問い合わせの電話が一日中()。
a 鳴るに至った b 鳴る始末だった c 鳴りっぱなしだった
- 3 全労働者の4割近くが正社員でないという状況に()、雇用問題がようやく社会全体の
問題として考えられるようになった。
a 至って b 至っては c 至っても

- [復習] ・この人こそわたしが心から期待している人物である。
 ・一人としてこの矛盾に気がついた人はいなかった。
 ・今日は疲れてしまってテレビを見る気力さえない。

1 ~たりとも…ない

⇒ 1～も…ない。全く…ない。

- ①あなたのことは1日たりとも忘れたことはありません。
 ②試合中は一瞬たりとも気を抜いてはいけない。
 ③この部分の設計は1ミリたりとも間違いがないようにお願いします。
 ④何人たりともこの神聖な場所に立ち入ることは許されていない。

🔗 1 + 助数詞 + たりとも + …ない

⚠️ 最小単位を例として示し、全くないことを強調する。最小単位「1」につくが、あまり大きい単位(1年・1トンなど)にはつかない。④の「何人たりとも」は慣用的な言い方。

2 ~すら

⇒ ~という極端な例もそうなのだから、当然その他も同様だ。 **硬い言い方**

- ①彼のうそには、怒りだけではなく悲しみすら覚えた。
 ②バスは雨の日などにはたびたび遅れる。30分も待たされることすらある。
 ③自分が好きで選んだ仕事にすら自信が持てなくなってしまった。
 ④これは専門家ですら直すのが難しい故障だ。素人のわたしには全く手がつけられない。

🔗 名 (+助詞) + すら

⚠️ ④のように「ですら」を使うこともある。主に主格の「が」で表せる場合で「であっても」の意味。

3 ~だに

⇒ ~だけでもそのような状況なのだから、実際は極端だ。(「~だに…ない」の形で) 全く…ない。

硬い言い方

- ①その病気が広まって100万人もの人が死ぬなど、想像するだに恐ろしい。
 ②まさかわたしが歌手としてステージに立つなんて、夢にだに思わなかった。
 ③そのニュースを聞いても、彼女は表情を変えず、微動だにしなかった。

🔗 名 (+助詞) ・動 辞書形 + だに

⚠️ 慣用的な言い方が多く、「想像(する)・考える・聞く」など限られた言葉にしかつかない。



4 ~にして

→F

⇒～という高い段階・特別な条件に合っている・合っていない。

- ①結婚してすぐに子供が欲しかったが、8年目にしてようやく授かった。
- ②プロの職人にして失敗をするのだ。君がうまくいかなくてもしょうがないだろう。
- ③この曲はベートーベンのような天才にしてはじめて書ける作品だ。
- ④やれやれ、この父にしてこの息子あり。二人ともとてもよく食べる。

🔗 名 +にして

⚠️ 高い段階に至っていることや特別であることを表す言葉につく。後には、それに合っていること・合わないことを意味する文が来る。

5 ~あつての

⇒～があるからこそ、あることが成立する。

- ①結婚は、相手あつてのことだから、相手がいなければどうしようもない。
- ②海あつての漁業なのだから、海を汚してはいけない。
- ③読者あつての雑誌なので、読者が読みたいと思うものを提供したい。

🔗 名 +あつての+名

⚠️ 「～」の意義や恩恵を強調する。話者が必要不可欠と思うことを表す言葉につく。

6 ~からある・~からする・~からの

⇒～かそれ以上の数・量である。

- ①2トンからあるこの岩を、昔の人はどうやって運んだんだろう。
- ②彼女は10万円からする服を、値段も見ないで何着も買った。
- ③そのデモには10万人からの人々が参加したそうだ。

🔗 数詞 +からある・からする・からの+名

⚠️ 量・数の大きさを強調する。後には、その数詞に合った名詞が来る。時間に関する数やあまり少ない数量には使わない。重さ・距離・大きさ・量などを言う場合は「～からある・からの」、値段を言う場合は「～からする」、人数を言う場合は「～からの」を使う。

- [復習] ・だめならだめとはっきり言うべきだ。
 ・わたしの作品が認められた。努力したかいがあったというものだ。
 ・このプロジェクトが成功したのは、チームが団結して努力したからにほかならない。

1 ~までもない

⇒~しなくても十分なほど程度が軽いから、わざわざ~する必要はない。

- ①このぐらいの雨なら、傘をさすまでもない。
 ②確認するまでもないことですが、あしたの集合場所は駅前の広場です。
 ③予約したホテルは駅を降りたら探すまでもなく目の前にあった。
 ④言うまでもなく、学生にとっては勉強が一番大切だ。

🔗 動 辞書形 +までもない

⚠ 意志的な行為を表す動詞の文につく。

2 ~までだ・~までのことだ

A⇒ほかに方法がないなら~する意志がある。

- ①その日に全部作業が終わらなければ、次の日に続きをやるまでだ。
 ②だれも協力してくれないのなら、一人でやってみるまでだ。
 ③こちら側の言い分が通らなかった場合は、この計画を取りやめるまでのことだ。

🔗 動 辞書形 +までだ・までのことだ

⚠ それをするのは大した問題ではないという話者の覚悟を表す。条件の文とともに使うことが多い。過去形では使わず、現在・未来のことについて使う。

B⇒自分が行った行為は、ただ~だけで深い意味はない、と強調する。

- ④お褒めの言葉をいただきましたが、わたしはただ自分のすべきことをしたまでです。
 ⑤先日のメールは、あなたの発言が気になったから一言書き添えたまでで、他意はありません。
 ⑥一番活躍したのはなんといっても中村さんです。わたしはお手伝いをしたまでのことです。

🔗 動 た形 +までだ・までのことだ

⚠ 話者自身が行い、大したことではないと思っている行為を表す動詞文につく。



3 ~ばそれまでだ

⇒もし～ということになったら、すべて台無しになってしまい、それ以上は何もできない。

- ①人間、死んでしまえばそれまでだ。生きているうちにやりたいことをやろう。
- ②いくら練習の時上手にできても、本番でうまくいかなければそれまでだ。
- ③どんなに立派なホールを作っても、十分に活用されなければそれまでだ。
- ④好みの問題と言われればそれまでだが、わたしはこのレストランの内装はなんとなく好きになれない。

🔗 動 ば形 + それまでだ

⚠️ 「～ても…ばそれまでだ」の形で使うことが多い。④の「と言われればそれまでだ」は慣用的な言い方。

4 ~には当たらない

⇒それほど大したことではないから、～するのは適当ではない。

- ①山田さんは通勤に1時間半かかるそうだが、驚くには当たらない。これは日本では珍しくない。
- ②今度の大会での成績を悲観するには当たりません。これから先、チャンスはまだたくさんあります。
- ③彼の発言は責めるには当たらないと思う。彼の立場では、あのように言うのも当然だろう。
- ④あのホテルのサービスは称賛には当たらない。ホテルならあのくらいは当然だ。

🔗 動 辞書形・名 する + には当たらない

⚠️ 感情的反応や評価が過度にならないように相手を抑制する言い方で、感情・評価を表す動詞(驚く・悲観する・非難するなど)につく。

5 ~でなくてなんだろう(か)

⇒～以外だとは考えられない。硬い言い方

- ①毎日仕事が楽しくてしかたがない。これこそ天職でなくてなんだろう。
- ②一度聞いただけの曲をかんぺきに演奏できるなんて、彼は天才でなくてなんだろうか。
- ③このような所に道路を作るのは、税金の無駄遣いでなくてなんであろうか。

🔗 名 + でなくてなんだろう(か)

⚠️ 感動・嘆き・称賛などの気持ちを表す。少し大げさな意味の言葉につく。

1

- 1 このニュースは特に重要ではないから、()までもない。
a みんなが知っている b 急いでみんなに知らせる c すぐに忘れる
- 2 今さら()までもなく、日本は少子高齢化が進んでいる。
a 説明する b 説明しない c 説明が必要な
- 3 サッカー好きの彼が試合のあったその日、どこで何をしていたか、()までもない。
a 見つける b わかる c 聞く

2

- 1 もしT大学の入学試験に失敗したら、()までだ。
a 親にしかられる b 来年また挑戦する c 親に経済的負担がかかる
- 2 考えても答えがわからなければ、()までのことだ。
a 解答欄を空白にしておく b 解答欄には何も書かない
c 解答欄に何か書く必要はない
- 3 ちょっと聞き取れなかったので()までです。誤解しないでください。
a 聞き返す b 聞き返している c 聞き返した
- 4 近くまで来る用事があったから、()までです。
a わざわざ顔を見に来た b おいしいケーキを作ってきた c ちょっと寄った

3

- 1 どれだけ夜遅くまで勉強しても、試験中に()それまでですよ。
a 居眠りすれば b 起きていられれば c 頑張れば
- 2 旅行の時にビデオカメラを持って行っても、()それまでだ。
a 充電していなければ b 帰宅後すぐに見る気がなければ c 重ければ
- 3 花束は()それまでだが、ワイングラスのような物なら記念品として適当なのではないか。
a 飾ってしまえば b 見てしまえば c 枯れてしまえば

4

- 1 彼があの時怒ったことを()には当たらない。あんなひどいことを言われれば当然だ。
a 忘れる b 思い出す c 非難する
- 2 自分の気持ちを親に理解してもらえなかったからといって、()には当たりません。
これから何度でも話し合いを重ねればいいのです。
a 嘆く b 嘆いた c 嘆いている

- 〔復習〕 ・彼の^{きび}厳しさは愛情の表れにほかならない。
 ・わたしは一市民にすぎませんが、今回の首相の^{はつげん}発言には怒りを感じます。
 ・^{しょうじきもの}正直者が損をする。これは不公平というものだ。

1 ～に足る

⇒あるもの・あることが十分^{じゅうぶん}～できる。

- ①次の首相は国民の代表と言うに足る人物であってほしい。
 ②インターネットで得たその情報は、信頼に足るものとは思えない。
 ③だれかが離婚^{りこん}したとかしないとかなど、取るに足らないニュースだ。

🔗 動 辞書形・名 する 十に足る

⚠ 名詞を修飾する形^{かたち}で使われることが多い。否定文はふつう②のように「～に足らない」を名詞^{めいし}に続けるのではなく、文末^{ぶんまつ}を否定形^{ひていけい}にする。③の「取るに足らない」は慣用的な言い方^{かんようてき}で、「取り上げる価値^{かち}がない」という意味^{いみ}。

2 ～に堪える / ～に堪えない

→20課・②

⇒～するだけの価値^{かち}がある / ひどい状態^{じょうたい}で～が我慢^{がまん}できない・～するだけの価値^{かち}がない。

- ①優れた児童文学^{かんしゅう}は、大人の鑑賞にも堪えるものだ。
 ②この説^{しやうこ}はまだ証拠^{しやうこ}が少なく、詳細な議論に堪えるものではない。
 ③人の悪口^{あくぐち}は聞くに堪えない。
 ④こういうスキャンダル記事^{きじ}は読むに堪えない。

🔗 動 辞書形・名 する 十に堪える

⚠ 「見る・聞く・鑑賞^{かんしやう}・批判^{ひはん}」など限られた言葉^{ことば}につく。

3 ～といたらない

⇒言葉^{ことば}で言い表^{あらわ}せないほど最高^{さいこう}に～だ。 (話し言葉)

- ①あいつはだらしないといたらない。物はよくなくすし、時間にルーズだし……。
 ②あのレストランの料理^{りやうり}のおいしいことといたらなかつた。今でも忘れられない。
 ③富士山^{ふじさん}の頂上^{すば}から見た景色^{けいせき}の素晴らしさといたたら……。いつかきつとまた行きたい。

🔗 イ形 い・ナ形 (だ)・名 十といたらない

⚠ 程度^{ていど}が極端^{きょくたん}であることについての驚き^{おどろ}を表^{あらわ}す。名詞は形容詞^{けいようし}に「さ」をつけて名詞化^{めいしか}した言葉^{ことば} (素晴らしさ^{すばらしさ}・立派^{りっぱ}さなど)が多い。③のように「ない」を省略^{しょうりやく}することもある。



4 ~かぎりだ

⇒非常に・これ以上ないほど〜だ。

- ①最近友達はみんな忙しいのか、だれからも連絡がなく、寂しいかぎりだ。
- ②この近所で強盗事件があったらしい。恐ろしいかぎりだ。
- ③この辺りは街の様子がだいぶ変わって昔の風情がなくなり、残念なかぎりだ。

🔗 **イ形**い・**ナ形**な +かぎりだ

⚠ その事物の性質を述べるのではなく、話者の感情を言う。感情を表す形容詞につく。

5 ~極まる・~極まりない

⇒物事の状態が極限まで〜だ。**硬い言い方**

- ①このような不当な判決が出たことは、残念極まる。
- ②退屈極まる日常から抜け出したいと、彼は一人旅に出た。
- ③ついに初優勝を決めたその選手は、インタビュー中、感極まって涙を流した。
- ④気に入らない相手には返事もしないなんて、あの人の態度は失礼極まりない。
- ⑤失業している上、子供にもお金がかかり、生活が苦しいこと極まりない。

🔗 **ナ形** +極まる

ナ形(なごと)・**イ形**いこと +極まりない

⚠ マイナス評価の意味のナ形容詞(漢語)につくことが多い。③の「感極まる」は慣用的な言い方で、一時的に非常に感動したことを表す。

6 ~とは

⇒~はひどい・驚く・すごい。

- ①鳥の足が2本であることさえ知らない子供がいるとは驚きだ。
- ②こんな立派なレポートをたった1日で仕上げたとはすごい。
- ③この先に滝があると聞いたのでこんなに歩いてきたのに、ここで行き止まりとは……。

🔗 普通形(**ナ形**(だ)・**名**(だ)) +とは

⚠ ある事実に対する話者の驚き・感心・あきれた気持ちなどを強調する。話者が驚いた事実を表す文につく。後には、話者の感想を表す文が来るが、③のように後の文を省略することもある。ふつう話者自身のことには使わない。

1

- 1 これは()に足るデータだと思う。
 a 調査人数 ^{にんずう} b 正確 c 信頼
- 2 これはわたしにとって天職^{てんしょく}で、人生を()に足る仕事だと思っている。
 a かける b かけられる c かけている
- 3 これはその説の正当性^{せいとうせい}を断定するに()。
 a 足りていない証拠^{しょうこ}だと言える b 足りない証拠だと言える
 c 足る証拠だとは言えない

2

- 1 学者の()に堪える説得力^{せつとくりよく}のある論文を書きたい。
 a 問題 b 批判 c 意見
- 2 電車の中で化粧^{けしょう}をする姿^{すがた}は全く()に堪えない。
 a 見る b 見える c 見られる
- 3 これは聞くに堪えない()話だ。
 a 面白い b ひどい c 易しい

3

- 1 ジェットコースターに乗ったときの林さんの顔といたら()。本当に不安そうな顔だった。
 a なかった b あった c 緊張^{きんちよう}していた
- 2 駅には乗り換えの案内がどこにもなかった。()といたらなかった。
 a 困ってしまった b わからない c 不親切
- 3 あの日、薄暗い^{やまみち}山道で迷ってしまった。()といたらなかった。
 a 心細い b 心配した c 不安だった
- 4 山口さんの運転の怖さ^{おそ}といたらない。()。
 a 心配するほどではない b とても心配だ c 二度と乗りたくない

4

- 1 こんな簡単な漢字も読めないなんて、実に()かぎりだ。
 a 忘れている b できない c 情^{なさ}けない
- 2 小さい子が動物と触れ合^ふっている姿^{すがた}は、なんとも()かぎりだ。
 a ほほえみ b ほほえむ c ほほえましい

- [復習] ・子供のことが心配でならない。
 ・彼の面白い経験談けいけんだんを聞いて笑わずにはいられなかった。
 ・こんなに痛くてはどうしても病院へ行かざるを得ない。

1 ~てやまない

⇒～という強い気持ちをずっと持ち続けている。**硬い言い方**

- ①この写真に写っているのはわたしが愛してやまないふるさとの風景だ。
 ②卒業生の皆さんの幸せを願ってやみません。
 ③親は子供の将来を期待してやまないものだ。

動て形 +やまない

! 心の状態を表す限られた動詞(願う・期待する・愛するなど)につく。一時的な気持ちを表す動詞(失望する・腹を立てるなど)には使わない。主語はふつう一人称だが文中に表れないことが多い。

2 ~に堪えない

→19課-2

⇒～という感情が抑えられないほど強い。**硬い言い方**

- ①お忙しいところを多くの方にお集まりいただき、感激に堪えません。
 ②田中君がこのような賞を受けたことは、友人である私も喜びに堪えません。
 ③きちんと確認しておけばこのような事故は起きなかったかもしれない、後悔の念に堪えない。

名 +に堪えない

! 感情を表す限られた名詞(感謝・感激・同情など)につく。主語はふつう一人称だが文中に表れないことが多い。

3 ~ないではすまない・~ずにはすまない

⇒その場の状況や社会的な常識を考えると、必ず～することは避けられない。

「~ずにはすまない」→**硬い言い方**

- ①人の心を傷つけてしまったなら、謝らないではすまない。
 ②家のお金を黙って持ち出したなんて、親に知られたらしかられないではすまないぞ。
 ③アパートで犬を飼えば、こっそり飼っているつもりでも隣の人に知られずにはすまないだろう。
 ④このままの経営状態が続けば、借金をせずにはすむまい。

動ない形 +ではすまない **動**ずにはすまない *例外 する→せず

! 個人の感情からそうしなければならないと考える場合には使いにくい。



4 ~ないではおかない・~ずにはおかない

⇒ ~しないままでは許さない・自然に必ず~する。 **硬い言い方**

- ① あの話はやはりうそだったと、絶対に白状させないではおかないぞ。
- ② 警察署長の話から、必ず犯人を捕らえずにはおかないという意気込みを感じた。
- ③ 会長の発言は我々に不安感を抱かせずにはおかなかった。
- ④ この曲は聞く人の心を揺さぶらずにはおかない。

動 ない形 +ではおかない

動 な~~ま~~ +ずにはおかない *例外 する→せず

! 必ず~するという話者の強い決意、または自然にある状況になるという必然性を表す。強い決意を表す文では主語は一人称。必ずそうなるということを表す文では、主語は無生物または一人称以外。

5 ~を禁じ得ない

⇒ ある事態にあつて、~という感情がわいてくるのを抑えられない。 **硬い言い方**

- ① 生々しい戦争の傷跡を目の当たりにし、涙を禁じ得なかった。
- ② 犯人の供述を聞き、犯行動機の身勝手さに怒りを禁じ得なかった。
- ③ かつてあんなに輝いていた彼が荒れた生活をしているのを見て、驚きを禁じ得なかった。

名 +を禁じ得ない

! 感情を含む意味の名詞につく。主語はふつう一人称だが、文中に表れないことが多い。

6 ~を余儀なくされる／~を余儀なくさせる

⇒ ある事情によりどうしても~しなければならなくなる／ある事情が~という状況に追い込む。

硬い言い方

- ① 中川選手はまだ若いだが、度重なるけがにより引退を余儀なくされた。
- ② 彼は病気で入院を余儀なくされている間に、この小説を執筆した。
- ③ 相次ぐ企業の倒産が失業者の増加を余儀なくさせた。
- ④ 諸外国の圧力が貿易自由化を余儀なくさせた。

名 +を余儀なくされる／を余儀なくさせる

! 主に「~を余儀なくされる」の主語は人、「~を余儀なくさせる」の主語は人以外の「あること」。

1

- 1 昔つき合っていた先輩せんぱいのことを今も()やみません。
a 思い出して b 好きで c 尊敬して
- 2 今まで仕事ばかりで家庭を顧かえりみなかったことを()やまない。
a 理解して b 間違っまちがって c 後悔こうかいして
- 3 あの子を見ていると、()やまない気持ちになる。
a 怒おこって b 幸せを願ねがって c 腹が立たって

2

- 1 未熟みじくなわたしをいつも支たえてくださいます、()に堪たえません。
a 感謝かんしゃ b 感謝する c 感謝すること
- 2 火事で家も家族も一度に失うとは、()に堪たえない。
a 気の毒 b 同情どうじょう c 驚おどろき
- 3 お母様が亡くなったという知らせを受け、()に堪たえません。
a 涙 b 残念さ c 悲しみ

3

- 1 大変な迷惑めいわくをかけたのだから、()ではすまない。
a 忘れない b 責任をごまかさごまかさない
c おわびの品を持っていかいかない
- 2 大切な花びんかを壊こわしてしまったのだから、()にはすまない。
a 弁償べんしょうしず b 弁償せず c 弁償しない
- 3 長く授業を休めば、()にはすむまい。
a 成績が上がらず b 家でテレビを見ず c 先生に理由を聞かれず

4

- 1 この学者には()ではおかないという意気込みいきごみを感じる。
a 未知の問題を解決しない b 未知の問題の答えがわからない
c 未知の問題を説明できない
- 2 この映画のストーリーは10年前に起こった事件を()にはおかない。
a 思い出す b 思い出させる c 思い出させず
- 3 彼の演説ちやうしやうは聴衆に大きな感動を()おかなかった。
a 与よっては b 与よえずには c 与よえはしない



- 4 彼にはさんざん迷惑めいわくをかけられたのだから、今度会ったら()。
- a 謝あやまらせないではおかない b 謝らずにはおかない c 謝らないではおけない

5

- 1 地震で被害を受けた人たちのことをニュースで見て、()を禁きんじ得えなかった。
- a 同情どうじょうする b 同情したの c 同情
- 2 環境破壊はかいにより美しい風景が失われたことに()を禁きんじ得ない。
- a 悲観ひかん b 悲しみ c 悲劇

6

- 1 外国への転勤てんきんで、父は()を余儀よぎなくされた。
- a 困惑こんわく b 母に手伝い c 単身赴任たんしんふにん
- 2 ダム建設はその地区の住民に()を余儀なくさせることになる。
- a 反対運動 b 移転 c 便利な生活
- 3 企業きぎょうの海外進出しんしゅつが国内産業こくないの衰退すいたいを()。
- a 余儀なくさせている b 余儀なくされている c 余儀なくさせられている

1~6

- 1 家の経済状態がさらに悪くなれば、わたしは大学中退ちゅうたい()だろう。
- a を禁きんじ得えない b を余儀なくされる c しないではおかない
- 2 理由もわからず会社を辞めさせられた彼は、すぐに抗議行動こうぎを()のだろう。
- a 起こしてやまなかった b 起こすことを余儀なくされた
- c 起こさないではおかなかった
- 3 両国の関係がこのように緊張状態きんちやうじやうたいになった以上、緊急の措置きんきゅうそちを()だろう。
- a とってやまない b とらずにはすまない c とるわけにはいかない
- 4 台風の直撃ちよくげきによって、お祭りは()。
- a 中止ちゅうしに堪えなかった b 中止を禁きんじ得えなかった c 中止を余儀なくされた
- 5 この会には映画を()人たちが集まっている。
- a 愛してやまない b 愛さずにはすまない c 愛するに堪えない
- 6 長年探し続けてきた肉親にくしんがついに見つかったことに()。
- a 喜ばないではすまない b 喜んでやまない c 喜びを禁きんじ得えない



- 9 借りた本を汚してしまったとあれば、買って()だろう。
- 1 返さずにはいられない 2 返さずにはおかない
3 返さずにはすまない 4 返さずじまいではない
- 10 地震の被害に遭った地域の1日も早い復興を()。
- 1 願ってやみません 2 願わずにはおきません
3 願わざるをえません 4 願わずにはすみません
- 11 わたしはただ本当のことを()。なぜ非難されるのかわからない。
- 1 言ったところだ 2 言ったかぎりだ
3 言ったばかりだ 4 言ったまでだ
- 12 事故の現場は()ひどさだった。
- 1 見ずにはすまない 2 見るに堪えない
3 見るべくもない 4 見ようにも見られない
- 13 そんなに笑う()でしょう。わたしは真面目に話しているんですよ。
- 1 までではない 2 どころではない
3 わけはない 4 ことはない
- 14 今さら()が、時間を守らないということは社会では大きなマイナスになるのです。
- 1 言うまでもないことです
2 言うところではありません
3 言うまでのことではありません
4 言わないところです
- 15 渡辺氏はある団体に多額の寄付をしたが、これは特に評価する()と思う。彼には何か政治的意図があるのだ。
- 1 ほどのことではない 2 ほどには当たらない
3 までのことではない 4 までには当たらない

N I の文法形式には、動詞から派生してできたものが少なくありません。その文法形式を学習したことがなくても、元の言葉の意味から類推することができます。

(*はここで初めて学習する文法形式)

元の動詞	文法形式	例	課
ひきかえる	～にひきかえ	姉がきれいな好きなのにひきかえ、妹はいつも部屋を散らかしている。	15
あいま 相俟つ (現代では使わな い古語)	～と相まって	⇒～と関係し合って、さらに程度が進んだりいい効果が出たりする。 ①あの白い建物は美しい緑と相まって、絵本に出てくるお城のように見える。 ②この梅ジャムは、梅本来の酸味と相まったほどよい甘さが特徴です。	*
お 押す	～をおして	⇒～という難しい状況だが、無理に何かをする。 ①その作家は病気をしておして、執筆を続けた。 ②スケジュールの無理をおして、旅行に参加した。	*
かこつける	～にかこつけて	⇒～を表向きの口実にして、別の目的を果たす。 ①取材にかこつけて、あちこち店を見て回った。 ②エコ商品への買い換えをやたらに勧めるのは、エコにかこつけた金もうけだ。	*
か 兼ねる	～をかねて	⇒～という目的も同時に持って何かをする。 ①父の退職祝いをかねて家族旅行に行った。 ②これは数学の勉強をかねたゲームだ。	*
かまける	～にかまけて	⇒～に気をとられて、それ以外のことをきちんとなし。ない。 ①忙しさにかまけて、健康に気をつけなかった。 ②夏休みは暑さにかまけて、だらだら過ごした。	*
そく 即す	～に即して	⇒～に合わせて処理する。 ①規定に即して出張費が出ます。 ②会社の現状に即した経営計画を考える。	*
て 照らす	～に照らして	⇒～と比べ合わせて判断する。 ①自分の経験に照らして後輩にアドバイスした。 ②国家間の紛争は国際法に照らした判断で解決すべきだ。	*



のつと 則る	～に則って	⇒～を基準・規範として従って、あることをする。 ①スポーツマンシップに則って試合をする。 ②古くからの伝統に則った祭りが行われている。	*
ひかえる	～をひかえて	⇒～を近い将来に予定して、あることをする・ある状態だ。 ①入試をひかえて、学生たちはびりびりしている。 ②卒業をひかえた先輩に記念品を送った。	*
ふ 踏まえる	～を踏まえて	⇒～を前提にして・～を考慮して、あることをする。 ①前回の反省点を踏まえて、次の企画案を練ろう。 ②消費者の意見を踏まえた商品開発をしていきたいと考えています。	*
へ 経る	～を経て	⇒～という途中の状態を通して、あることをする・あることになる。 ①3年の交際を経て、二人は結婚した。 ②わが社は創立以来、さまざまな試練を経て今に至ります。	*
かかわる	～にかかわる	⇒～という重大なことに関係がある。 ①個人情報にかかわることはお答えできません。 ②人の命にかかわる問題だから、よく聞きなさい。 ⚠️主に名詞を説明するのに使う。	*
まつわる	～にまつわる	⇒～に関連がある。 ①これはお酒にまつわる話を集めた本である。 ②この辺りには、この池にまつわる伝説が伝わっている。 ⚠️主に名詞を説明するのに使う。	*

練習1 下の□から適当な動詞を選び、適当な形にして、____の上^{じよし}に書きなさい。()には助詞を書きなさい。(A、B共に一つの言葉を2回使うこともあります。)

A おす かかわる かまける 経^へる かねる 即^{そく}す

- 1 今後、教育の現場では時代() _____ カリキュラムが検討^{けんとう}されていくだろう。
- 2 父は足の痛み() _____ 今日も子供たちに野球を教えに出かけていった。
- 3 夫は仕事() _____ 家事を手伝おうとはしない。
- 4 山田氏はさまざまな職業() _____ 現職^{げんしょく}に就^ついている。
- 5 今度の日曜日には墓参^{はかまい}り() _____ ふるさとまでドライブすることにした。
- 6 現在の医療^{じつたい}の実態() _____ 国は早急^{さつきゅう}に有効^とな取^とり組^くみを行うべきであろう。
- 7 何か実益^{じつえき}() _____ 趣味^{しゆみ}はないかと探している。
- 8 立ち退^たきは基本^の的人^{じん}権^{けん}() _____ 問題だから、慎重^{しんちゆう}に考えなければならない。

B 照らす ひかえる ひきかえる 踏^ふまえる かこつける まつわる

- 1 向かいのラーメン屋には行列ができているの() _____ うちの店はまるで人気がない。
- 2 常識() _____ 考えてみれば、彼の言^い分^{ぶん}が通るはずはない。
- 3 散歩() _____ また駅前^{えきまえ}のパチンコ屋に行くのではないでしょうね。
- 4 市場調査の結果() _____ 環境に優しい小型車^{こがたしゃ}を開発^{かいはつ}することにした。
- 5 帰国^{きこく}を明日() _____ 留学生活の思い出が次から次へと心に浮かんできた。
- 6 この作家は花() _____ エッセイをいろいろ書いている。
- 7 結婚^{まぢか}を間近() _____ 姉は、ここ数日準備でとても忙しそうだ。



練習2 下の□から適当なものを選び、その記号を____の上書きなさい。

- A aをおして bをかねて cにかまけて dに照らして
eをひかえて fを経て gにまつわる

しばらくアルバイトばかりの生活で、忙しさ①_____趣味の旅行からは遠ざかっていたが、この春休みは、卒業論文のための現地資料集め②_____歴史を探索する旅に出たいと思っている。長い時間③_____今に至る各地の歴史的なスポットを見て歩くのは、この上なく楽しい。また、各地の案内所に行けば、それらのスポット④_____話などが書いてある冊子も置いてあるので、わたしは必ずもらってくることにしている。歴史的な事実⑤_____作られた地図も面白い。今年は就職活動⑥_____忙しくなるが、無理⑦_____も、ぜひまた旅に出たい。

- B aと相まって bにかこつけて cにのっとり
dにひきかえ eにかかわる

わたしは子育てをしながら高校で歴史を教えている。普段は旅する余裕もないのだが、この5月、歴史の研究①_____思い切って京都と奈良に出かけた。奈良の寺は、周囲の新緑②_____どこも絵葉書のように素晴らしかった。そこでわたしは60代と思われる女性の旅行者と出会った。彼女は昨年、命③_____病気をしたとかで、そのためにいっそう奈良への旅をしたくなったのだと言っていた。奈良は彼女の思い出の地。かつて、奈良で古い様式④_____結婚式を挙げたのだそう。奈良が静かで落ち着いた雰囲気だったの⑤_____、京都は若い人たちばかりで何となく落ち着かなかった。それでも、わたしは十分に旅を楽しむことができた。

(*はここで初めて学習する文法形式)
ふんぽうけいしき

元の動詞	文法形式	例	課
いた 至る	～に至るまで	みそ、豆腐 <small>とうふ</small> に至るまで、食材 <small>しょくざい</small> はすべて手作りだ。	2
	～に至って	死者 <small>ししや</small> が出るに至って <small>はじめて</small> 事態 <small>じたい</small> の深刻さに気づいた。	16
	～に至っては	理系 <small>りけい</small> の科目は苦手だ。物理 <small>りけい</small> に至っては全くわからない。	16
	～の至りだ	⇒最高 <small>さいこう</small> に～だ。【硬い言い方】 ①大統領にお目にかかれて、実に光栄 <small>こうえい</small> の至りです。 ②言葉遣い <small>ことばづか</small> の間違 <small>あやまち</small> いを指摘 <small>してき</small> され、赤面 <small>せきめん</small> の至りだった。 ③あのころは若気 <small>わかげ</small> の至り <small>で</small> 、いろいろ失敗もした。 ⚠ ③の「若気 <small>わかげ</small> の至り」は慣用的な言い方 <small>いのかた</small> で、若いせい <small>わか</small> で愚かな行動 <small>おろ</small> をとってしまうという意味 <small>いみ</small> 。	*
あ 当たる	～には当たらない	通勤時間 <small>おどろ</small> が1時間半でも驚くには当たらない。	18
きん 禁ずる	～を禁じ得ない	犯行動機 <small>はんこうどうき</small> の身勝手 <small>みがって</small> さに怒り <small>いか</small> を禁じ得ない。	20
かなう	～てはかなわない	⇒～という嫌 <small>いや</small> な状況 <small>じょうきょう</small> は我慢 <small>がまん</small> できない。 ①隣 <small>となり</small> のうちの犬がこううるさく <small>ては</small> かなわない。 ②こんなに文句 <small>もんく</small> ばかり言われては <small>か</small> ないませんよ。	*
しの 忍ぶ	～に忍びない	⇒心 <small>こころ</small> が痛 <small>いた</small> んで～することが耐 <small>た</small> えられない。 ①古い本はもう読まないとは思 <small>う</small> が、処分 <small>しよぶん</small> するに忍びない。 ②実家 <small>じつか</small> の家は今 <small>いま</small> はだれも住 <small>す</small> んでおらず、見るに忍びないほど荒 <small>あ</small> れてしまった。	*
は 恥じる	～に恥じない	⇒～の名誉 <small>めいよ</small> を傷 <small>きず</small> つけない。 ①五つ星レストランの名 <small>な</small> に恥じない料理を出す。 ②貧乏 <small>びんぼう</small> でも、良心 <small>りょうしん</small> に恥じない生き方をしたい。 ⚠ 名詞 <small>めいし</small> を説明 <small>せつめい</small> するのに使 <small>つか</small> うことが多い。 おお	*
はばかる	～てはばからない	⇒遠慮 <small>えんりよ</small> や気兼ね <small>きが</small> をするべきなのに、大胆 <small>だいたん</small> にも～する。 ①彼は自分 <small>おれ</small> は天才 <small>てんさい</small> だと言 <small>い</small> ってはばからない。 ②彼女は権力者 <small>けんりょくしゃ</small> を気取 <small>きど</small> ってはばからない人だ。	*



練習1 下の□から適当な動詞を選び、適当な形にして、____の上書きなさい。()には助詞を書きなさい。(一つの言葉を2回使うこともあります。)

いた 至る かなう 当たる は 恥じる しの 忍ぶ きん 禁ずる はばかる

- 1 失敗したからといって、非難する() _____。彼は最善を尽くしたのだ。
- 2 わたしの作品をこれほど多くの人に見ていただけるとは、まさに感激() _____。
- 3 子供が学校へ行きたくないと言い出す() _____、親は初めて子供の様子に注意を払い始めた。
- 4 小川氏は財政のことは自分に任せろと言って _____ が、本当にできるのだろうか。
- 5 失業率は依然として高い。若年層() _____、10%以上になっている。
- 6 毎日こう暑くては _____。
- 7 この小学校は建造物として歴史的価値があり、壊す() _____ という声が地元住民から上がっている。
- 8 キャプテンという名() _____ ように、チームのために頑張ります。
- 9 石井氏の差別的な発言には、怒り() _____。
- 10 地震の被害状況を視察に来た前川大臣は、都市部はもちろん小さい村々() _____ まで声をかけて回った。

練習2 下の□から適当なものを選び、その記号を____の上書きなさい。

a に至っては b には当たらない c に恥じない
d に忍びない e はばからない

新しい市長を決める選挙がやっと終わった。選挙演説では、候補者たちは市のためならどんな努力も惜しまないと公言して① _____ ものだ。今回もある候補者② _____、「この町は昔は活気があったが、今は見る③ _____ ほどさびれてしまった。自分が市長になったら必ず活気のある町を取り戻す。」などと言ったが、どんな具体的な案を持っていたのか。選挙中の言葉と選挙後の行動が違うことはよくあることなので、今さら驚く④ _____ が、とにかく、新しい市長には、長という立場⑤ _____ 市政を志してほしい。

C ^{ふる} ^{こと} ^ば ^{つか} ^い ^{かた}
古い言葉を使った言い方

N1の文法形式の中には古い言葉を使ったものがあります。その文法形式を学習したことがなくとも、元の言葉の意味がわかればその文法形式の意味を類推することができます。

(*はここで初めて学習する文法形式)

古い言い方	意味	文法形式	例	課
～ず	～ない	～にとどまらず	^{こくない} 国内にとどまらず海外でも人気だ。	3
		～ならいざしらず	赤ん坊ならいざしらず普通の大人はあいさつぐらいするものだ。	5
		～をものともせず(に)	危険をものともせず ^{そうさく} 搜索を続けた。	5
		～ずにはすまない	物を壊したら ^{あやま} 謝らずにはすまない。	20
～ん	～そうだ	～んばかりだ	割れんばかりの拍手が起こった。	6
	～(よ)う	～んがため(に)	夢を実現させんがため上京した。	11
～べし	～なければならぬ	～べからず	ここで釣りをするべからず。	13
	～可能性がある	～べく	プロ選手になるべく毎日練習した。	11
		～べくもない	これは疑うべくもない事実だ。	13
		～べくして～	⇒～は ^{とうぜん} 当然の結果だ。 ①我々は ^{われわれ} 勝つべくして勝った。 ②事故は起きるべくして起きた。 ⚠前後には同じ動詞が来る。	*
～まい	～ないだろう	～(よ)うが～まいが	雨が降ろうが降るまいが行く。	10
		～ではあるまいし	子供ではあるまいし ^{がまん} 我慢しろ。	12
～かろう	～いだろう	～かろうが	どんなに難しかろうが ^{がんば} 頑張る。	10
～まじ	～てはいけない	～まじき	これは許すまじき犯罪である。	13
～たり	～である	～たるもの(は)	^{しんし} 紳士たるものは、強くあるべきだ。	14
		～たりとも…ない	1日たりとも練習を休まない。	17
～ごとし	～ようだ	～ごとく・～ごとき	⇒～ように・～ような 書き言葉 ①下記のごとく、規則を定める。 ②裏切るごとき ^{こつゐ} 行為は許されない。	*
～いかん	～はどうか	～いかんだ	面接の結果い ^{さいよう} かんで採用が決まる。	5
		～いかんによらず	年齢い ^{さいよう} かんに ^よ らず給料は同じだ。	5



練習1 Aの言葉の意味と合うものをBから選んで線で結びなさい。

- | A | • | • | B |
|----------|---|---|--------------|
| I ①言わず | • | • | a 言わなければならない |
| ②言うべし | • | • | b 言うように |
| ③言うごとく | • | • | c 言わない |
| II ④言うまい | • | • | d 言うてはいけない |
| ⑤言うまじ | • | • | e 言おう |
| ⑥言わん | • | • | f 言いたいだろう |
| ⑦言いたかろう | • | • | g 言わないだろう |

練習2 ()の中の言葉を適当な形にして、____の上書きなさい。

- 1 プロになる道のりがどんなに_____と、僕はあきらめない。(つらい)
- 2 わたしが結婚_____が_____が、仕事には関係のないことだ。(する)
- 3 人をだまして金をとるなんて、_____まじき行為だ。(許す)
- 4 借りたものをなくしてしまったのだから、弁償_____ずにはすまないだろう。(する)
- 5 このタレントは十代の若者に_____ず、幅広い世代の人たちに人気がある。(とどまる)
- 6 選手たちはミスを連発した。_____べくして負けた試合だった。(負ける)
- 7 この公園の動物にえさを_____べからず。(与える)
- 8 彼の態度はすぐ帰れと_____んばかりだ。(言う)
- 9 営業の目標を達成_____んがため、彼は必死で頑張った。(する)
- 10 わたしが本当のことを_____が_____が、彼は態度を変えないだろう。
(打ち明ける)

D 「もの・こと・ところ」を使った言い方

N1の文法形式には、形式名詞（もの・こと・ところ）を使ったものがあります。整理しておきましょう。

(*はここで初めて学習する文法形式)

	文法形式	例	課
もの	～てからというもの(は)	就職してからというもの、毎日忙しくしている。	1
	～というもの(は)	この3か月というもの、仕事に夢中だった。	*
	～ものを	よせばいいものを、彼は社長に大声で文句を言った。	8
	～ないものでもない	⇒状況によっては～かもしれない。 ①少し遠いが、歩いて行けないものでもない。 ②条件によっては、この仕事を引き受けられないものでもない。	*
	～ものと思う	⇒当然～だ。 ①落としたものと思っていた指輪が出てきた。 ②バスは頻繁にあるものと思うが、確認してみよう。 ⚠️ 話者の確信のある判断を表す。	*
～ものと思われる	⇒～だろう。 ①連休はかなりの渋滞になるものと思われる。 ②台風はそのまま北上するものと思われます。 ⚠️ 推測を表す。報道などで使う言い方。	*	
こと	～をいいことに	⇒～という好機を利用して、悪いことをする。 ①先生がいないのをいいことにサボっている。 ②彼は相手がおとなしいのをいいことに一方的に文句を言い続けている。	*
ところ	～といったところだ	参加者はせいぜい6、7人といったところだ。	2
	～ところを	お急ぎのところをすみません。	8
	～たところで	今さら謝ったところでどうにもならない。	10
	～にしたところで	⇒～の場合でも無力だ・無意味だ。 ①厳しい批判をしてしまったが、わたしにしたところでいい案を持っているわけではない。 ②日本はテロ対策が甘いと思う。災害対策にしたところで同じことだ。	*



練習1 適当なものを選びなさい。

- 1 黙^{だま}っていれば(), 余計なことを言うから面倒なことになるのだ。
a いいことを b いいものを c いいことで d いいもので
- 2 弟は家族が留守なのを(), 冷蔵庫の中のケーキを食べてしまったようだ。
a いいことで b いいことに
c 良さそうなことで d 良さそうなことに
- 3 無理をすれば、今週中にこの仕事を仕上げられない()が、やはり丁寧^{ていねい}にやったほうがいいだろう。
a ものでもない b ことでもない c ところでもない d のでもない
- 4 時間をオーバーして働いたので、当然^{ざんぎょうだい}残業代が()と思っていたが、出なかった。
a 出ること b 出るもの
c 出ないことでもない d 出ないものでもない
- 5 どんなに頑張^{がんば}って交渉^{こうしょう}してみた(), これ以上の条件の改善は望めないだろう。
a ところ b ところが c ところを d ところで
- 6 この試験の合格率はそんなに高くありません。せいぜい35%()でしょうか。
a というもの b といったもの c といったところ d ということ
- 7 犯人は自転車^{うば}を奪^{うば}って逃げた()思われる。
a ことに b ことと c ものと d ものに
- 8 職探しを手伝うと弟に言ったものの、わたし()何かできるわけではない。
a とするところで b にすることから c としたことも d にしたところで
- 9 この本を読んでから(), ヨーロッパへのあこがれがますます強くなっている。
a ということ b といったもの c というもの d といったこと
- 10 ご乗車のお客様、おかつろぎの()^{きょうしゅく}恐縮です。切符を拝見いたします。
a ところを b ところに c ところで d ところが

N1の文法形式には、同じ言葉、対の言葉、同類の言葉を2回重ねて言う表現があります。例を挙げるものや、繰り返しの動作を表すものなどです。

(*はここで初めて学習する文法形式)

文法形式	例	課
～といい…といい	この虫は色といい形といい木の葉にそっくりだ。	4
～といわず…といわず	子供たちは手といわず足といわず全身砂だらけだ。	4
～なり…なり	わからない言葉は、人に聞くなり辞書で調べるなりしてください。	4
～であれ…であれ	文学であれ音楽であれ芸術には才能が必要だ。	4
～であろうと…であろうと	ビールであろうとワインであろうと酒は酒だ。	4
～(よ)うが～まいが	雨が降ろうが降るまいが、サッカーの練習をする。	10
～ば～で ～たら～たで	家が広ければ広いで、掃除が大変だろう。 引っ越したら引っ越したで、たくさんやることもある。	10
～に～ない	子供に泣かれて、出かけるに出かけられなかった。	13
～(よ)うにも～ない	電話番号がわからず、連絡しようにも連絡できない。	13
～つ…つ	⇒対の動作を繰り返す。限られた動詞につく。 ①あの子はさっきから店の前を行きつ戻りつしている。 ②マラソンの選手たちは抜きつ抜かれつ、激しい争いを繰り返した。 🌀 動 ま手 +つ+動 ま手 +つ	*
～ては…、～ては…	⇒一連の動作を繰り返す。 ①書いては消し、書いては消して、手紙を書き上げた。 ②子供は積み木の家を作っては壊し、作っては壊している。 ③彼はさっきから時計を見てはそわそわしている。 🌀 動 て形 +は ⚠️ ③のように表現を2度繰り返さない使い方もある。	*
～かれ…かれ	⇒～くても～くても同じことが言える。 ①多かれ少なかれ、みんな悩みを抱えている。 ②良かれ悪しかれ、親の考えは保守的だ。 🌀 形 ㄎ +かれ *例外：悪い→悪しかれ ⚠️ 対立する意味の形容詞(多い・少ない、良い・悪いなど)を並べて使う。	*

N1の文法形式には、用法が限られている助詞・助詞相当語や、古くから使われている助詞があります。一般的に古い言葉は改まった感じがします。整理しておきましょう。

(*はここで初めて学習する文法形式)

助詞	文法形式	例	課
をもって	～をもって	明日をもって願書受け付けを締め切ります。	2
		彼は非常な努力をもって苦難を乗り越えた。	11
こそ	～ばこそ	今苦しければこそ、後で本当の喜びがある。	12
だに	～だに	そんな大惨事は想像するだに恐ろしい。	17
すら	～すら	彼のうそには悲しみすら覚えた。	17
にして	～にして	これは真の天才にして初めて作れる作品だ。	17
		⇒ことからの評価や起こり方を述べる。 →17課-④ ①幸いにして、体調はすぐに回復した。 ②地震が起こり、一瞬にしてがけが崩れ道路をふさいでしまった。 ⚠ 慣用的な言い方で、限られた言葉につく。	*
とて	～とて	⇒～でも・～ということで <書き言葉> ①母親とて、彼の本当の気持ちは理解できないだろう。 ②子供が風邪を引いたからとて、仕事を休むわけにはいかない。 ③慣れぬこととて失礼がありましたこと、お許してください。	*
にて	～にて	⇒～で <書き言葉> ①【手紙】8月18日 パリにて。 ②ホームページ作成を格安にて承ります。 ③手短に要件のみにて失礼します。	*
やら	～やら	⇒～かわからない。 ①どこにかぎをおいたのやら見つからない。 ②わたしには何のことやらさっぱりわからない。	*
より	～より	⇒～から <硬い言い方> ①【手紙】8月18日 山田ゆり子より。 ②雑誌『旅』9月号30ページより抜粋。 ③入場整理券は3時より配布します。	*



練習1 適当なものを選びなさい。

- 1 猫は目をつぶって微動()せずに座っている。
a だに b でも c こそ
- 2 子供は3歳()このような行動をすることもある。
a をもって b にして c でこそ
- 3 みんなわたしを頼りにしているらしいが、わたし()こんなに長期の海外旅行は初めてで、不安なのだ。
a こそ b にて c とて
- 4 署名()正式な手続きは完了となります。
a にして b をもって c できえ
- 5 この小説の主人公は、()幼いころ両親と生き別れた。
a 不幸をもって b 不幸にして c 不幸なこととて

練習2 下の□から適当なものを選び、____の上書きなさい。

A をもって こそ だに にて やら

- 1 商品のご注文受け付け後、「確認メール」_____ご注文の確認をさせていただきます。
- 2 交通事故を起こしてしまい、頭が混乱して何が何_____わからなくなってしまった。
- 3 福田さんの実行力_____すれば、いろいろな問題がスムーズに片付いていくだろう。
- 4 あの子がタレントになるなど夢に_____思わなかった。
- 5 希望があれば_____今のつらさも耐えられるのだ。

B にして すら とて にて より

- 1 当店は、とれたての野菜を産地_____直送し、販売しております。
- 2 この理論は専門家で_____理解が難しい。
- 3 当社のホームページ_____商品のカタログをご覧いただけます。
- 4 あの二人は結婚10年目_____別れてしまった。
- 5 【手紙】大勢の人の前でのスピーチは初めてのこと_____、大変緊張いたしました。

N 1 の文法形式は、それぞれに文法的性質を持っていて、文を作るときの制約になります。
以下のような文法的性質に気をつけながら学習しましょう。

1 事実が気持ちが入っているか

a) 後に話者の希望・意向を表す文や働きかけの文が来る。

～なり…なり(4課)

b) 後には働きかけの文は来ない。

～といわず…といわず(4課) ～べく(11課) ～んがため(に)(11課)

c) 後には話者の希望・意向を表す文や働きかけの文は来ない。

～が早いか(1課) ～や否や(1課) ～といい…といい(4課) ～ものを(8課)

～とはいえ(8課) ～と思いきや(8課) ～たところで(10課) ～ときたら(14課)

～ともなると(14課)

d) 後に推量の文が来る。

～ようでは(9課)

2 自分か他者か

a) 一人称が主語の文につく。

～て(は)いられない(13課) ～てやまない(20課) ～に堪えない(20課)

～を禁じ得ない(20課)

b) 三人称が主語の文につく。

～なり(1課) ～をものともせず(に)(5課) ～をよそに(5課) ～とばかり(に)(6課)

～きらいがある(6課) ～とあって(12課) ～とは(19課)

3 プラスイメージかマイナスイメージか

a) 後には主にマイナスイメージの文が来る。または全体としてマイナスイメージの文になる。

～そばから(1課) ～はおろか(3課) ～ならいざしらず(5課) ～きらいがある(6課)

～ものを(8課) ～たら最後・～たが最後(9課) ～ようでは(9課) ～たところで(10課)

～ときたら(14課) ～に至っては(16課) ～始末だ(16課) ～つばなしだ(16課)

～を余儀なくされる・～を余儀なくさせる(20課)

b) 後には主にプラスイメージの文が来る。または全体としてプラスイメージの文になる。

～を皮切りに(して)(2課) ～をおいて(3課) ～ならでは(3課)

～をものともせず(に)(5課)



練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

- 1 うちで作ったこの大根^{だいこん}、みそ汁^{しる}に入れるなりサラダにするなり { a 使ってみてください。
b いろいろな食べ方を楽しんだ。
- 2 現地^{げんち}に着くが早いか { a 必ず電話してくださいよ。
b 彼は母親に電話をかけた。
- 3 あの旅行社は企画力^{きかくりょく}といい細やかな気配^{こまきくば}りといい、 { a ぜひ、お宅^{みなら}も見習ってください。
b 申し分^{もうぶん}ありません。
- 4 雪が降り出したとはいえ、 { a 散歩に出かけませんか。
b そんなに寒さを感じないのはなぜでしょうね。
- 5 頭を下げて頼まれたところで、 { a できないものはできないのです。
b この仕事はもう辞めさせてください。
- 6 冬の夜空^{よぞら}の星を観察するべく、 { a 彼は夜中に山に登っていった。
b わたしも一緒に連れて行ってください。
- 7 人に知られた女優ともなると、 { a 常に美容には気をつけていなければならないようだ。
b ぜひ普段の美容法を教えてください。
- 8 偏^{かたよ}った食事ばかりしているようでは、 { a 体力^{たいりょく}が衰^{おとろ}えてしまった。
b 体力が衰えてしまいますよ。
- 9 { a 松本^{まつもと}さんはそんなところで立ち話^{たちばなし}をしてはいられない。早く報告書^{ほうこくしょ}を書いてほしい。
b あ、こんなところで立ち話をしてはいられないわ。ごめんなさい。お先に帰ります。
- 10 その人の最期^{さいご}を知って、 { a わたしは涙^{なみだ}を禁^{きん}じ得^えなかった。
b 母は涙を禁じ得なかった。
- 11 { a わたしは子供たちの世話^{せわ}で忙しいとあって、今度の旅行には参加できそうもない。
b だれもが就職^{しゅうしょく}活動などで忙しいとあって、旅行の企画^{きかく}は実現しなかった。
- 12 親の心配^{しんぱい}をよそに、 { a 兄はまたリュック一つで世界^{せかい}を一人旅^{ひとりたび}している。
b 来年こそは世界のあちこちを一人旅して回りたい。
- 13 非常時^{ひょうじ}以外には消火器^{しょうかき}の栓^{せん}を抜かないでください。
抜いたら最後、 { a 中のガスがみんな出てしまいます。
b すぐに栓を元^{もと}に取^おめてください。
- 14 川口君^{かわぐち}ときたら、 { a 本当に誠実^{せいじつ}で好感^{こうかん}がもてる青年だ。
b お金の無駄遣^{むだづか}いばかりしている。

実力養成編

第2部 文の文法2

語と語を結びつけて意味の通る文を組み立てるためには、文法的な決まりを考えながら語を並べていかなければなりません。文法形式の意味や用法がわかることだけではなく、実際に文を組み立てられることが大切です。

1 課 ぶん くの た き 決まった形 かたち

文を組み立てるときは、組み立てのルールに従わなければなりません。そのうち、ぜひ覚えておくべきルールは次のようなものです。

1 後に否定の言い方が来るもの

- ・～をおいて こんなアイデアが出せる人は高橋さんをおいてほかにいない。
(第1部3課)
- ・～なしに(は) チームワークなしにはこのプロジェクトは成功しなかつただろう。
(第1部9課)
- ・～たところで 今さら悔やんだところで、もう取り返しはつかない。(第1部10課)
- ・～(よ)うにも 疲れていて起き上がるうにも起き上がれなかつた。(第1部13課)
- ・～に 家を出るに出られない事情があつて、このところ外出していない。
(第1部13課)
- ・～たりとも 運転中は一瞬たりともよそ見をしてはいけない。(第1部17課)
- ・～だに こういふことになるとは想像だにしなかつた。(第1部17課)
- ・～にしたところで わたしにしたところでいい案を持っているわけではない。(第1部D)

2 疑問詞につくもの

- ・～ともなく どこからともなく鳥が鳴く声が聞こえてきた。(第1部6課)
- ・～であれ・であろうと どんな企画であれ、しっかりとした準備が必要だ。(第1部10課)
- ・～たところで だれが何を言ったところで、彼は聞く耳を持たない。(第1部10課)
- ・～にもまして わたしにとって音楽は何にもまして心をいやしてくれるものなのです。
(第1部15課)

3 数字につくもの

- ・～といったところだ わたしの家から駅まで、7、8分といったところです。(第1部2課)
- ・～たりとも 今は1分たりともぼんやりしてはいられないのです。(第1部17課)
- ・～からある 母は15キロからある荷物も軽々と運ぶ。(第1部17課)
- ・～というもの(は) この10年というもの、仕事に追われて趣味を楽しむ余裕がなかつた。
(第1部D)



次の文の ★ に入る最もよいものを、1・2・3・4の中から一つ選びなさい。

- 1 この旅行で _____ ★ _____ でも気軽に話せたことだ。
1 何 2 だれと 3 にもまして 4 良かったことは
- 2 帰国後 _____ ★ _____ だった。
1 1か月 2 連日^{れんじつ} 3 職探し 4 というもの
- 3 祖母が _____ ★ _____ 歌は、わたしが知らないものばかりだ。
1 聞かせる 2 歌う 3 ともなく 4 だれに
- 4 父は釣ってきた _____ ★ _____ するなと言った。
1 1匹 2 粗末^{そまつ}に 3 魚は 4 たりとも
- 5 _____ ★ _____ 時間は取り戻せない。
1 後悔^{こうかい}した 2 過ぎた 3 ところで 4 どんなに
- 6 彼女の _____ ★ _____ あるのだろうと思って、何も聞かなかった。
1 話せない 2 話すに 3 退職^{たいしょく}には 4 事情が
- 7 将来 _____ ★ _____ だけは大切にしたいほうがいい。
1 人間関係 2 仕事をするの 3 どんな 4 であれ
- 8 この案に不賛成なら代案^{だいあん}を _____ ★ _____ 名案^{めいあん}があるわけではない。
1 わたしに 2 言われても 3 出せと 4 したところで
- 9 転職^{てんしょく}する _____ ★ _____ と思って決心した。
1 時期は 2 考えられない 3 ほかに 4 今を置いて
- 10 今晚中に戦後史^{せんごし}について _____ ★ _____ を読まなければならない。
1 資料 2 100 ページ 3 書かれた 4 からある
- 11 部品がない _____ ★ _____ 直せないではありませんか。
1 といっても 2 のでは 3 直そうにも 4 大切なマシンだから
- 12 責任者の _____ ★ _____ はできないんです。
1 許可 2 入室^{にゅうしつ} 3 部外者^{ぶがいしゃ}の 4 なしには

N 1 の文法形式には、後に必ず名詞が来るものがあります。また、名詞を説明する形式も、初級で学習したものに加えてさらにいろいろあります。

1 後に名詞が来るもの

- ・～まじき 暴力をふるうなどとは、許すまじき行為だ。(第1部13課)
- ・～べからざる さち子さんはこの仕事仲間に欠くべからざる存在だ。(第1部13課)
- ・～ともあろう あなたともあろう人が、どうして人にだまされたの？(第1部14課)
- ・～あつての お互いの協力あつての結婚生活だ。(第1部17課)
- ・～からある 毎日10キロからある道のりを自転車で通った。(第1部17課)
- ・～にかかわる これは将来にかかわる大切な問題だ。(第1部A)

2 名詞を説明する形式

a) 動詞のて形・～たり～たりの形・条件の言い方+の+名詞

- 例
- ・子供を入れての人数
 - ・親がいてこそその安心感
 - ・寝たり起きたりの生活
 - ・お金があつたらの話
 - ・もし良ければの話

b) 副詞+の+名詞

- 例
- ・たびたびの入院
 - ・全くの誤解

c) 普通形+名詞(ことからの内容を説明する場合)

- 例
- ・信頼できるリーダーがいない状態
 - ・間違いをチェックする役割
 - ・銀行から大金が盗まれた事件
 - ・よくわからないとき、頻繁にまばたきするくせ

d) 普通形+という+名詞(発話や心情の内容を説明する場合)

- 例
- ・来年もまたここで集まろうという話
 - ・これから先どうなるんだろうという不安
 - ・わたしが作ったんだという満足そうな顔



次の文の ★ に入る最もよいものを、1・2・3・4の中から一つ選びなさい。

- 1 他人の功績を横取りする _____ ★ _____ することではない。
 1 大学の学長 2 人の 3 ともあろう 4 なんて
- 2 原爆を落とす _____ ★ _____ してはならない。
 1 行為を 2 などという 3 許すべからざる 4 二度と
- 3 わいろを受け取る _____ ★ _____ ことだ。
 1 政治家に 2 まじぎ 3 ある 4 とは
- 4 従業員の皆さんは、 _____ ★ _____ 姿勢を忘れないでください。
 1 お客様 2 サービス業 3 という 4 あつての
- 5 政府からの補助金が打ち切られる _____ ★ _____ 話ではないと楽観していた。
 1 事態も 2 という 3 の 4 今すぐ
- 6 わが社の _____ ★ _____ 気がつくべきだった。
 1 経済状態について 2 存続にかかわる 3 深刻な 4 もっと早く
- 7 昨日は _____ ★ _____ ので、かえって疲れた。
 1 山道を 2 でこぼこした 3 ゆっくり歩く 4 登山だった
- 8 江戸時代末期に、 _____ ★ _____ 高い若者が活躍した。
 1 日本の政治を 2 志の 3 という 4 良くしよう
- 9 値札に書いてある _____ ★ _____ 値段です。
 1 36,540円 2 消費税 3 というのは 4 込みの
- 10 日本へ来た _____ ★ _____ 友人が訪ねてきた。
 1 翌年 2 国で 3 昔からの 4 就職した
- 11 話し合いの後、わたしは、言うべき _____ ★ _____ 満足感を持った。
 1 ことは 2 密かな 3 という 4 すべて言った
- 12 この作品を _____ ★ _____ 焦りのため、毎日いらいらしていた。
 1 期限までに 2 指定された 3 という 4 作り上げたい

ばらばらの言葉を正しい語順の文に組み立てる場合、結びつきやすい組み合わせを探すと効率がいいです。そのためには、文法形式を学習するときどんな活用形につながるのかをしっかりと確認しておくといいです。典型的なものを整理しておきましょう。

1 名詞(「動詞・形容詞の普通形+の・こと」を含む)につくもの

→「を・も・は」のつく文法形式や「なら・では」が多い。

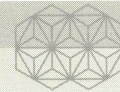
- ・この作品を皮切りに…(第1部2課)
- ・これをもって…(第1部2課)
- ・彼をおいてほかに…(第1部3課)
- ・料理はおろか…(第1部3課)
- ・危険をものともせず…(第1部5課)
- ・安いホテルならいざしらず…(第1部5課)
- ・ロボットではあるまいし…(第1部12課)
- ・部長ともなると…(第1部14課)
- ・きれいな好きなのにひきかえ…(第1部15課)
- ・読者あつての…(第1部17課)
- ・本年度を限りに…(第1部2課)
- ・豆腐に至るまで…(第1部2課)
- ・人柄もさることながら…(第1部3課)
- ・ハワイならでは…(第1部3課)
- ・家族の心配をよそに…(第1部5課)
- ・資金を確保することなしには…(第1部9課)
- ・うちの父ときたら…(第1部14課)
- ・経営者たるものは…(第1部14課)
- ・以前にもまして…(第1部15課)
- ・天才でなくてなんだろう(第1部18課)

2 名詞・動詞辞書形につながるもの →「に」を含む文法形式が多い。

- ・想像／想像するにかたくない(第1部13課)
- ・事故発生／事故が起きるに至って…(第1部16課)
- ・称賛／称賛するには当たらない(第1部18課)
- ・鑑賞／聞くに堪える・に堪えない(第1部19課)
- ・信頼／信頼するに足る(第1部19課)

3 動詞辞書形につながるもの

- ・空港に着くが早い…(第1部1課)
- ・部屋に入ってくるなり…(第1部1課)
- ・途中でやめるくらいなら…(第1部9課)
- ・出るに出不られる(第1部13課)
- ・立ち入るべからず(第1部13課)
- ・確認するまでもない(第1部18課)
- ・かばんを放り出すや否や…(第1部1課)
- ・見るともなく見ていた(第1部6課)
- ・サッカーの選手になるべく…(第1部11課)
- ・望むべくもない(第1部13課)
- ・許すまじき犯罪(第1部13課)
- ・一人でやってみるまでだ(第1部18課)



次の文の ★ に入る最もよいものを、1・2・3・4の中から一つ選びなさい。

- 1 珍しい _____ ★ _____ いいと思うよ。
1 料理を作るのでは 2 買い物すれば 3 あるまいし 4 普通のスーパーで
- 2 手術の後、両親が _____ ★ _____ すやすや眠っている。
1 おろおろするのを 2 心配して 3 赤ちゃんは 4 よそに
- 3 とても疲れていて、_____ ★ _____ 面倒だった。
1 食事を作ること 2 ^お^あ起き上がること 3 はおろか 4 さえ
- 4 命にかかわる _____ ★ _____ 病気でそんなに慌^{あわ}てることはない。
1 病気 2 いざしらず 3 これぐらいの 4 なら
- 5 リーさんのスピーチは _____ ★ _____ 魅力的^{みりよくてき}だった。
1 落ちついた 2 内容も 3 話し方が 4 さることながら
- 6 この道30年の _____ ★ _____ よく心得ている。
1 なんと 2 ^{いた}至るまで 3 ベテランとも 4 ^{さいぶ}細部に
- 7 改めて _____ ★ _____ なしには満足も得られないだろう。
1 言う 2 努力する 3 までもなく 4 こと
- 8 この3連休^{れんきゆう}は _____ ★ _____ 家にいるほうがいい。
1 混雑^{がまん}を我慢して 2 何もしないで 3 ^{こうらくち}行楽地で遊ぶ 4 くらいなら
- 9 彼の _____ ★ _____ 歓声^{かんせい}を上げた。
1 ^{しじ}支持する 2 ^{むざい}無罪^{かくてい}が確定する 3 人たちが 4 や
- 10 親からの _____ ★ _____ 家を出た。
1 独立して暮らす 2 ^{しやうだく}承諾を 3 待ちきれず 4 べく
- 11 うちの母と _____ ★ _____ できない。
1 きたら 2 ビデオの録画も 3 パソコンは 4 おろか
- 12 ^{のうにゆう}納入がよく遅れるという理由で _____ ★ _____ 大切さがわかった。
1 失う 2 期限を守る 3 仕事を 4 に至って

実力養成編

第3部 文章の文法

文はいくつか連なって一続きのまとまり(文章)になります。しかし、一文一文がただ並んでいるだけでは文章とは言えません。一連の文がまとまって文章という単位になるには、文がゆるやかな決まりに従ってつながっている必要があります。文章にまとまりを与えるゆるやかな決まりが「文章の文法」と呼ばれるものです。

文章としてのまとまりを持たせるためには、時間の流れに矛盾がないように文を続ける必要があります。また、ある時点での出来事を言っているのか、ある時間幅における状態のことを言っているのかをはっきりさせることも大切です。現在形・過去形が必ずしも現在のこと・過去のことを表すわけではありません。

A 現在形の文の特別な用法

1. 歴史的な記録

過去の事実でも歴史的な記録の場合は現在形を使うことがあります。

例・1868年、明治時代が始まる。

・16～18世紀のヨーロッパ諸国では、国王が専制政治を行う絶対君主制が確立する。

2. その場にいるような感じを出す効果

小説などの描写文(過去形の文章)で、現在形の文を使ってその場にいるような感じを出すことがあります。視点が過去のその場面に移動します。

例・マキは外を見た。雪が降っている。間もなく日が暮れる。今日は家にいようと思直した。

・9月になって転校生が入ってきた。名を次郎と言った。黙々と本を読む。弁当を食べる。授業が終わるとさっさと帰る。そのうち「黙りん次郎」というあだ名がついた。

B 過去形の文の特別な用法

1. 記憶の確認

かつて一度記憶したことを確認するときに過去形が使われます。

その場で思い出したときに「の(ん)だった」がよく使われます。

例・会議はあしたでしたか。あさってだと思っていきましたが……。

・あ、いけない。赤ちゃんが寝ているんだった。静かにしなくては……。

2. 事実と反すること①

「～のだった・～べきだった・～はずだった・～ところだった」などの形で、実現しなかったことを表します。

例・今では後悔している。若いとき留学するんだった。

・警察はもっとよく調査するべきだった。



3. 事実に反すること②

事実に反することを仮定して、それが実現していれば、後のことが起こったはずだ(しかし、実際は起こらなかった)という意味を表します。文末に「～のに・～んだけどなど」をつけるこ

とがあります。→第3部2課

例・温度管理をする余裕があれば、いい花が咲いたんだけど……。

・あの日急用がなかったら、わたしもパーティーに参加できたのに。

C 動詞の「ている形」の特別な用法(「～ていた」の形で)

1. 事実に反すること

過去形を使うよりも、反事実であることがはっきりします。→第3部2課

例・こんなに大変な仕事だとわかっていたら、断っていただろう。

・母がもっと長生きしていたら、わたしは母と一緒に暮らしていたかもしれない。

2. 報告

他者の発言を報告するときの言い方です。

例・ゆきさんは今日は来ないと思います。風邪を引いたと言っていましたから。

D 名詞を説明する文の時制

1. 動きを表す動詞を使った場合は、主の文との時間的前後関係で時制が決まります。

例・来月 ロンドンに行った とき、ロンドン郊外にいる友人を 訪ねてみよう。

・ 新幹線の中で食べる 弁当を、東京駅で買った。

2. 特定の時点を表さない場合は、主の文の時制に関係なく現在形を使います。

例・去年、宅配便で毎週花を自宅に届けてくれる サービスを頼んだ。

・最近、エスカレーターでお年寄りがつまずく 事故が3件も起きた。

3. その時点でまだ実現していないことを表す名詞(可能性、目的、恐れ、計画など)を説明する文では、主の文の時制に関係なく、現在形を使います。

例・医師は 病気が再発する 可能性を説明した。

・ 汚染状況を調べる 目的でデータを 集めた。

練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

わたしはよく後悔する。中でも自分で(①a 言う b 言った)言葉を後悔することが多い。あんなことを言わなければ(②a いい b よかった)。どうしてあんな言葉が口から出てしまったんだろう。無意識のうちに(③a 出てきている b 出てきてしまった)言葉だ。でも、わたしの口から出た以上、わたしに責任がある言葉だ。わたしの心のどこかに(④a 隠れて b 隠れていて)、我慢できなくて(⑤a 出てきた b 出ていた)のだ。かといって、慌てて拾ってまた口の中に戻すことはできない。修復できるものならすぐにそうしよう。あれは失言、言い過ぎだったと(⑥a 謝る b 謝った)。体裁が悪いが後悔を引きずるよりはずっと(⑦a いい b 良かった)。それができない場合は、なるべく早く忘れること。そして、次に同じ失敗をしないように気をつけることだ。(⑧a 頼まれる b 頼まれた)仕事を断って、いいチャンスを逃したことも多い。家の困り事とか、子供の問題とか、ちょっと体調が悪かったとかを理由に、せっかくの依頼を断ってしまう。こちらの事態が(⑨a 改善する b 改善した)ときはもう遅い。ああ、あのときちょっと無理をすれば(⑩a できるかもしれない b できたかもしれない)のに、あのときは無理でも、その無理は一時的なものだったのに、あの仕事を(⑪a 受ければ b 受けていれば)、今は充実した仕事を持って、バリバリ(⑫a やる b やっていた)だろうなどとひどく後悔する。

練習2 ()の中の動詞を適当な形・適当な時制に変えなさい。

- 1 「今日は早く帰る。(①約束する→)よ。」と言ったものの、帰れるかどうか自信がなかった。残業しながら(②思う→)。10年前、別の職業を(選ぶ→)ば、こんなに残業することは(③ない→)かもしれないが、今ほど満足は(④できる→)だろう、と。結局帰宅したのは10時だった。もちろん妻は食事を(⑤済ませる→)。
- 2 インフルエンザが(①流行する→)心配がまだ残っている。3年前、インフルエンザにかかってアメリカ旅行に(②行く→)予定をキャンセルしなければならなかった。予防注射を(③するべきだ→)と後悔したが、もう遅かった。しかし、あのとき予定通りアメリカに(④行く→)、母の最期には立ち会えなかったと思う。
- 3 昨年、小学生が同級生に(①いじめられる→)事件が3件続いた。そのうち1件は(②いじめられる→)子供が窓から飛び降りてしまった。幸い命は(③助かる→)が、親は黙っていない。「現場でもっと真剣に子供を守ってくれていたなら、こんなことには(④ならない→)のに」と抗議している。教育委員会は対策として、学校カウンセラーを増やす計画を(⑤検討する→)が、結論はまだ(⑥出ない→)。



まとめ 次の文章を読んで、文章全体の趣旨^{しゅしふ}を踏まえて、 1 から 5 の中に入る最もよいものを 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

本書のタイトル『サイクロトロンから原爆へ』は、サイクロトロン(加速器)が科学を象徴し、原爆が技術を 1 ことを示している。——なぜ原爆などという恐ろしい人類絶滅の兵器が生まれたのか? もし科学者や技術者がいなく、科学の発展もなかったなら、あのように恐ろしい兵器も 2 にちがいない。——だれもが考える素朴な疑問である。

しかし、本当に 3 。科学の発展が、つまり人類の自然認識の拡大・深化が、必然的に人類絶滅の兵器を生み出すことになったのだろうか。答えは否である。たとえサイクロトロンによって、マイクログラム(1マイクログラムは100万分の1グラム)オーダーのプルトニウムが生成できたとしても、長崎に投下された原爆が 4 。せいぜいプルトニウムの原子核特性を明らかにできるだけである。では、どうしていまのような危機的な世界を生み出してしまったのか。本書の目的は、この現代科学の 5 過程を歴史的に捉えかえすことにある。

(日野川静枝『サイクロトロンから原爆へ—核時代の起源を探る—』續文堂出版による)

1

1 象徴^{しょうちやう}した

2 象徴している

3 象徴していた

4 象徴していく

2

1 生まれた

2 生まれないでいる

3 生まれない

4 生まれなかった

3

1 そうだろう

2 そうだろうか

3 どうだろうか

4 どうだっただろう

4

1 つくれたわけである

2 つくれないわけではない

3 つくれるわけではない

4 つくれなかったわけである

5

1 矛盾^{むじゆん}に満ちた

2 矛盾に満ちていた

3 矛盾を感じた

4 矛盾を感じていた

文章としてのまとまりを持たせるために、ある条件をどう扱うかがポイントになることがあります。仮定か・確定かの判断とともに、後に来る文はどうつながるのかなどが文の流れを決める要素になります。

A 条件を表す文法形式(仮定か確定か)

◆ 同じ文法形式でも、実現していないことを仮定して条件を言う場合(仮定)と、実現したことを条件として言う場合(確定)があります。文脈からそれらを判断します。

1. ～とあれば →第1部9課

例・わたしが経営している幼稚園が存続の危機に陥っている。地域の子供たちはどうなるのだろう。子供たちのためとあれば、わたしは私費も投じるつもりだ。(確定)

2. ～たら最後・～たが最後 →第1部9課

例・我々は社会的な信用を失わないようにしなければならない。信用を失ったら最後、取り戻すのは難しい。(仮定)

・今回の事故で我々は社会的な信用を失ってしまった。信用を失ったら最後、取り戻すのは難しいだろう。今後の方策を真剣に考えなければならない。(確定)

3. ～ようでは →第1部9課

例・君は小さいことを気にし過ぎだ。小さいことをいちいち気にするようでは、いい仕事はできないだろう。(確定)

4. ～なしに(は)・～なしでは・～なくして(は) →第1部9課

例・どんな分野でも基礎研究には経済的支援が必要だ。支援なしにはいい研究はできないだろう。(仮定)

・我々の研究は国に理解してもらえず、経済的支援が得られなかった。支援なしには研究は続けられない。計画を中止せざるをえなかった。(確定)

5. ～くらいなら →第1部9課

例・これ以上無理をしたら体を壊すかもしれない。体を壊すくらいなら、この仕事はあきらめたほうがいい。(仮定)

・無理をして体を壊してしまった。体を壊すくらいなら、初めから引き受けなければよかった。(確定)



6. ～(よ)うと(も)・～(よ)うが →第1部10課

例・周囲の人はこの計画に反対するかもしれない。たとえ反対されようと実行したいと思っている。
(仮定)

・周囲の人はこの計画に反対している。しかし、反対されようと計画は変えられない。(確定)

7. ～たところで →第1部10課

例・議論をまだ続けますか。続けたところでいい結論は出ないと思いますが。(仮定)

・朝から議論をしている。しかし、議論をしたところで無駄だ。(確定)

B 反実仮想(実現しなかったことを仮定する)

◆実際には起こらなかったことを言うために、事実とは違っていることを仮定する言い方です。後

悔やほっとした気持ちを表すことが多いです。 →第3部1課

仮定:「～ば・～たら・～なら」または「～ていれば・～ていたら・～ていたなら」

文末:「～のに・～だろうに・～ところだった・～んだった・～ばよかった・～ものを」

例・事故を起こしたあの電車に乗っていたら、危ないところだった。

(事実:電車に乗らなかったから危なくなかった。)

・言葉の使い方にもう少し注意していれば、誤解されないで済んだものを。

(事実:言葉の使い方にも注意しなかったから誤解された。)

C 条件表現のそのほかの用法:前置き

◆思考や発話を表す動詞(思う・考える・思い出す・振り返る・言うなど)を使って前置きを言います。

仮定の意味はありません。

例・思えば、あの事件もずいぶん昔の話になった。

・考えてみれば(考えてみると)、誤解の原因はわたしの方にあるのかもしれない。

・わたしに言わせてもらえば、苦勞したことがない人にリーダーの役はできない。

・住民税の増税は、言ってみれば「弱い者いじめ」であるという声も出ている。

・はっきり言うと(言えば)、この作品は前のより悪い。

練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

- 1 どんな会社も営業部門が大切で、わが社も力を入れている。(①a 営業活動を抜きにしては
b 営業活動をしないとあれば)、会社の経営も成り立たないと言ってもいいくらいだ。しかし、
営業マンに対する扱いは厳しい。結果を(②a 出したら最後 b 出さないことには)、評価
してもらえない。先日も1週間頑張ったが、注文がうまく取れなかった。上司に、1週間で注
文が1件も(③a 取れないとしたら b 取れないようでは)営業マンとは言えないと言われ
てしまった。
- 2 教育をめぐってさまざまな議論が起きている。「詰め込みは良くない。子供たちに自分で考え
させるようにしなければ(①a だめだ b だめだっただろう)」という意見がある。これに対
して、一定の知識をきちんと(②a 教えなかったのなら b 教えることなしには)子供たち
の基本的な力はないという意見もある。いずれにしても、今の公教育を真剣に(③a 考え
なければ b 考えないとあれば)日本の将来が心配だ、という危機感から発した議論であろ
う。
- 3 大人になってから、若いときもっと勉強して(①a おくんだった b おけばいい)と後悔する
人が多い。わたしも、勉強しろとうるさい親の言うことを(②a 聞いていけばいい b 聞いて
いけばよかった)と思うことがある。成績の問題ではなく、難しい(③a 課題だとしたら
b 課題であろうと)一定時間取り組んでいられる我慢強さは、子供のときに養われるものかも
しれないのだ。
- 4 就職活動ではさんざんな目にあつた。第一、活動を開始したのが遅かった。もっと早くから始
めれば(①a チャンスがあるが b チャンスが あつたものを)、10月にはもういい就職先は
ない。日本語の力も弱かったと思う。面接で、「日本語が上手に(②a 話せないようでは
b 話せないとしたら)接客業は無理だ。」と言われた。その通りだと思う。後輩に言いたい。君
たちはまだ時間がある。日本語能力試験にも(③a 合格したほうがいい b 合格すればよ
かった)。頑張ってください。



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、□ 1 から □ 5 の中に入る最もよいものを 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

いかなる組織においても、最も重要な判断は人事である。□ 1、有能な人間が集まれば、あとは自然に良い方向へ流れて行く。人事を司る人間に必要なものは、何と云ってもすぐれた大局観と公平さである。この二つを兼ね備えた人間が□ 2、その人に人事を一任するのが最もよい。民主主義とは多数決であるから、しばしば力関係が反映され過ぎ公平を欠くし、大局観も平均値的レベルにしかなり得ない。学内人事におけるすぐれた大局観とは、その学問分野全体を展望する広い視野と、これからの潮流を流行にとらわれずに見通す洞察力である。公平とは無私である。

この二つを備えた人間を探すのは、考えるほど容易でない。□ 3、民主主義花盛りの現今では、その人間に一任とはなりにくい。そこで通常は、学問的業績の高い人とか政治能力の高い人、人格の高い人、派閥の長などが民主的会議の場で実権を□ 4。ところが、このような人々が、上に述べた二つの資質を持っているとは限らないのである。学問的業績が高いということは、細分化された現在の学問では、それだけ自らの専門への傾斜が強かったということとは□ 5、すぐれた大局観を必ずしも意味しない。人格や政治能力が学問の見識と無関係なのは言うまでもない。

(藤原正彦『遙かなるケンブリッジ 一数学者のイギリス』新潮文庫刊)

- | | | |
|-----|------------------|------------------|
| □ 1 | 1 人事さえうまく行き | 2 人事がうまく行かず |
| | 3 人事がうまく行かないとしても | 4 人事さえうまく行ったとしても |
| □ 2 | 1 いると | 2 いれば |
| | 3 いたとすれば | 4 いたとなったら |
| □ 3 | 1 仮にいたとしたら | 2 仮にいないとしたら |
| | 3 そもそもいないことには | 4 たとえいたとしても |
| □ 4 | 1 握りたくなる | 2 握れなくなる |
| | 3 握ることになる | 4 握ることはなくなる |
| □ 5 | 1 意味しても | 2 意味したところで |
| | 3 意味しないが | 4 意味しないにしても |

3 課

視点動かさない手段 - 1 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け

文章としてのまとまりを持たせるために、書き手はふつう、いつも同じ視点から物事を述べます。視点を動かさないようにするために、いろいろな手段が使われます。

視点 = 話者が物事を見ている位置

日本語では、視点を話者側に置くのが自然です。

A 話者を主語にする場合

◆ 次のような動詞を使った文で、動作主が話者のときは、話者を主語にして話者の視点から述べるのが普通です。

動詞の種類	例
ものが動作主から相手に移動することを意味する動詞	(～に～を)譲る・渡す・預ける・授ける
動作や感情が動作主から相手に向かうことを意味する動詞	(～を)捕まえる・いたわる・支持する・助ける (～に)憧れる・頼る・反感を持つ・期待する
ものが相手から動作主に移動することを意味する動詞	(～から～を)得る・預かる・授かる

◆ 動作主が他者で、動作や感情が他者から話者に向かうことを表すとき、話者を主語にして受身の形で述べることが多いです。 → 第3部5課

例・わたしは両親に期待されている。

* 話者と他者がお互いに相手に向けて同じ動作を表すときは「～合う」を使い、話者と他者の両方を主語にして述べる人が多いです。

例・わたしとカンさんは助け合って仕事をしている。

・わたしたちはいたわり合って生きてきた。



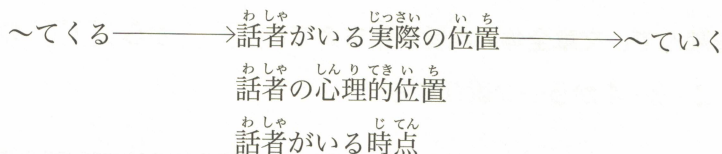
B 自動詞・他動詞の使い分け

動詞の種類	意味	例
他動詞	変化を起こす動作に注目	(電化が) 文化水準を高めた。
	失敗・責任	車をガードレールにぶつけた。 チャンスを逃した。
	慣用的表現	心臓が脈を打っている。 おなかを壊した。
自動詞	物の動き・変化に注目	文化水準が高まった。
	可能	トラックに全部の荷物が載るだろうか。 このロボットはもう動かない。
	動作の結果	針に糸を通そうとして、4回目にやっと通った。 作品ができ上がった。

練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

- 政権の交代は我々国民にとっても大きな問題だ。影響を(① a 与える b 受ける)人は少ない。新政権には政治的影響を(② a 与えた b 受けた)責任をしっかりと考えて政治を行ってほしい。いつの時代も政治の影響を(③ a 与える b 受ける)のは、力を持たない普通の庶民たちだが、庶民がかろうじて影響を(④ a 与える b 受ける)立場に立てるのは選挙の時だけだ。
- (① a おなかを壊して b おなかが壊れて)困っていたら、友達が薬をくれた。「ありがとう。(② a 助けたわ b 助かったわ)」とお礼を言った。(③ a わたしには b 彼女には)いろいろな悩みを打ち明けている。大切な友達である。
- 「これ、しばらく(① a お宅に預けるよ b お宅で預かるよ)」と親戚に言われて、うちでは大切な置物を(② a 預ける b 預かる)ことになった。しかし、ひとたび(③ a 災害を起こせば b 災害が起きれば)、うちだって安全かどうかわからない。早く(④ a 引き取ってほしい b 返してほしい)。

- 4 雑誌『生活の友』の8月号にわたしの(①a 作品が載る b 作品を載せる)から原稿を書いてほしいという出版社の依頼で、原稿を書き始めた。しかし、なかなか(②a 進まない b 進めない)。編集者に事情を話したら、(③a 締め切り日が3日延びてくれた b 締め切り日を3日延ばしてくれた)。今日、(④a その8月号が出た b その8月号を出した)という新聞広告を見たので、さっそく買ってきた。
- 5 家事や育児は、夫婦の共同作業が望ましいということに(①a なっているが b しているが)、多くの場合、女性の負担の方が大きいのが現状だろう。わたしの場合もそうだった。特に(②a 小さい子供が育っている b 小さい子供を育てている)時期は、社会とのつながりが薄くなってしまい、どうしても孤立感を持ちやすい。わたしはツイッターというインターネットの(③a コミュニケーションサービスができてから b コミュニケーションサービスを作ってから)、この孤立感から抜け出せたような気がする。(④a 友人に教わった b 友人が教えた)のだが、これはインターネット上に短いメッセージをリアルタイムで投稿するシステムである。主婦たちの間で次第に(⑤a 広まっている b 広めている)。
- 6 (①a 科学技術が進んでも b 科学技術を進めても)人間は次々に(②a 起こる b 起こす)新たな問題に取り組まなければならない。特に科学技術の進歩により(③a 可能になった b 可能にした)人間の遺伝子操作は、大問題だ。「遺伝子というものは(④a 授かったものだ b 授けたものだ)」という発想は、時代遅れになりつつあるのだろうか。遺伝子組み換え技術はもとより、現在、人の命を奪う兵器の技術も、人の命を救う医療の技術も、その水準が(⑤a 高まってきている b 高めてきている)。こんな時代にあって、(⑥a 科学技術が次の世代にどう伝わるか b 科学技術を次の世代にどう伝えるか)が教育現場の課題であろう。
- 7 仕事のゴールはもうすぐだ、頑張れとわたしは自分に(①a 言い聞かせた b 言い聞かされた)。この1年、1日9時間は実験室にこもって仕事を続けようと(②a 決まって b 決めて)、その通りに(③a 守ってきた b 守られてきた)。研究室の同僚たちも同様である。(④a 励ますことで b 励まし合うことで)、(⑤a 頑張れた b 頑張りが合った)のである。(⑥a 研究成果が賞を受ける b 研究成果に賞を与える)としたら、チームワークの結晶だと言いたい。



A 「～てくる・～ていく」をつける場合^{ばあい}

◆ ^{どうき}動作の方向^{ほうこう}や話者のいる位置^{わしや いち}をはつきりさせるために、^{いどう}移動の動詞^{どうし}や方向のある行為^{ほうこう}を表す動詞^{こうい あらわ どうし}には「～ている・～てくる」をつけたほうがいい場合^{ばあい}があります。

例 × 先週、国からお客様が訪ねた。(どこを訪ねたかわからない。)

○ 先週、国からお客様が訪ねてきた。(話者のところを訪ねた。)

? ^{となり}隣に住んでいる人はいつもいろいろ文句を言う^{もんく}ので、気をつけよう。

(だれに文句を言うのかわからない。)

○ 隣に住んでいる人はいつもいろいろ文句を言ってくる^{もんく}ので、気をつけよう。

(話者に文句を言う。)

B 視点^{してん}の位置^{いち}

◆ ^{してん}視点の固定^{こてい}：現在話者が実際にその位置^{げんざい わしや じっさい いち}にいなくても、^{しんりてき}心理的に話者のいる位置^{わしや いち}に視点^{してん}を置いて^{おいて}述べる^のことができます。

例・わたしは毎年沖縄の実家に帰る。今年はいとこたちが子供を連れてくる^{おきなわ じっか}と言っていた。

(話者の心理的位置=実家)

・実家には何年も帰っていないが、今年はいとこたちが子供を連れていく^{おきなわ じっか}と言っていた。

(話者の心理的位置≠実家)

◆ ^{してん}視点の移動^{いどう}：複文^{ふくぶん}、または文章の中で話者の心理的位置^{ぶんしょう なか わしや しんりてき いち}が変われば、視点^{してん}も変わります。

例・昨日、学校へ本をたくさん持っていく^{ふんしょう}と、リンさんも大きな荷物を抱えてきた。

(話者の(心理的)位置=家→学校)

・大きな道具はここに置いていこう。そうすれば、だれかが気がついて会場まで持ってくる^{おきな}だろう。

(話者の(心理的)位置=ここ→会場)



◆小説や情景の描写などでは、書き手は感情移入している登場人物の視点に立って書くことが多いです。

例・いつものカフェでコーヒーを飲んでいると、背の高い男が近づいてくるのが見えた。男は、かおりがそこにいることに気がつく^①と、さっと振り向いて足早に駆け^②ていった。追っ^③ていこうとしたが、すでに姿は見えなくなっていた。

登場人物 : かおり 男

書き手の視点 : かおり側へ ①～てくる

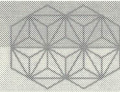
かおり側から ②～ていった ③～ていこう

練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

- 1-a 下山途中、けがをしてしまった。だんだん暗くなってきた。遠くに明かりが見えたので、足を引きずって(a きたら b いったら)民家だった。その日はそこに泊めてもらうことにした。
- 1-b 下山途中、けがをしてしまった。辺りは暗かったが、この山小屋までやっとの思いで歩いて(a きた b いった)。今日はここに泊めてもらうことにした。
- 2-a ベルトコンベアで部品が運ばれて(a きた b いった)。わたしのアルバイトはこの部品を箱に詰める仕事だ。
- 2-b 工場でき上がった商品は、出荷のためにベルトコンベアで運ばれて(a きた b いった)。これからあの電気製品は、日本から遠く離れた国の人たちにも使われるのだ。
- 3-a 電話が鳴ったので受話器をとると、田中さんへの電話だった。食事に出かけたと伝えているちょうどそのとき、本人が帰って(a きた b いった)。
- 3-b 電話が鳴ったので受話器をとると、田中さんへの電話だった。ちょうど事務所を出て(a きた b いった)ばかりだったので、伝言を聞いておいた。
- 4-a 博物館の展示を見た後、出口のところで偶然友達に会った。それで、一緒にお茶を飲みながら、近況や、見て(a きた b いった)土器のことを話した。
- 4-b 博物館の入り口のところに「歴史的に古いものから順番に土器が並べられていますから、順番に見て(a くれれば b いけば)、自然に出口に出ます。」と書いてあった。

練習2 どちらか適当な方を選びなさい。

- 1 大阪^{おおさか}へ出張の日のことだった。この1か月、次第に仕事の量が多くなって(①a きたので b いったので)疲れていた。駅に向かう途中、大阪での会議のためにもう一つ別の資料を持って(②a きた b いった)ほうがいいことに気がついた。会社に電話したら、田中さんがすでに(③a きていた b いていた)。わたしは電話で田中さんに、これから東京^{とうきょう}駅へ向かい、改札口で待っているから、東京駅へ資料を持って(④a きて b 行って)ほしいと頼んだ。
- 2 10歳までわたしはタイに住んでいた。家はとても広かった。何人お客さんが訪ねて(①a きてても b いったも)^{だいじょうぶ}大丈夫だった。わたしはお客さんが持って(②a くる b いく)お土産が楽しみだった。でも一番うれしかったのは、ときどき日本から送られて(③a くる b いく)祖母からのお菓子だった。昨年、昔住んでいた家を訪ねてみた。^{なつ}懐かしい家に近づいて(④a くると b いくと)、昔のままの空気が感じられた。
- 3 学校の遠足の^{つきそ}付き添いは大変だ。ある時は先頭になって歩いて(①a くる b いく)し、またある時は子供たちの一番後ろに回って、全員が先頭の先生に(②a ついてきているか b ついていっているか)を確認しながら歩かなければならない。
- 4 留守番をしている子供に電話して、宅配^{たくはいびん}便の人が荷物を持って(①a きたら b いったら)、受け取っておくようにと頼んでおいた。そして、お父さんが帰って(②a きたら b いったら)、お母さんはおばあちゃんの家^{いへ}にりんごを持って(③a きた b いった)と伝えるように言った。
- 5 これまでわたしは写真家として、「暮らし」をテーマに^と撮り^{つづ}続けて(①a きた b いった)。そして、写真を撮るだけの人間として、社会的^{はつげん}発言^{ひか}は控えて(②a きた b いった)のだ。しかし、この度の事件をきっかけに、世界の^{わくぐ}枠組み^{わくみ}が大きく変わって(③a くる b いく)のを感じている。すでにわたしは60歳を越えているが、残りの人生は今までの自分から^{だつ}脱皮^びし、発言をして(④a くる b いく)べきだと考えている。



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、 から の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

昔から日本人は山からの恵みを得て 。山には多くの森林がある。森林は材木の宝庫であるだけでなく、空気中の炭酸ガスを吸収してくれるので、環境保護にはなくてはならないものだ。

日本は国土の約7割を森林が占めている。こんなに多くの森林があるのに、林業をする人や山村に 人が減って、森林の手入れが行き届かなくなっている。森林の手入れとは、木の下に 草を取ったり、木と木の間に適度な空間ができるように、植え方を調節することである。この手入れをしないと、元気な森林にはならない。

また、最近ではもともと日本にはない、外国から 植物によって、森林のバランスが崩れてきている。これらのバランスを取り戻すための手入れも必要になっている。

日本は世界に向かって温室効果ガスを減らすと約束している。この約束を果たすため、森林の国日本は、森林による炭酸ガス吸収に頼る部分が多い。それにはどうしても森林の元気な力を取り戻す必要がある。政府もいろいろな対策を考えているが、まだまだ不十分だ。どうすれば豊かで元気な森林を ことができるか、民間レベルでも真剣に考えるべきときが来ていると思う。

【1】

- 1 暮らしてくる 2 暮らしていく 3 暮らしてきた 4 暮らしていった

【2】

- 1 住む 2 住んでいた 3 住んでいく 4 住んでくる

【3】

- 1 生えてくる 2 生えていく 3 生えていった 4 生えていた

【4】

- 1 出ていった 2 出てきた 3 入っていった 4 入ってきた

【5】

- 1 守ってくる 2 守っていく 3 守っている 4 守っていった

A 受身文を使う場合

1. 話者が、第三者の行為または出来事の影響を直接的・間接的に受けたことを表すとき

(主語はふつう話者、または動作主よりも心理的に話者に近い人) →第3部3課

例・残り1分で相手チームの選手にゴールを入れられ、逆転された。

2. 主題についての情報を重視するため、動作主をはっきり言う必要がないとき

(主題とともに動作主も大切な情報のときは「～によって」を使って示す。)

例・内容がわからない手紙を送られたらびっくりするのは当然だ。

・ベートーベンによって作曲されたこの合唱曲は、世界中で歌い継がれている。

3. 慣用的表現として、決まった語とともに受身の形だけで言う言い方のとき

例・バスに揺られる ・努力が報われる ・才能に恵まれている

・魅力に引かれる ・悪夢にうなされる ・災難に見舞われる ・必要に迫られる

4. 自然にそのような気持ちになると言いたいとき：自発を表す文

(心の動きを表す動詞を使う。)

例・どうしてあんな不注意なことをしてしまったのかと悔やまれる。

・この件については、国会での激しいやり取りが予想される。

B 使役文を使う場合

1. 強制

例・医者はその患者を即刻入院させた。

2. 許可・恩恵

例・勝手な行動はさせないぞという店長の態度には怒りを感じる。

・近所においしい魚料理を食べさせる店ができた。

3. 原因・誘発

例・これ以上親を悲しませるようなことをするな。

・この地震は大勢の住民に避難生活を余儀なくさせた。

4. 責任・放任

例・飼いが悪くて、かわいい小鳥を死なせてしまった。



・わたしの不注意で子供にけがをさせてしまった。

・野菜を腐らせてしまった。

5. 他動詞化

例・田中さんは声を震わせて、事件の様子をみんなに語った。

・妹は目をきらきらさせて、プレゼントの包みを開けた。

・いつかこのバイオリンできれいな音を響かせたい。

・夜遅く車を走らせて、海を見に行った。

C 使役受身文を使う場合

1. 強制されること

例・入社当時、課長に何度もあいさつの練習をさせられた。

2. 必然的感情・行為

例・今度の事件をきっかけに、わたしは報道のあり方を深く考えさせられた。

・このところずっと職場の人間関係に悩まされている。

練習1 ()の中の漢字で始まる動詞を文章の流れに合う形にして、書き入れなさい。

1 わたしはばらの花の美しさに(①引)、今年こそ見事なばらの花を(②咲)
みたいと思った。そこで、先日苗を(③買)きた。しかし、結局虫に(④食)
)、苗は枯れた。

2 卒業が(①迫)いるのにまだ就職が決まっていない。母にこのことを(②話)
)と、母は顔を(③曇)、「あなたには相変わらず(④心配)ね。でも、
就職難では仕方がないね。」と(⑤言)。

3 聖書には「右のほおを(①打)たら、左のほおも差し出しなさい」とか「下着を取ろ
うとする者には上着も(②取)なさい」という意味のことが書いてあるが、わたし
たちがこの聖書の教えを(③守)のは難しい。社会には悪には悪で返す事件が多い
し、下着を(④取)た後、続けて上着も(⑤取)ような災難も相次いでいる。
それにしてもこの言葉には深く(⑥考)。

練習2 _____の上に適当な助詞を書き、()の中の動詞を文章の流れに合う形にして、書き入れなさい。

- 1 このところ仕事①_____ (②追う→)、旅行する余裕などなかったが、やっと休暇が取れたので、この山里の温泉に来た。バス③_____ (④揺る→) 3時間、仕事のこと⑤_____ (⑥忘れる→)、いい気持ちで外の景色を見ながらここまで来た。このところ部長⑦_____ 何度も書類の書き直しを (⑧する→)、つらい思いをしてきたが、ゆっくり温泉に入っていたら、なんだか (⑨報う→) ような気分になった。
- 2 ある人に仕事①_____ (②する→) ために、お金を払うことを約束して (③雇う→) ことを「雇用」と言う。雇用する人を雇用主、(④雇用する→) 人を「被雇用者」と言う。両者の間には「雇用契約」⑤_____ (⑥交わす→)。被雇用者が不当に (⑦働く→) 場合には契約違反になる。また、被雇用者⑧_____ 契約どおりに (⑨働く→) 場合に、雇用主は被雇用者⑩_____ (⑪辞める→) こともある。
- 3 夏目漱石の「吾輩は猫である」という小説は1905年1月から8月まで、雑誌『ホトトギス』に (①連載→) 小説である。竹やぶに (②捨てる→) 猫が、珍野苦沙弥という教師③_____ (④飼う→) ことになった。この猫が猫の目で (⑤観察する→) 人間や社会の姿がこの小説のテーマである。苦沙弥は実は夏目漱石自身で、彼は猫の目を借りるという手法で、社会⑥_____ (⑦批判する→) ののである。この痛快な風刺小説には、漱石の正義感⑧_____ (⑨感じる→) ものがあると評判になった。また、落語⑩_____ (⑪思う→) 語り口が笑いの文学として (⑫評価する→)、読者の支持を得た。



まとめ 次の文章を読んで、文章全体の趣旨^{しゆしふ}を踏まえて、**1** から **5** の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

大人になってから、大人としてやるべきことを、しっかりやることは、大人の快感かもしれない。ただ、それは、子どものじぶんを静かにさせて、しっかりやったということではないのかな。静かに **1** 子どものじぶんは、押し入れの中で、うらみがましい目で、大人のじぶんを見ているかもしれない。断言してみたい。じぶんとは、子どものじぶんである。大人のじぶんは、じぶんがつくったじぶんである。つくったじぶんよりも、じぶんのほうが、よっぽどじぶんのはずで。押し入れに **2** 、さるぐつわ^(注)をかまされて **3** 、そいつは生きて足をばたばたさせている。

よし、言おう。言ってしまうおう。人間とは、子どものことである。

ぼくは、いろんな大人たちのことを理解するために、彼らひとりひとりを、想像上の中学の教室のなかに置いてみます。そうすると、いるんです、中学生の彼や彼女が。理屈の得意なおじさんは、口を **4** 大声を出して笑われているやつだったり、気取った女性は、見栄っ張りのおませさんだったり、なんか中学生の姿で **5** んです。いいやつもいるけれど、たいていは、たいしたやつじゃありません。むろん、じぶんも含めて、たいしたもんじゃない。たいしたことない中学生が、武器や飾りを身につけて、ちよいとえらそうにしてるだけです。笑っちゃいます、よくがんばってるんです、それだけ。

(糸井重里 ほぼ日刊イトイ新聞2010年11月3日「今日のダーリン」<http://www.1101.com/readers/2010-11-07.html>による)

(注) さるぐつわ：声を出さないように布などを口に入れて、^{こうとうぶ}後頭部^{むす}で結びつけておくもの

1

- 1 している 2 した 3 された 4 させられた

2

- 1 閉じこめても 2 閉じこもっても 3 閉じこめられても 4 閉じこもられても

3

- 1 黙^{だま}っても 2 黙らせても 3 黙られても 4 黙らされても

4

- 1 尖^{とが}って 2 尖らせて 3 尖られて 4 尖らされて

5

- 1 見えている 2 見えていく 3 見えてくる 4 見てくる

A ^{してん} ^お ^{かた} 視点の置き方

◆ ^{そうたいてき} ^{かんが} ^{しんりてき} ^{わしゃ} ^{ちか} ^{ほう} ^{してん} ^お 相対的に考えて、心理的に話者に近い方に視点を置きます。

わたし > いとこ > うちの社の田中社長 > A社の山中氏 > … > …

例 ○ うちの田中社長はA社の山中氏に販売ルートを紹介してもらった。

(「うちの田中社長」の方が「A社の山中氏」より心理的に話者に近い。)

× A社の山中氏はうちの田中社長に販売ルートを紹介してあげた。

B 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」を使うときの注意 ^{つか} ^{ちゆうい}

◆ ^{おんけい} ^{かんじゆう} ^い ^{ちゆうりつてき} ^い 恩恵の感情を入れなくて中立的に言いたいときには、「～てあげる・～てもらう・～てくれる」は使いません。

^{しごとじゆう} ^{こうい} ^{つか} 仕事上のサービス行為にも「～てあげる」は使いません。また、^{あいて} ^{こうい} 相手のためにする行為にも「～てあげる」を多用すると恩着せがましくなります。

例 × この市にスポーツセンターを建設する際、県からも補助金を出してもらった。

○ この市にスポーツセンターを建設する際、県からも補助金が出された。

× 本日に限り、店内の商品を10%割引してさしあげます。

○ 本日に限り、店内の商品を10%割引いたします。

◆ 「～てもらう」と「～てもらえる」は「行為か・状態か」で使い分けます。

～てもらう ^{たしや} ^{こうい} ^{たの} ^{わしゃ} ^{おんけい} ^う 他者にある行為を頼み、話者がその恩恵を受ける

例・店員に頼んで、ビールを届けてもらった。

～てもらえる ^{わしゃ} ^{たしや} ^{こうい} ^{おんけい} ^う 話者が他者の行為の恩恵を受けられる状態にある = 「～てくれる」

(「他者に頼む」という意味がなくなる。)

例・あの店は何時でもビールを届けてもらえる。

・あの店は何時でもビールを届けてくれる。

◆ 「～てもらう・～てくれる」の発展的な使い方には次のようなものがあります。

～てもらう a) ^{きよか} ^{もと} 許可を求めるとき(～させてもらう)

例・わたしにも意見を言わせてもらいます。

・ここにちょっと荷物を置かせていただきますね。



b) 他者の行為についての希望・指示を示すとき

例・総理大臣にはもっと責任感を持ってもらいたい。

・貸した金は必ず返してもらわなければならない。

c) 他者の行為が迷惑だと言いたいとき

例・今さらやめるなんて言ってもらっては困る。

・勝手にわたしの引き出しを開けてもらいたくない。

~てくれる

a) 直接自分に対する行為でなくても、話者が「快」と感じたとき

例・客が早々と帰ってくれた。

・やっと雨があがってくれた。

b) 他者の行為の影響が自分に及び、迷惑だと感じたとき

例・うちの息子が恥ずかしいことをやってくれて、わたしは世間に顔向けできない。

・まったくとんでもないことをしてくれたものだと思う。

練習1 適当なものを選びなさい。

- 1 市民文化祭は大成功だった。隣の市の人たちも手伝って(a あげた b もらった c くれた)。
- 2 混雑した電車の中で偶然高校時代の友人に会った。少し熱があるとのことでつらそうだった。しかし、だれも気がつかず、席を譲って(a あげなかった b もらわなかった c くれなかった)。
- 3 図書館から借りた本は期日までには必ず(a 返してあげなければ b 返してもらわなければ c 返さなければ)いけません。
- 4 昨日重役会議があった。会社側は従業員の給料を(a アップしよう b アップしてあげよう c アップしてもらおう)ということになった。
- 5 人がいなくても自動で庭の掃除をして(a あげる b もらう c くれる)掃除ロボットがほしい。
- 6 駅前で新しくできたコーヒーショップのちらしを配っていた。そのちらしを持っていけば20%割引して(a あげる b もらう c もらえる)ようだ。

- 7 患者さん本人によく説明し、この病気の原因や治療法をよくわかって(a あげた b もらった c くれた)上で、今後の治療方針を決めていきたい。
- 8 その仕事は川田さんならやれる。川田さんに頼めばきっとやって(a あげるだろう b もらうだろう c くれるだろう)。
- 9 津波の怖さを知って(a あげるために b もらうために c もらえるために)、自分の体験談を話すつもりだ。
- 10 山中さんが怒るのももっともだけど、高橋君の気持ちも(a わかってあげてほしい b わかってもらってほしい c わかってくれてほしい)。

練習2 「あげる・もらう・くれる」を適当な形にして、_____の上書きなさい。

- 1 会場の係員に場内を案内して①_____とのことだったので、車いすのままイベント会場に入った。わたしを案内して②_____たのは、田中さんという若い女性で、彼女は場内で迷っているお年寄りたちにも優しく声をかけて③_____いた。
- 2 自分をしかって①_____人がいるということは実はありがたいことだ。わたしのような年齢になってしまうと、もうだれにもしかって②_____なる。逆に、わたしはとても気が弱いので、褒めて③_____ことはやっているが、人をしかることなんて怖くてとてもできない。
- 3 「これ、もらって①_____とありがたいんだけど……。」と言って、わたしによく服を譲って②_____友人がいる。彼女がもう着ない服だ。自分が要らない服を人にもらって③_____のは、意外に難しい。二人がとても親しくて、服の好み合っている場合に限る。
- 4 自分がしたことだれかが喜んで①_____……。人生においてこれに勝る喜びはないと思う。言い換えれば、義務としてではなく、だれかに喜んで②_____ためにある行為をするということは、この上なく幸せなことではないだろうか。わたしは人のために何かを「してあげる」のではなく、何か「させて③_____」という気持ちを忘れたくないと思っている。



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、□ 1 □ から □ 5 □ の中に入る最もよいものを 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

ある日わが家にどっさり □ 1 □ 。わたしにこの花々を □ 2 □ 友人には実はまだお目にかかったことがない。今度1週間に1日だけシフトに入ることになった新しい職場の方。彼女も出勤は木曜日だけとのことだから、同じ職場といっても顔合わせのときに会うぐらいで、これからは会う機会はあまり期待できない。メールで自己紹介し合って、すっかり意気投合した。彼女の親しみやすい人柄とユーモアにほのぼのしたものを感じて、初顔合わせを楽しみにしていたところ、ある晩メールが届いた。

「今日、仕事を抜け出して観光花畑に参りました。本当にきれいでした。この美しさをぜひ田中さんにも □ 3 □ と思いました。明日、春の花の香りがお宅に □ 4 □ 。」

メールを読んで「あしたはいいことがあるんだ」と、その日わたしはなんとなく心がはずんだ。翌日花が届けられてもう一度さらに楽しむことができた。プレゼントを二つ頂いたような気分だ。わたしはすぐに □ 5 □ 。

「わたしは何よりも花が好きです。春の花畑を思い浮かべています。春はもうすぐそこまで来ているのですね。」

□ 1 □

1 花を贈った

2 花が贈られてきた

3 花が贈られていった

4 花を贈ってもらった

□ 2 □

1 送った

2 送ってもらった

3 送ってあげた

4 送ってくれた

□ 3 □

1 楽しんでいただきたい

2 楽しんでさしあげたい

3 楽しんでください

4 楽しませてあげたい

□ 4 □

1 届けてもらいます

2 届けてあげます

3 届きます

4 届いてあげます

□ 5 □

1 返信した

2 返信された

3 返信していただいた

4 返信してさしあげた

文章にまとまりを持たせるために、指示表現は大切な役割を果たします。文章中の指示表現には「そ」または「こ」系のものを使い、ふつう「あ」系のものは使いません。

◆文章の中の指示表現はふつう、前に出てきた言葉や文を指します。しかし、考えたことや話の内容などの場合、指示表現の後に出てくるものを指すこともあります。

例・こんな場面を想像した。一人旅の飛行機の中である男性と知り合う。とても気があって、別れがたくなる……。

・今日は驚いたことがあった。そんなことは思ってもみななかったのだが、山田さんには子供が4人もいるというのだ。

◆「この」と「その」には次の二つの使い方があります。

a) [その+名詞]で「そ」が前の文章中のものを指す。(「その」=「～」の)

例・最近ある有名人と知り合いになった。そのお嬢さんがうちの子と同級なのだ。

(「その」=「ある有名人」の)

・新しい調理器具を買った。しかし、その使い方に慣れるまで時間がかかりそうだ。

(「その」=「新しい調理器具」の)

b) [この/その+名詞]全体で前の文章中のものを指す。(「この/その～」=「～」)

例・うちの子はある有名人のお嬢さんと同級だ。この/そのお嬢さんが先日うちに遊びに来た。

(「この/そのお嬢さん」=「ある有名人のお嬢さん」)

◆b)の使い方における「この」と「その」は、次のように使い分けます。

「この」-1 話者と指すものとの関係が密接であることや、その場にいるような感じを示したいとき

例・11月27日に野外で大がかりな実験を行った。この日の天候は快晴、東からの風がやや強かった。



「この」-2 ^{まえ}前の文章中の^{ことば}言葉(固有名詞または^{こべつ}個別の^{ことば}言葉)を、その^ご語を^{ふく}含む^{ひろ}広い^{がいねん}概念の^{ことば}言葉で^い言い換えるとき(「その」は^{つか}使わない。)

例・庭にクリスマスローズを植えた。この花はクリスマスにもローズ(ばら)にも関係はないのだが、なぜかこの名前がついている。

(クリスマスローズ<花)

・夏目漱石の『こころ』を改めて^よ読み返してみた。この作品は人間が持つエゴイズムと^{りんりかん}倫理観とをテーマにしたものだ。前に読んだときとは違う印象を受けた。

(『こころ』<作品)

「その」 ^さ指すものについて^{まえ}前の文章からは^よ予想され^{ない}ことを^{きょうちよう}強調して言うとき(「この」は^{つか}使わない。)

例・彼が作った歌は^{とくちよう}特徴のない普通の歌だった。その歌が大ヒットしたのだ。

・母は性格が明るく、いつもにこにこしている。その母が突然泣き出した。

◆そのほか「こう」と「そう」、「こんな・そんな」と「こういう・そういう」は次のように使い分けます。

「そう」 ^{まえ}前の文を^さ指して「～(だと)思う・言う」「～だ」「～する」の^{かたち}形の文になるとき(「こう」は^{つか}使わない。)

例・健康の基本はバランスのとれた食事だそうだ。確かにそう言える。

・植物に声をかけながら育てると、いい花が咲くと言う。本当にそうだろうか。

「こんな・そんな」 ^{げんてい}限定されたそのものを^さ指すとき

例・友達にある花の原産地を聞かれたが、そんなことは知らないと答えた。

・新しい年が始まったのになかなかやる気が起こらず、テレビばかり見ていた。そんなとき思いがけないニュースが流れた。

「こういう・そういう」 ^さ指すものの^{ないよう}内容を示すとき

例・友達にある花の原産地や育て方などを聞かれたが、そういうことはこの本に書いてあると言って、本を貸してあげた。

・山川さんがこの1週間会社を休んでいる理由を、部長に聞かれた。実はこういう理由なのだ、詳しく彼女の事情を説明した。

問題1 どちらか適当な方を選びなさい。

- 1 たてこの計画に失敗したとしても、(a この b その)責任はわたし一人で負^おうわけではない。
- 2 もし汚^{よご}れがついたら、(a この b その)部分にこの液体を少し付けるといい。
- 3 「人間は考える葦^{あし}である」……(a この b その)言葉の意味が小学生にわかるだろうか。
- 4 (① a これ b それ)は人から聞いた話だが、脳^{のう}の老^{ろう}化^かを防^{ぼう}ぐには赤ワインがいいというのだ。本当だろうか。(② a こう b そう)だとしたら、わたしは毎日赤ワインを飲^のみたい。
- 5 わが社は「ツーバイフォー」で家を建てている建築会社です。(a この b その)建築方法は、2インチ×4インチの決^きまった形の木材で壁の構造を作るやり方です。
- 6 田中^し氏ほど健康管理をしっかりとやっている人は珍^{めづ}しい。(a この b その)田中氏が病^び気^きになったというのだ。本当に驚^{おどろ}いた。
- 7 友人が生活のリズムを朝型^{あさ}に切り替^かえたら何かといいことが多いと言^いっていた。わたしもさっそく(a こうして b そうして)みよう。
- 8 駅を出ると突然の大雨だった。どうしよう、傘^{かさ}を買^かおうかと思^{おも}って歩^あき出^でした。ちょうど(a そんな b そうい^う)ときだ^だった。後^{のち}ろから傘^{かさ}を差^さし出^だしてくれる人がいた。

問題2 どちらか適当な方を選びなさい。

皆さんは主題^{しゅだい}地図を知っていますか。(① a この b その)地図は、ある決^きまった目的のために使^{つか}われる地図です。わたしたちがよく目にする名所案内の地図、食^たべ歩^{ある}きやショッピングのための地図、町の文化施設^{しせつ}や公園、避難^{ひなん}場所を示した地図などが(② a この b その)例です。

「さくらクラブ」は主題地図を自分で作^{つく}ってみようという人たちの集^あまりです。(③ a この b その)団^{やま}体^あは山歩^{やま}きのグルー^あプとして出^で発^{はつ}しましたが、今^{いま}では地^ち図^ず作^{つく}りが主^{しゅ}な活^{くわつ}動^{どう}です。地図を作るのは難^{がた}しいことでしょうか。メンバ^まーも最^{さい}初^{しゅ}は(④ a こう b そう)思^{おも}っていたようですが、今^{いま}ではいろい^ろろな主^{しゅ}題^{だい}に挑^{ちやう}戦^{せん}しています。写^{しや}真^まの場合、同^{どう}じ森^{しん}を見^みても、(⑤ a この b その)美^みしさに感^{かん}動^{どう}して撮^とる人^{ひと}と、環^{かん}境^{きやう}悪^{あく}化^かを心^{しん}配^{はい}して撮^とる人^{ひと}がいるように、地^ち図^ずのテ^てマ選^{せん}びにもその人らしさが表^{あら}われます。



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、□ 1 から □ 5 の中に入る最もよいものを 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

古今東西の健康法の本を読むと、必ず共通の考えかたが根底にあることに気づく。

それは、人間とは本来、健康で調和のとれた存在である、という考えかたである。人間はこの大自然の一部、宇宙の一部なのだから、もともとは健全で正しい姿であるはずだ。□ 1 不自然な生活習慣で歪んでいる。現代人はことに □ 2 。だからそれを本来の自然なすがたにもどしてやらなければならない。

これがほとんどの健康法の土台になっている思想である。□ 3 は、明るく、前向きで、気持ちがいい。究極のプラス思考といってもいいだろう。

たとえば呼吸法についての書物では、必ずといっていいほど赤ん坊の呼吸が理想の腹式呼吸として語られている。たしかに赤ん坊は大きくお腹を上下させて呼吸しているようだ。泣く声にもエネルギーがある。

以前、新幹線に乗ったとき隣席の赤ん坊が新横浜から京都まで、ずっと喉も裂けよとばかり泣きつづけて、耳がおかしくなったことがあった。迷惑するというより、あまりのエネルギーに、ただただ驚き呆れて、□ 4 泣きつづけられるだろうと興味をおぼえたほどだった。

しかし、赤ん坊の呼吸を天然自然の見事な呼吸法として、□ 5 、といわれても、どうだろうか。

(『元気』五木寛之(幻冬舎))

□ 1

1 これが 2 それが 3 このため 4 そのため

□ 2

1 こうである 2 そうである 3 そうだろうか 4 どうだろうか

□ 3

1 この考え方 2 その考え方 3 あの考え方 4 すべての考え方

□ 4

1 ここまで 2 そこまで 3 どこまで 4 どうして

□ 5

1 ここに帰れ 2 そこに帰れ 3 あそこに帰るな 4 どこにも帰るな

「は」と「が」は基本的な機能が違い、文章の中でそれぞれの役割があります。文章にまとまりを持たせるために、「は」と「が」を使い分けることが必要です。

◆「は」と「が」の基本的機能

例 この部屋は午後課長が使うことになっている。

「は」 主題(何について話すか)を示す。「この部屋は」

「が」 主格(動作・事態の主体)を示す。「課長が」

A 文章の中での「は」と「が」の基本的用法

「が」初めて話題に出たもの、または読み手には特定できないと考えられるものを示す。

「は」すでに話題に出たもの、または読み手に特定できると考えられるものを示す。

例・関東地方北部に①尾瀬という観光地がある。②母はここを自分のふるさとのように思っているらしく、毎年出かけていく。山小屋の女主人と親しいのだ。③彼女は今、一人で小屋を切り盛りしている。④小屋の従業員は5人。若い人たちだそうだ。毎年、⑤大勢の人がこの地を訪れるが、中にこの山小屋で働きたいと⑥申し出る人がいる。⑦5人は特にその希望が強かったらしい。

- 初めて話題に出たもの : ①尾瀬という観光地が
- 特定できないと考えられるもの : ⑤大勢の人が ⑥申し出る人が
- すでに話題に出たもの : ③彼女は ⑦5人は
- 特定できると考えられるもの : ②母は ④小屋の従業員は

B 初めて話題に出たものであっても「は」を使う場合

1. 多くの人が注目していると思われる話題や、読み手も当然知っていると考えられる話題のとき

例・首相は4日、台風による被害状況を視察するために現地を訪れた。(新聞記事)

・多くの人に知られている名所ではあるが、世界遺産に登録されていないところがある。富士山はその一例である。

2. すでに話題に出たものに関係があるとき

例・明日の三者会談は中止だそうだ。理由は、その問題についての調査が完了していないからとのことである。(理由=中止になった理由)



- ・女優の芝陽子が久々に映画に出る。題名は「風」。監督は若手の新人だが、期待されている。
(題名=芝陽子が出演する映画の題名 監督=その映画の監督)

3. 二つのことを対比させるとき

- 例・日本語には「もったいない」という言葉があるのだから、若い世代も節約の大切さは理解できと思う。しかし、節約の方法はまだ十分に考えられていないようだ。
- ・林氏は政治理念は立派だ。だが、具体的な政策は不透明だ。

C すでに話題に出たものであっても「が」を使う場合

1. 出来事が新しく展開するとき・前の文章とは流れが変わるとき

- 例・ある観光地で、若い夫婦が旅館を経営していた。夫は主に外交的な仕事、妻は宿泊客の世話をしていた。仲のいい夫婦で平和な日々が続いた。
ある年、夫が突然「旅館を閉じよう」と言い出した。

2. 話題を「は」で取り上げた文の中で、その話題について述べる時：「～は～が」文 (話題が書き手と読み手の間で明らかなきは、省略されることもある。)

- 例・今日、午後から敬語の使い方についての研修会が行われた。(今日の研修会は)内容が盛りだくさんで、終わったのは5時過ぎだった。
- ・省エネ機能が優れている製品が次々に開発されている。(省エネ機能が優れている製品は)電気代が安くて済み、そのため大人気なのである。

3. 出来事の報告をする時・ニュース性がある話題を述べる時

- 例・今年の桜の開花は3月30日ごろと発表された。開花日が年々早くなっている。

練習1 「は」か「が」を _____ の上に書きなさい。

- 1 1年前の事件の犯人がまだ捕まっていない。警察 _____ しっかり捜査しているのか。
- 2 昨夜11時ごろ関東・東海地方を中心に地震があった。震源地^{しんげんち}① _____ 静岡県南部、マグニチュード3、津波^{つなみ}② _____ 観測されなかった。
- 3 今度の事件 _____ 政府の危機管理^{きき}の甘さを示している。国民は不安感を持った。
- 4 わたしはターシャ・チューダーという人の本を何冊も持っている。写真 _____ とにかくきれいなのだ。
- 5 今年も台風の季節になった。太平洋沖^{たいへいようおき}では早くも台風1号 _____ 発生^{はっせい}している。

練習2 「は」か「が」を _____ の上に書きなさい。

- 1 川田さんは奥さん^{おくさん}① _____ 2年前に復職^{ふくしょく}できてとても喜んでいる。二人② _____ 同じ時間に出勤するが、仕事^{しごと}③ _____ 多い奥さんの方④ _____ 帰宅時間⑤ _____ 遅い。
- 2 わたしは当時、子供① _____ まだ小さい、保育所^{ほいくしょ}の空き② _____ ない、通勤時間③ _____ 長い、などの問題④ _____ あって、なかなか復職できなかった。このような状態^{じょうたい}では女性⑤ _____ 仕事⑥ _____ 続けられない。日本では、まだ多くの女性⑦ _____ この問題を抱えている。
- 3 母は高齢^{こうれい}で足腰^{あしこし}① _____ 弱く、歩行困難^{ほこう}である。その母② _____ 毎朝神社にお参りに行っているという。その話を聞かされたとき、涙が出そうになった。母は何を祈っているのだろうか。思い当たること③ _____ あった。わたしは今、絶対に失敗してはいけないプロジェクトを抱えていた。そのプロジェクト④ _____ 思うように進んでいない。母⑤ _____ それを心配していたのだと思う。
- 4 家の近くに市の図書館① _____ ある。最近1階と2階② _____ 新しくなった。わたし③ _____ 週に2、3度この図書館に行っているが、いつ行っても大勢の人④ _____ 来ている。今日、その図書館にふだん見かけない外国人の女性⑤ _____ いた。女性⑥ _____ 白いコート姿^{すがた}で何となく華やかだったので、人目^{ひとめ}を引いた。手には分厚い本。書名⑦ _____ 「ファッション事典^{じてん}」のようだった。さらにまだ何か探している。後ろ姿⑧ _____ 何とも言えないほどすてきな人だった。



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨^{しゆしふ}を踏まえて、【1】から【5】の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

人間には、生きていくうえでどうしても必要なエネルギー【1】。心臓と肺を動かし、体温を維持し、基本的な代謝^(注1)を円滑にするための熱量で、これを基礎代謝量と呼ぶ。成人で一日あたりおよそ2000キロカロリー。この範囲の熱量ならば、どれほど食べてもすべて燃やされてエネルギーとして消費されるので、体重は増えない。

【2】、基礎代謝量以上のエネルギーを摂取した場合である。ヒトの祖先がこの地球上に出現してからおよそ700万年が経過したが、実はその大半を飢餓状態^(注2)で過ごしてきた。やっと食物にありついたとしても、次にいつ必要量の【3】は保証の限りではない。そういう状況が700万年ほど続いたのである。

【4】当然と言わねばならない。すなわち、幸運にして基礎代謝量以上のエネルギーを摂取できた場合は、それをできるだけたくさん取り込み、貯蓄するように身体の仕組みを整えたのだ。(略)

私たちの身体は、基礎代謝量以上のエネルギーを大切に溜め込むようになっている。

【5】皆さんのお腹のまわりに付いている脂肪のベルトというわけだ。

(福岡伸一『動的平衡』木楽舎による)

(注1) 代謝^{たいしや}：古いものと新しいものが入れ替^かわること

(注2) 飢餓状態^{きが}：食べ物がなくて非常におなかがすいた状態

- | | | | |
|-----------------------------------|--------------------|---------|---------|
| 【1】 1 というものがある | 2 ということはある | | |
| 3 というものである | 4 ということである | | |
| 【2】 1 問題が | 2 問題は | 3 問題では | 4 問題として |
| 【3】 1 エネルギー源 ^{げん} が見つかるか | 2 エネルギー源は見つかるか | | |
| 3 エネルギー源を見つけるか | 4 エネルギー源は見つけるか | | |
| 【4】 1 ヒトの身体が、それに対応したのが | 2 ヒトの身体は、それに対応したのが | | |
| 3 ヒトの身体が、それに対応したのは | 4 ヒトの身体は、それに対応したのは | | |
| 【5】 1 それが | 2 それは | 3 そうなれば | 4 そうなると |

9 課 **接続表現**

接続表現は、文と文、段落と段落の関係をはっきりと示すために使われる言葉で、文章の展開を助け、文章にまとまりを持たせる役割を果たします。読む人にとっては、次にどんな内容が書かれているかを予測する手がかりになります。

◆文章で使われる、N1レベルの接続表現の基本的な使い方は次のようなものです。

(*は硬い言い方)

つづ かけ方		a	b
話 題 を 変 え ない	A 並べる	追加する おまけに	対比する それに反して その反面 どちらかであることを言う もしくは
	B 論理的に続ける	結果や結論を言う それゆえ* ゆえに*	予想と反対のことを言う が* しかしながら* にもかかわらず とはいえ とはいうものの だからといって かといって そうはいつでも さりとて*
	C 説明を補う	言い換える すなわち* いってみれば	足りない説明を言う ちなみに
D 話題を変える			それはさておき

A 話題を変えない—並べる

a 例・家を出るのが遅くなりいつもより遅いバスに乗ることになった。おまけに、道路が込んでいて、バスがなかなか進まない。(程度を高くすることを加える)

b 例・商品の販売価格は下落傾向にある。それに反して、商品を作るための必要経費は年々上昇している。(反対のことを言う)

・彼は優しい人だ。その反面、自分にも甘いところがある。(反対の評価を言う)

・書類に必要事項を記入し、郵送でお送りください。もしくは、FAXでも受け付けています。

(別の選択肢を言う)



B ^{わだいか} 話題を変えない—^{ろんりてき つづ} 論理的に続ける

a 例・彼はまじめで責任感が強い。それゆえ、苦労も多いようだ。(結果を言う)

・この法律によって多くの人が不便を強いられている。ゆえに、この法律は改正すべきだ。

(結論を言う)

b 例・病院で薬をもらって飲み始めた。が/しかしながら、一向に治る気配がない。

(予想と合わないことを言う)

・この商品は安いとは言えない。にもかかわらず、かなりの売り上げがある。

(その事実に影響されない結果を言う)

・わたしはこの店が気に入っている。とはいえ/とはいうものの、全く不満がないわけではない。(その事実があっても成立しないことを言う)

・まだまだ道のりは遠い。だからといって/かといって/そうはいっても/さりとて、今さら引き返すわけにもいかない。(その事実があっても成立しないことを言う)

C ^{わだいか} 話題を変えない—^{せつめい おぎな} 説明を補う

a 例・今日は冬至である。すなわち、1年で最も日が短い日だ。(別の言い方で言う)

・わたしの会社は小さいので、社長のわたしは^{けいり}経理もすれば営業もする。いってみれば、何でも屋である。(例える)

b 例・この町はローマ時代から続く^{こと}古都であり、たくさんの^{いせき}遺跡が残っていて観光客も多い。ちなみに、わたしは10年前にこの地を訪れたことがある。(中心的でないことを補足して言う)

D ^{わだいか} 話題を変える

b 例・友人から結婚式の招待状が届いた。レストランで小さい式をすることのこと。最近はどういう式を選ぶ人も多いようだ。経済的な理由も大きいのかもしれない。それはさておき、彼女には幸せになってほしいものだ。(別の方向に話を変える)

練習1 適当なものを選びなさい。

- 1 大量失業時代が到来とうらいしつつあると言われる。(①a にもかかわらず b ゆえに c それはさておき)、個人の労働時間は減っていないように思われる。(②a かといって b その反面 c ちなみに)、単純じんいんに人員を増やしても、同一の生産性が得られるとは限らない。
- 2 今日けふは月が地球の影かげに隠れて完全に見えなくなる皆既月食かいぎげつしょくの日だ。近くの天文台てんもんだいで観測会が開かれるので参加するつもりだ。(①a それに反して b とはいえ c おまけに)、心配なのは天気である。夕方までに晴れてくれるだろうか。(②a もしくは b それはさておき c ちなみに)、次に皆既月食が見られるのは3年後である。
- 3 現代の日本は、法律を守っていさえすれば基本的に何をしても自由な社会である。(①a しながら b すなわち c それゆえ)、社会の中では何らかの規範きはんがなければ皆が生活しにくい。(②a おまけに b さりとて c いてみれば)、自分で規範を作り出すのは難しいことである。(③a それゆえに b にもかかわらず c その反面)でんとうてき、伝統的な規範を見直そうという動きも出てきているようだ。
- 4 資格しかくを取るための勉強をしたいと考えている。この専門学校の通信教育コースなら大学に通いながらも自由な時間に勉強ができるだろう。(①a にもかかわらず b もしくは c さりとて)、通学コースは夜も開校かいこうされているから、大学の授業が終わった後で行くことも可能だ。(②a それはさておき b それに反して c が)、夜アルバイトをすることを考えると、やっぱり通信講座こうぎの方がいいだろうか。(③a もしくは b そうはいても c いてみれば)、勉強を始めたらず忙しくてアルバイトどころではないかもしれない。

練習2 下の□から適当なものを選び、____の上書きなさい。

その反面 いてみれば すなわち おまけに ゆえに

8世紀せいぎに建築されたこの修道院しゅうどういんは世界遺産いさんに指定された。世界遺産に指定されれば、文化的に価値あるものとして、修復しゅうふくなどの際には金銭きんせん的な援助えんじょが得られる。①____、修道院を見るためにこの村むらを訪れる観光客が増えることも期待される。②____、その建物の中で日常生活を送っている人たちは、ある権利うばを奪われている。③____、建物のどこをどのようにかかいしゅう改修するかを決める権利が、彼らにはないのだ。電気でんきのスイッチせつちを設置する場所ひとつとっても、表から見えないことが最優先さいゆうせんされる。④____、建築当時のままの生活せいげんの再現しを強いられているのである。



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、 1 から 5 の中に入る最もよいものを 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

庭の片隅に昼1枚ほどの小さな畑を作って、サラダ用の野菜の種をまいた。やがて芽が出て葉がつき、まもなく食べごろか、と思っていた矢先、虫に食われて葉は穴だらけ。結局収穫には至らなかった。気がついてすぐに殺虫剤を使えばよかったのか。 1、初めから土の中に農薬を入れればよかったのか。 2、人間が食べる野菜に生物を殺す薬を使ったのでは人間にも不利益だろう。もう少し様子を見ようと思っているうちに虫にやられた。

同じ経験を多くの農業従事者がしているはずだ。効率よく収穫を上げようとするれば、化学肥料や農薬を使うことになる。 3、好んでそうしているわけではない。人間に不利益な生物を退治することが、生物の多様性の保持に反することだということは当の農業従事者が一番よく知っている。 4、そうせざるを得ないというこのジレンマ。

食は生きるための基本であり、食料の生産と販売は経済活動の土台でもある。日本は食料自給率の向上を課題としている。 5、効率的な食糧増産への努力は不可欠である。その一方で、生物多様性条約の締約国として環境への負荷を減らすこととの両立も目指していかなければなるまい。いってみれば「諸刃の剣」ともいえるこの二つは、政府による主導は当然ながら、草の根的な活動によってこそ解決への光が見出せるのではないだろうか。

1

- 1 いわば 2 おまけに 3 すなわち 4 あるいは

2

- 1 それはさておき 2 とはいえ 3 それに反して 4 ところが

3

- 1 しかも 2 それなのに 3 さりとて 4 したがって

4

- 1 にもかかわらず 2 だからこそ 3 そればかりか 4 そこで

5

- 1 もしくは 2 それゆえ 3 そうはいつでも 4 ただし

文章としてのまとまりを持たせるために「省略」がよく行われます。省略とは、文章の流れの中で、何を指しているかはっきりわかっている語を後に続く文では言わないことです。そうすることによって言葉の無駄がなくなり、また、文章としてまとまりが出ます。

また、前の文に出てきた言葉を関連する語で言い換えることがよくあります。これも文章にまとまりを持たせるための一つの手段です。

A 省略されやすい場合

1. 前の文に出てきて、後の文で繰り返しになるとき(省略された語が特定できる場合)

例・少子高齢化が取り上げられるようになって久しい。政策を立てる際にも(少子高齢化を)無視できない。(少子高齢化は)今や時代のキーワードなのである。

2. 前の文と後の文の主題(「～は」などで表される)が同じとき

例・この市はバスが住民の主な移動手段である。さらに(この市は)近隣の町や村からのバス路線も充実している。

・うちの子はM社に珍しい図鑑を送ってもらった。(うちの子は)自分で注文して楽しみに待っていたようだ。

3. 前の文に出てきた言葉を、「は」で受けるとき: 主題化

例・田中氏は1945年の生まれである。(1945年は)日本で戦争が終結した年である。

B 省略されない場合

1. 注目する行為の主体が前の文とは違うとき

例・M社がうちの子に珍しい図鑑を送ってくれた。うちの子は飛び上がって喜んだ。

2. すぐ前の文に出てくるのではなく、少し離れたときや、間に複数の言葉があつて、どの言葉の省略なのかわかりにくいとき

例・A社がB社に製品の部品を注文した。B社は(または、A社は)納入期日に間に合うかどうか心配だった。

3. 前の文に出てきた言葉で、後の文で主題になり、省略すると特定がしにくいとき

例・ここは「ミラノ」という店である。(ここは)昨年オープンしたイタリアンレストランである。イタリアンレストランはこの町に4店あるが、ここが一番雰囲気がいい。



4. 前の文脈で出てきた言葉と同じ言葉だが、指しているものが微妙に違うとき

例・事故に遭った人たちへの精神的ケアが改めて行われた。精神的ケアは今までも取り組まれてきたが、今回の(ケア)は今までとは別の方法によるものだという。

(今までの精神的ケア≠今回の精神的ケア)

5. 前の文が主体の動きを表す文で、次に続く文がその主体が何であることを言う文のとき

(逆の場合は省略できる。)

例・山田氏は先週、生物保護のための国際会議に出席して、日本の生物環境についてスピーチを行った。山田氏は日本の生物保護のトップリーダーである。

【比較】山田氏は日本の生物保護のトップリーダーである。先週、(山田氏は)生物保護のための国際会議に出席して、日本の生物環境についてスピーチを行った。

6. 間にいくつか文が入った後で、話題の中心を示す文が来るとき(省略しない方がわかりやすい。)

例・秋の虫が鳴く季節になった。(秋の虫は)夜になると別れを惜しむかのように激しく鳴く。オスが鳴いているのか。秋の虫はどのようにして季節を知るのだろう。

C 繰り返し・言い換え

1. 前に出てきたのと同じ語、またはその語の一部を繰り返す。

例・前橋市は町並みが整理されていて、文化施設も充実している。周囲の山々の景色も美しい。前橋市は県庁所在地として落ち着いた小都市と言えるが、交通がやや不便なのが難点だ。

・TAK研究所は炭酸ガスを有効利用しようというテーマに取り組もうとしている。研究所はすでに国の補助金を申請し、全国から協力企業を募っている。

2. 前に出てきた語を、関連のある別の言葉(類義語またはその語を含む広い概念の言葉)で言い換える。

例・うちの祖父にグラウンドゴルフに参加しませんかというお誘いが来た。このスポーツはゴルフと同じようにボールとクラブを使ってプレーするもので、お年寄りの間に普及しつつある。

・人類は鳥のように空を飛べないものかと長い間試行錯誤していた。念願がやがて実現した。

練習1 次の文章の下線の言葉を省略できる場合は()で囲みなさい。

- 1 昔、この村に不思議な老人が住んでいた。老人は村人から離れて一人で暮らしていた。
- 2 この論文はデータがあまり新しくないので信頼性に欠ける。また、この論文は引用文献も古い。
- 3 この問題は渡辺さんではなく、山田さんに聞いたほうがいい。渡辺さんは専門外のことだからたぶんわからないだろう。
- 4 先月スウェーデンのストックホルムへ旅行に行った。ストックホルムは古い建物がたくさんあり、絵のような町並みだった。いつかもう一度ストックホルムに行きたい。
- 5 ホールで佐藤氏が新年のあいさつをしている。佐藤氏は先日この病院の理事長に就任したやる気満々の医師である。
- 6 不景気のため、退職を余儀なくされる人が増えている。不景気は、何が原因で、いつまで続くのだろうか。
- 7 桜といえば、現代の日本ではソメイヨシノという江戸時代に開発された品種が代表格である。昔から桜は日本にあったのだが、それはヤマザクラという別の種類の桜のことである。
- 8 もともと秋田県の湖にいた魚が山梨県で見つかった。魚はもちろん泳いでいったわけではない。秋田県の湖には酸性の温泉水が流れ込むので、卵を移したのである。

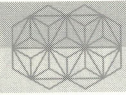
練習2 「a 医学」か「b 病気」か「c 看護」を _____ の上に書きなさい。

医学が未だ進歩せず、① _____ の原因がわからない時代にも薬草などを使った対症療法はあったし、その他に癒しの術としてさまざまなことが行われていました。(略)

このような人間の苦しみを和らげる行為として、単純ではあるが看護と呼ばれる行動が、家族や友人によってなされ、その行為が繰り返し子孫や部落住民にも伝えられてきたものと思われます。このような② _____ の行為は、人の苦しみを何とか和らげたいと願う、いとおしみの心から生じた人間の知恵と経験の産物であります。患者への共感と人をいとおしむ心(compassion)が、一つの業として技(ぎ)をつくったものと想像されます。これが苦しむ人を世話すること、すなわち③ _____ の技、すなわちアートと呼ばれてよいものです。

科学らしい④ _____ のなかった時代にも、ある人の世話のための心のこもった手当てがまず存在し、これにしだいに科学的知識と技術とがつけ加わって、⑤ _____ の体系がつけられました。したがって、⑥ _____ のもともとのその発端は、素朴な⑦ _____、あるいは素人による、または経験者に導かれた家庭看護であったといえましょう。

(日野原重明『医のアート、看護のアート』中央法規出版による)



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨^{しゆし}を踏まえて、【1】から【5】の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

父の仕事の関係で、転勤と転校の繰り返しで大きくなった。

小学校だけで、宇都宮、東京、鹿児島、四国の高松と四回【1】。場数を踏んでいるとはいえ、新しい学校へお目見えにゆく朝は、子供心に気が重かった。

「しっかりご飯を食べてゆけ、空きっ腹だと相手に吞まれるぞ」

朝の食卓で、大きなご飯茶碗を手に、父が演説をする。

「先に【2】。みんなが頭を下げるのを見渡してから、ゆっくりと頭を下げなさい」

いじめられるかどうかは、この一瞬で決まるんだぞ、といいながら、朝刊を持った父がご不_(注)浄に立ってゆく。祖母は、母を突ついて忍び笑いをしながら、

「お父さん、自分のこといってるよ」

「聞こえますよ、おばあちゃん」

【3-a】と一緒に、【3-b】も新しく支店長として乗り込むのである。

母に連れられて学校へゆき、渡り廊下を通して教室へ歩いてゆく。母にはスリッパが出されるが、【4】靴下のまま廊下を歩く。これがいやだった。

「上ばきを持ってくればよかったな」

と思いながら、壁にはり出された図画や習字を横目で見て、字がうまいと少しおびえたりして教室に入る。教壇の横に立って先生の紹介を受け、

「礼！」

という号令で頭を下げあう。

下げてから【5】を思い出すのだが、これは役に立ったためしかなかった。

(向田邦子『父の詫び状』文藝春秋 刊)

(注) 不_ふ浄_{じよう}：トイレ

- | | | | |
|-----------------------------|--------------|-----------|----------|
| 【1】 1 変化した | 2 変化している | 3 変えている | 4 変わっている |
| 【2】 1 お辞儀 ^{じぎ} をしろ | 2 お辞儀をするな | 3 頭を上げるな | 4 頭を上げろ |
| 【3】 1 a 子供たち／b 父 | | 2 a 母／b 父 | |
| | 3 a 父／b 子供たち | 4 a 父／b 母 | |
| 【4】 1 母は | 2 自分たちは | 3 子どもは | 4 みんなは |
| 【5】 1 父のこと | 2 父の演説 | 3 祖母の話 | 4 祖母のこと |

文章としてのまとまりを持たせるために、文体を統一するのが普通です。比較的硬い文章の中で使われる文法形式や語彙は、日常的な会話の中で使われるものとは異なります。また、小説、新聞、論文、メールなど文章の種類によって使われる文体が異なります。

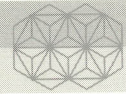
文体 = 文章の種類・場面・目的によって異なる表現形式

A 硬い表現と会話で使う表現

◆ 比較的硬い文章の中に日常会話で使うくだけた言い方が混じると、文体が統一できません。以下のような文法形式に注意しましょう。

(数字は「第1部」の課)

意味	硬い文章で使う表現	日常会話で使う表現
強調	～にあって (1)	～でも・～のときでも
	～すら (17)	～も・～でも
	～だに (17)	～だけでも
手段	～をもって (11)	～で
関連	～いかににかかわらず (5)	～に関係なく
理由・目的	～んがため(に) (11)	～ようと思っ
	～ゆえ(に) (12)	～から
断定	～でなくてなんだろう(か) (18)	絶対に～だ
評価	～極まる・～極まりない (19)	～といたらない (19)
心情・強制的思い	～てやまない (20)	強く～と思う
	～に堪えない (20)	強く～と思う
	～ずにはすまない (20)	必ず～することになる
	～ずにはおかない (20)	必ず～する
	～を禁じえない (20)	強く～と思う
～を余儀なくされる (20)	～しなければならなくなる	



B 客観的な表現と主観的な表現

◆文章の中でも特に硬い論説文や論文は、主観的な表現を用いず客観的な表現で書かれています。

1. 「わたし」や「思う」を多用しない。

例 ? わたしは訓練が必要だと思う。

- 訓練が必要だと思われる。 ～と考えられる・～と言える・～と予想される・
～のではないだろうかなど

2. 恩恵表現・被害表現・主観的な言い方は使わない。

例 ? 前回の野外実験は台風に来られて装置が破損してしまった。しかし、今回は1週間も晴天が続いてくれたおかげで、実験に成功した。

- 前回の野外実験は台風により装置が破損した。しかし、今回は1週間晴天が続いたため、実験に成功した。

3. 話者の心情を表す表現は使わない。

第1部の☆☆や☆☆☆の課にある表現は主観を含むので、論説文ではあまり使われません。また、☆の課にも主観性を含む言い方があるので注意が必要です。

(数字は「第1部」の課)

意味	論説文などで使う客観的な表現	主観的な表現
時間関係☆	～とほぼ同時に	～が早いか (1)
		～なり (1)
	～以来	～てからというもの(は) (1)
関連・無関係☆	～に関係なく	～をものともせず(に) (5)
様子☆	～様子で	～んばかり(に) (6)
		～とばかり(に) (6)

その他「～わけにはいかない・～にきまっている・驚いたことに・～かねる」など話者の心情を表す表現は使わず、できるだけ客観的、中立的な表現を使います。

練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

1 <レポート>

学生^{どうし}同士の入学年度が同じ場合、実年齢差が2歳以内(① a だったら b であれば)、敬語を使用しない傾向が(② a わかった b 認められた)。(③ a 一方 b けれど)、実年齢が5歳以上^{はな}離れた場合、敬語を使用する学生が88%に(④ a のぼった b なってしまった)。^{せだい}5歳という差が世代を分ける基準になっていると(⑤ a 思った b 思われる)。

2 <レポート>

(① a もう b すでに)到来した^{とうらい}高齢^{こうれい}社会において、緊急^{きんきゅう}に高齢者の^{ふくし}福祉を(② a 充実^{じゅうじつ}させなければならない b 充実させずにはいられない)。現在行われている医療費の^{ほじよ}補助や^{かいご}介護制度の^{かくりつ}確立だけでは充実した^{せいさく}福祉政策とは(③ a 言えない b 言うわけにはいかない)。精神面でのケアやコミュニティーの一員としての社会参加の方法などが(④ a 必要でなくてな
んだらう b 必要だと思われる)。

練習2 以下の会話文をレポート文にします。適当な言葉を_____の上書きなさい。

<会話>

妻：あー、また失敗。なかなかうまくできないなあ。

夫：ま、「失敗^{せいこう}は成功のもと」って言うじゃないか。

妻：本当にそうかなあ。わたし、失敗してばかりだよ。

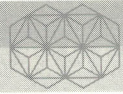
夫：いや、^{のう}脳の働きから言ったら、本当らしいよ。脳には前に間違えた方向を選ばないっていう性質があるんだよ。だから、失敗すると、しないときよりももっと覚えやすくなるんだって。そうそう、それと、命の危険を感じるときって、そうじゃないときより脳がよく働^{はたら}くらしいよ。

妻：え？ どういうこと？

夫：えーと、ちょっと寒いときとか、ちょっとお腹がすいてるときって、食べ物をとったり冬に備^ひえたりしなきゃいけないから、動物の本^{ほん}能^{のう}で脳が働きやすくなるんだって。

<レポート>

「失敗^{せいこう}は成功のもと」^①_____が、これは脳の働きから見ると、正しいことだと言える。脳には前に間違えた方向を選ばないという性質が^②_____、失敗により記憶^{きおく}の定着率^{ていちゃくりつ}が高くなるのである。^③_____、生命に危険を^④_____、そうでないときに比べ、脳の働きが良くなる。これは、^う飢えや冬の寒さに備えなければならないため、^⑤_____脳の働きが^{かつせい}活性化^かするからである。



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、 1 から 5 の中に入る最もよいものを 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

近年の医師不足にはさまざまな原因があると言われる。一つには、医師過剰が予想されて医学部の定員が減ったことがあるだろう。また、医療事故で訴えられるリスクが高く、さらに労働環境も厳しいとされる 1、産婦人科医や小児科医を志す学生が減っている 2。さらに、人手不足により定時に職場を出られないために、子育て中の女性医師の職場復帰が難しいことも一因とされている。

そこで、政府は医学部の定員を増やすと同時に、医師不足解消のための対策費を追加することを決定した。これらの施策が医師不足の解消につながるか 3、医師の労働環境や訴訟リスクの問題が解消されないため、医師不足は 4 深刻化している。そのため、救急患者を受け入れるためのベッドがない、夜間は専門の医師がいないなどの理由で、救急車が受け入れを断られる例も増えている。こうした状況は、今後極めて深刻になると 5、実効性のある対策が求められている。

【1】

- 1 もので
- 3 ものだから

- 2 せいで
- 4 ことから

【2】

- 1 ことを挙げよう
- 3 ことを挙げてみる

- 2 ことが挙げられる
- 4 ことを挙げるだろう

【3】

- 1 と思われたら
- 3 と期待したら

- 2 と思いきや
- 4 と期待されたが

【4】

- 1 ますます
- 3 なかなか

- 2 どんどん
- 4 とても

【5】

- 1 考えていて
- 3 考えられており

- 2 考えられているし
- 4 考えさせられ

12課 **話の流れを考える**

文章をわかりやすくし、さらに文章としてのまとまりを持たせるために、書き手はふつう、文法的な規則のほかに、全体的な話の流れを意識しながら文章を書き進めます。話の進め方には、ある程度典型的なパターンがあります。

◆ 代表的な話の進め方は次のようなものです。

1. **説明** → **詳しい説明(言い換え/例/具体的なデータ)**

- 例・動物は水がなければ生きられません。1日でも水を飲まないでいると、とてもつらく感じるはずで。 (説明→例)
- ・今や携帯電話は若者にとって必需品である。ある調査によると大学生の99%が携帯電話を持っているという。(説明→具体的なデータ)

2. **説明** → **理由**

- 例・今日はどうしても学校を休むわけにはいかない。大事な試験があるからだ。
- ・一部の恐竜には鳥のように羽毛が生えていた。体温を保つ役割をしていたのだ。(理由を表す表現としては「～のだ」「～ため(だ)」「～から(だ)」などがよく使われる。)

3. **問題提起(自己疑問)** → **答え(主張)**

- 例・どうして海の色は青いのでしょうか。実は、青色の光線が水中で広がるのに対し、赤色などは海水に吸収されてしまうのです。
- ・切り花を長持ちさせるにはどうすればいいのだろうか。花が枯れる原因は、花瓶の水の中にばい菌が発生するためである。水を換え、殺菌効果の高い物質を水に入れるなどしてこのばい菌の発生を遅らせれば、花も長持ちするのである。

4. **一般論/事実** → **主張**

- 例・この病気の原因は食生活の乱れだと考えられがちだ。しかし、実はストレスも大きな要因である。
- ・品質が良ければ売上げが伸びるはずだ。にもかかわらず、これが必ずしも真実とは言えない例も多い。
- (一般論の後には、「～が」「しかし」などに続けて、「実は」「実際には」などの表現を使って主張が述べられることが多い。)



5. 他の意見を一応認める → 反論・主張

例・もちろん地球温暖化の防止は科学的な解決が求められる問題です。しかし現実にはそれとともに政治的、経済的な取り組みが欠かせません。

・子供には優しく話すべきだと言われる。確かに一理はある。だが、わたしは相手が子供であろうと、悪いことをしたら遠慮なく厳しく言うことにしている。

(一応認める表現としては、「確かに」「もちろん」などがよく使われる。)

6. その他(組み合わせ)

例 他の意見 → 詳しい説明 → 反論(事実→主張)

例・禁煙できないならば節煙してはどうかと考える人がいる。本数を少なくすればたくさん吸うよりも健康への害が少ないと考えるのである。しかし、あるクリニックの研究によると、一日に40本吸う人が10本に減らしても、健康面では大きな改善は見られなかった。やはりきっぱりとやめなければならないのである。

練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

- 1 酒は薬にもなれば毒にもなる。(a 飲み方を間違っ**て**はいけない b 飲ん**で**はいけない)ということだ。
- 2 他人の感情や痛みを自分のこととして実感するのは容易ではない。(a 自分の家族ですら b 学校の先生ですら)何を**考**えているのか完全に理解することはできない。
- 3 疲れたから**と**いってここでやめるわけには**い**かない。(a 締め切りは明日**な**のだ b やめたい**の**だ)。
- 4 おうむや九官鳥などの鳥は人間の言葉を話すことがありますが、なぜでしょう。鳥は生まれた後、親鳥の鳴き声をまねながら鳴き方を覚えるものなので、人間に飼われている鳥はどの鳥でも人間のまねをします。中でもまねの上手な鳥が(a 話し方をまね**て**います b おうむたちだ**と**いうわけ**で**)。
- 5 人生の壁にぶつかり、そのために自分を変えていくというのは、とても苦しい作業である。しかし一方**で**それは、(a 壁を乗り越えられる**の**である b 世界を広げるための重要な**機**会である)。

練習2 適当なものを選びなさい。

- 1 楽器、外国語、運動……どれも練習しなければ上手にならない。では、練習すればした分だけ必ず上手になると言えるだろうか。()。上手になるようによく考えられた練習をする必要がある。
- a 確かにそう言える
b 残念だがそうは言えない
c 実はその反対である
d やはりそのようである
- 2 異常気象^{きしやう}はもはや国内だけの問題としてとらえてはいけない。()。近年^{きんねん}、世界のあちこちで自然災害^{さいがいの}が起こっているのも異常気象によるものであろう。
- a 世界的な問題である
b 今年の夏も猛暑^{もうしよ}だった
c 環境^{かんきやう}を守るのだ
d 自然災害も問題である
- 3 わが社の全店で年間利用客数は約1億人である。すべてのお客様が1円多く使えば、年間利益^{えき}は1億円上がる。そう考えるときに忘れてはならないのは、()ということだ。そこに経営の厳し^{きび}さがあるとも言える。
- a 1円というお金には大きな価値がない
b 1円というお金でも大きな価値を生み出す
c 1円使う額を減らせば1億円の損失^{そんしつ}になる
d 1億円は個人にとってはとてつもなく大きい
- 4 インターネットや携帯電話^{けいたいでんわ}は確かに便利だ。こうしたメディアの発達により、これまでなかなか得ることのできなかつた多くの情報が得られるようになった。しかし、それに時間^{とき}を割くことによって、体験^{たいけん}しなければ得られない、においや感触^{かんしよく}などの情報や経験といったものは()とも言えよう。
- a 必要なくなっているのだ
b 得る機会が減っているのだ
c 重要度を増しているのだ
d 手軽^{てがる}に得られるようになったのだ



【まとめ】 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、【1】から【5】の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

日本のサラリーマンが会社に忠誠心を示すのは、そうやって振る舞うことが日本の社会において最も適応した行動であるからに他ならない——【1】、会社に対して忠誠心を示したほうが何かとトクをするから、そうしているだけにすぎない。だから、日本人は会社人間になったというわけです。

戦後長らく続いた終身雇用制度の下では、日本のサラリーマンはアメリカ人のように転職によってキャリアアップすることが事実上、不可能だったので、出世しようとするのであれば、自分が今現在、属している会社での評価を上げることしかありませんでした。

【2】、いつまでも会社から帰らずに残業していたほうが、会社にアピールできるというものだし、休日返上で働いたほうが上司の評価も高くなるというものです。だからこそ、日本のサラリーマンたちは【3】を選択した——こう考えるのが、最も現実的な解釈だと言えるでしょう。

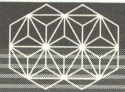
江戸時代の武士たちが滅私奉公であったというのも、【4】。「転職」がいくらでもできた戦国時代とは違って、江戸時代では主君を替えるわけにはいきません。子どもや孫の代までも同じ殿様に仕えることになるのですから、常日頃から忠義ぶりを示していたほうが得策だった。

【5】、江戸時代の武士たちはお家大事、殿様大事で働いていたというわけです。

(山岸俊男『日本の「安心」はなぜ、消えたのか』集英社インターナショナルによる)

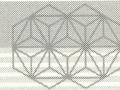
- | | |
|-------------------|----------------|
| 【1】 1 分かりやすく言うならば | 2 一例をあげれば |
| 3 逆の見方をすれば | 4 確かにそう言えるのだが |
| 【2】 1 言い換えれば | 2 そのためには |
| 3 なぜかというと | 4 そのようなわけで |
| 【3】 1 残業をやめること | 2 キャリアアップをすること |
| 3 会社人間であること | 4 転職を考慮すること |
| 【4】 1 実は別の理由があります | 2 結局は同じ理由です |
| 3 事実なのです | 4 事実とは言えないのです |
| 【5】 1 つまり | 2 なぜなら |
| | 3 確かに |
| | 4 だからこそ |

模擬試験



問題1 次の文の()に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

- 1 出世のため()どんなことでもするという人たちがいるのだ。
1 とあれば 2 とあって 3 にすれば 4 にあって
- 2 個人的な利害関係で市政を行^し政を行^せった前の市長()、今度の市長は住民との話し合いをモットーにしている。
1 に並んで 2 に照らして 3 にひきかえ 4 にもまして
- 3 彼の立腹^{りっぷく}の原因が何なの()、全く理解できなかつた。
1 とて 2 とも 3 とか 4 やら
- 4 学生に人気のこの食堂は、毎日昼時()、学生でいっぱいになる。
1 ならでは 2 ともなると 3 をもって 4 となつては
- 5 彼が出場していれば、優勝()、1勝ぐらいはできただろう。
1 いかんにかかわらず 2 もさることながら
3 とはいかないまでも 4 はもとより
- 6 ミカは周りの子にどんな悪口を()、じつと耐^たえた。
1 言わせようにも 2 言われようにも
3 言わせようが 4 言われようが
- 7 A「例の件、勇気をもって社長に言ってみたらあっさり受け入れてくれましたよ。」
B「そうですか。()ですね。」
1 言ってみるもの 2 言ってみたもの
3 言ってみるところ 4 言ってみたところ
- 8 恐れ入りますが、この修理は当店ではお引き受け()。
1 するべくありません 2 するものでもありません
3 いたしかねます 4 しかねないのです



9 他人を()、本当の幸せはやってこないと思う。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 うらやまんばかりのようでは | 2 うらやんでばかりいるようでは |
| 3 うらやまんばかりだとしたても | 4 うらやんでばかりいるとしたても |

10 A「すみません。お皿を落としてしまって……。」

B「大丈夫。この皿は割れるべくして()。気にしないで。」

- | | |
|------------|--------------|
| 1 割れたんですよ | 2 割れていますよ |
| 3 割れていませんよ | 4 割れそうもないですよ |



問題2 次の文の★に入る最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

11 それなりの _____ ★ _____ 発言できないのだ。

- 1 軽々しく かるがる 2 かえって 3 こそ 4 知識があれば

12 彼は期待される新人だが、今日の _____ ★ _____ ようだ。

- 1 出来ではなかった 2 聴衆の ちようしゆう 3 満足に足る 4 演奏は えんそう

13 この作品は _____ ★ _____ ものがない。

- 1 よくできている 2 心に響く ひび 3 技術的に 4 とはいえ

14 黙だまっていたれば _____ ★ _____ ために大騒おおさわぎになった。

- 1 一言 2 ものを 3 口に出した 4 よかった

15 このショールは _____ ★ _____ とてもいい。

- 1 色が 2 材質ざいしつも 3 鮮あざやかで 4 さることながら



問題3 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、**16** から **20** の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

顔をめぐって、このような心理学的に興味深い話がある。

高校や中学を卒業して以来の久しぶりの同窓会に **16**。あなたは列席者の中に長い間見えていない友人たちの姿を発見できるだろうか。

顔の記憶がどのくらい鮮明に持続するかを調べる実験が、アメリカの心理学者ブラックたちによって行われている。高校卒業後25年会っていない同級生の最近の顔写真を、昔の写真と **17** を調べたのだ。実験の結果、同級生どうしであれば昔の顔を正確に言い当てられることがわかった。 **18** これが当て推量でないことを確認するため、同級生でなかった人にも、挑戦してもらった。相手が同級生でないと、写真の照合成績はずっと低かったのである。

19 もある。大人になって知り合った友人の、子どもの頃のアルバムを見せてもらう。見たことのない子ども時代の友人の顔を、言い当てることはできるだろうか。

心理学者の真覚^{まさとめ}は大学生に、幼稚園時代の顔を **20** 実験を行った。顔見知りのクラスメートと見知らぬ学生の、子どもの頃の写真と現在の写真を照合させるのだ。実験の結果は、ブラックたちの実験と同じであった。クラスメートの子ども時代は簡単に言い当てることができたが、知らない人の子ども時代の顔は当てられなかったのだ。

(山口真美『赤ちゃんは顔をよむ』紀伊國屋書店による)

16

- 1 出席したとする
- 3 出席してみよう

- 2 出席したときのことだ
- 4 出席したのである

17

- 1 照合するかどうか
- 3 どうやって照合するか

- 2 照合できるかどうか
- 4 だれが照合できるか

18

- 1 もしくは
- 2 こうして

- 3 したがって
- 4 さらに

19

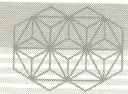
- 1 このこと
- 2 そのこと

- 3 こんなこと
- 4 そんなこと

20

- 1 当てられる
- 2 当てさせてもらう

- 3 当てさせる
- 4 当てさせられる



問題3 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、 から の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

願いを持つのはいいことだ。しかし、 人間は計画を練ったり、努力を積み重ねたりしなければならない。それでもなお失敗することもある。ところが、それほど努力せずとも、幸運に恵まれる、ということがあるのも事実である。あるいは逆に、悪運に見舞われるということもある。

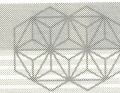
割り切って言うと、人間の能力や努力による面と、人間の力を超えた面の両面が、人間の願望の充足にかかわってくる。ここでまた極端に割り切った考えをすると、前者には科学技術がかかわってくるのに対して、後者は宗教の領域がかかわってくると 。

科学技術が急激に発展してきたために、人間は相当な願望を満足させることができるようになった。空を飛んだり、真冬にイチゴを食べたり、夏でも涼しい空間をつくったり、かつては神様か魔法に頼るより仕方がなかったことを、人間は自分の力でやり抜くようになった。神様は頼んでもそのとおりに 怪しいものだが、科学技術は頼りがいがあるというので、近年はだんだん宗教の旗色が悪くなってきた。

しかし、これほど有効な科学技術にも不可能なことはある。まず第一に、それを有効に使う財力や能力のないときは何の役にも立たない。次に、人の心は科学技術ではどうともならない。自分の子どもを願いどおりの子にしたり、恋人の心を自分の意のままにしたりはできないし、そもそも の心さえ のままにならない。

、人間の願望には、自分を超えたものや力の存在を信じたい、ということも生じてくる。しかし、これは厄介なものである。ちょっとやそっと考えたり、調べたりしたくらいではなかなかわからない(略)。

(河合隼雄『縦糸横糸』新潮文庫刊)



16

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 その達成ゆえに | 2 その達成のためには |
| 3 その願望のためなら | 4 その願望ゆえに |

17

- | | |
|--------|---------|
| 1 言う | 2 言える |
| 3 言われる | 4 言っている |

18

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 してくれるか | 2 してあげるか |
| 3 させてもらうか | 4 させてあげるか |

19

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 a 人 / b 人 | 2 a 人 / b 自分 |
| 3 a 自分 / b 自分 | 4 a 自分 / b 人 |

20

- | | |
|-----------|------------|
| 1 そんなわけで | 2 そういうことでは |
| 3 そうでなければ | 4 そうだとしても |

あ	
～あつての	77, 114, 116
い	
～いかんだ	26, 100
～いかにかわらず	26
～いかによらず	26, 100
～いかんを <small>と</small> 問わず	26
う	
～(よ)うが	46, 100
～(よ)うが～まいが	46, 100, 104
～(よ)うと(も)	46
～(よ)うと～まいと	46
～(よ)うにも～ない	58, 104, 112
か	
～かぎりだ	85
～かたがた	34
～かたわら	34
～がてら	34
～が <small>はや</small> 早い <small>か</small>	8, 108, 116
～からある	77, 112, 114
～からする	77
～からの	77
～かれ…かれ	104
き	
～きらいがある	31, 108
～極 <small>ま</small> まりない	85
～極 <small>ま</small> まる	85
く	
～くらいなら	43, 116
こ	
～ごとき	100
～ごとく	100
し	
～始 <small>しま</small> 末 <small>つ</small> だ	71, 108

す	
～ずにはおかない	89
～ずにはすまない	88, 100
～すら	76, 106
そ	
～そばから	9, 108
た	
～たが <small>さいご</small> 最後	42, 108
～たところ <small>で</small>	47, 102, 108, 112
～だに	76, 106, 112
～たら <small>さいご</small> 最後	42, 108
～たら～た <small>で</small>	47, 104
～たりとも…ない	76, 100, 112
～たるもの(は)	63, 100, 116
つ	
～つ…つ	104
～つばなしだ	71, 108
て	
～であれ	46, 112
～であれ…であれ	20, 104
～であろうと	46, 112
～であろうと…であろうと	20, 104
～てからというもの(は)	9, 102
～でなくてなんだろう(か)	81, 116
～ではあるまいし	53, 100, 116
～て(は)いられない	58, 108
～てはかなわない	98
～ては…、～ては…	104
～てはばからない	98
～手 <small>て</small> 前 <small>まえ</small>	53
～てやまない	88, 108

と	
～と相 ^{あい} まつて	94
～とあつて	52, 108
～とあれば	42
～といい…といい	21, 104, 108
～というもの(は)	102, 112
～といえども	37
～といったところだ	13, 102, 112
～といたらない	84
～といわず…といわず	21, 104, 108
～と思 ^{おも} いきや	37, 108
～ときたら	62, 108, 116
～ところを	36, 102
～とて	106
～とは	85, 108
～とはいえ	36, 108
～とばかり(に)	30, 108
～ともあろう	63, 114
～ともなく	30, 112, 116
～ともなしに	30
～ともなると	62, 108, 116
～ともなれば	62
な	
～ないではおかない	89
～ないではすまない	88
～ないまでも	67
～ないものでもない	102
～ながらに(して)	31
～なくして(は)	43
～なしでは	43
～なしに(は)	43, 112, 116
～ならいざしらず	27, 100, 108, 116
～なら～で	47
～ならでは	16, 108, 116
～なり	8, 108, 116
～なり…なり	20, 104, 108

～なりに	63
に	
～にあつて	9
～に至 ^{いた} つて	70, 98, 116
～に至 ^{いた} つては	70, 98, 108
～に至 ^{いた} つても	70
～に至 ^{いた} るまで	12, 98, 116
～にかかわる	95, 114
～にかこつけて	94
～にかたくない	58, 116
～にかまけて	94
～にしたところで	102, 112
～にして①	77, 106
～にして②	106
～に忍 ^{しの} びない	98
～に即 ^{そく} して	94
～に堪 ^た えない①	84, 116
～に堪 ^た えない②	88, 108
～に堪 ^た える	84, 116
～に足 ^た る	84, 116
～にて	106
～に照 ^て らして	94
～にとどまらず	16, 100
～に～ない	58, 104, 112, 116
～に則 ^{のつと} つて	95
～には当 ^あ たらない	81, 98, 116
～に恥 ^は じない	98
～にひきかえ	66, 94, 116
～にまつわる	95
～にもまして	66, 112, 116
の	
～の至 ^{いた} りだ	98

は

～はおろか	17, 108, 116
～ばこそ	52, 106
～ばそれまでだ	81
～ば～で	47, 104

へ

～べからざる	59, 114
～べからず	59, 100, 116
～べく	50, 100, 116
～べくして～	100
～べくもない	59, 100, 116

ま

～まじき	59, 100, 114, 116
～までだ	80, 116
～までのことだ	80
～までもない	80, 116

も

～もさることながら	17, 116
～もの ^{おも} と思う	102
～もの ^{おも} と思われる	102
～ものを	36, 102, 108

や

～や	8
～や ^{いな} 否や	8, 108, 116
～やら	106

ゆ

～ゆえ(に)	53
--------	----

よ

～ようが	46, 100
～ようが～まいが	46, 100, 104
～ようでは	42, 108
～ようと～まいと	46
～ようとも	46
～ようにも～ない	58, 104, 112
～より	106

を

～をいいことに	102
～をおいて	16, 108, 112, 116
～をおして	94
～を ^{かぎ} 限りに	13, 116

～をかねて	94
-------	----

～を ^{かわき} 皮切りとして	12
--------------------------	----

～を ^{かわき} 皮切りに(して)	12, 108, 116
----------------------------	--------------

～を ^{きんえ} 禁じ得ない	89, 98, 108
-------------------------	-------------

～をひかえて	95
--------	----

～を ^ふ 踏まえて	95
----------------------	----

～を ^へ 経て	95
--------------------	----

～をもって①	13, 106, 116
--------	--------------

～をもって②	50, 106
--------	---------

～をものともせず(に)	27, 100, 108, 116
-------------	-------------------

～を ^{よぎ} 余儀なくさせる	89, 108
--------------------------	---------

～を ^{よぎ} 余儀なくされる	89, 108
--------------------------	---------

～をよそに	27, 108, 116
-------	--------------

ん

～んがため(に)	50, 100, 108
----------	--------------

～んばかりだ	30, 100
--------	---------

著者

友松悦子 拓殖大学留学生別科 非常勤講師
福島佐知 拓殖大学留学生別科、東京外国語大学留学生日本語教育センター 非常勤講師
中村かおり 拓殖大学留学生別科、東京大学日本語教育センター 非常勤講師

装丁・本文デザイン
糟谷一穂

しんかんぜん ぶんぼう にほんごのうりよくしけん
新完全マスター文法 日本語能力試験N1

2011年6月20日 初版第1刷発行
2012年2月20日 第3刷発行

著者 ともまつえつこ ふくしまさち なかむら
友松悦子 福島佐知 中村かおり
発行者 小林卓爾
発行 株式会社 スリーエーネットワーク
〒102-0083 東京都千代田区麴町3丁目4番
トラスティ麴町ビル2F
電話 営業 03 (5275) 2722
編集 03 (5275) 2725
<http://www.3anet.co.jp/>
印刷 萩原印刷株式会社

ISBN978-4-88319-564-0 C0081

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

本書の全部または一部を無断で複写複製（コピー）することは著作権法上での例外を除き、禁じられています。

日本語能力試験対策なら 新完全マスターシリーズ

- ◆ 新完全マスター漢字
日本語能力試験 N1
1,260 円
〔ISBN978-4-88319-546-6〕



- ◆ 新完全マスター漢字
日本語能力試験 N2
CD 付 1,470 円
〔ISBN978-4-88319-547-3〕



- ◆ 新完全マスター語彙
日本語能力試験 N1
1,260 円
〔ISBN978-4-88319-573-2〕



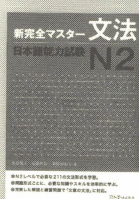
- ◆ 新完全マスター語彙
日本語能力試験 N2
1,260 円
〔ISBN978-4-88319-574-9〕



- ◆ 新完全マスター文法
日本語能力試験 N1
1,260 円
〔ISBN978-4-88319-564-0〕



- ◆ 新完全マスター文法
日本語能力試験 N2
1,260 円
〔ISBN978-4-88319-565-7〕



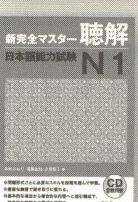
- ◆ 新完全マスター読解
日本語能力試験 N1
1,470 円
〔ISBN978-4-88319-571-8〕



- ◆ 新完全マスター読解
日本語能力試験 N2
1,470 円
〔ISBN978-4-88319-572-5〕



- ◆ 新完全マスター聴解
日本語能力試験 N1
CD 付 1,680 円
〔ISBN978-4-88319-566-4〕

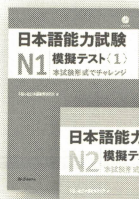


- ◆ 新完全マスター聴解
日本語能力試験 N2
CD 付 1,680 円
〔ISBN978-4-88319-567-1〕

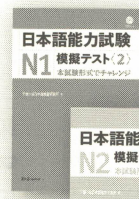


日本語能力試験模擬テスト

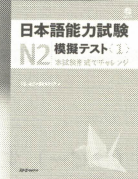
- 日本語能力試験 N1
模擬テスト〈1〉
CD 付 945 円
〔ISBN978-4-88319-556-5〕



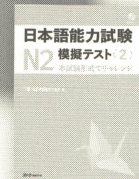
- 日本語能力試験 N1
模擬テスト〈2〉
CD 付 945 円
〔ISBN978-4-88319-575-6〕



- 日本語能力試験 N2
模擬テスト〈1〉
CD 付 945 円
〔ISBN978-4-88319-557-2〕



- 日本語能力試験 N2
模擬テスト〈2〉
CD 付 945 円
〔ISBN978-4-88319-576-3〕



スリーエーネットワーク

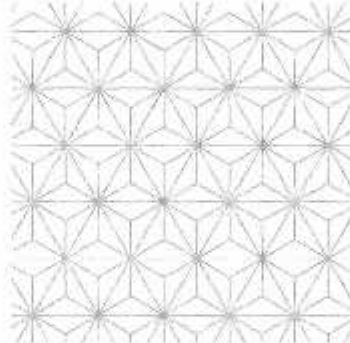
<http://www.3anet.co.jp/>

営業広報部 sales@3anet.co.jp
102-0083

東京都千代田区麹町 3 丁目 4 番トラスティ麹町ビル 2F

※価格は税込みです

新完全マスター **文法**



日本語能力試験 **N1**



9784883195640



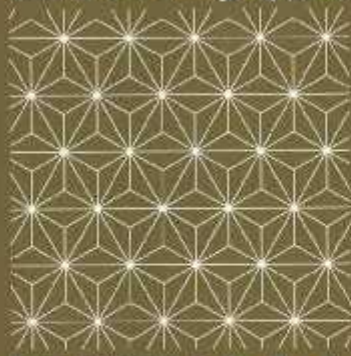
1920081012008

ISBN978-4-88319-564-0

C0081 ¥1200E

定価: 本体1200円 + 税

新完全マスター 文法



日本語能力試験 **N1**